

# 中原区区民アンケート

## 報 告 書

平成28年9月

川崎市中原区



## I 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 調査の項目	1
4. 回収状況	1
5. この報告書の見方	2
6. 回答者の属性	3

## II 調査結果の詳細

### 1. 区民の定住性

(1) 居住年数	9
(2) 以前の居住場所	12
(3) 定住意向	14
(4) 定住したい理由	17
(5) 転出したい理由	20

### 2. 生活環境評価

(1) 生活環境の満足度	21
(2) 生活環境全体の満足度	28
(3) 住みよい環境についての意識	31

### 3. 区役所業務の評価・区のイメージ

(1) 満足している区役所の業務	34
(2) 力を入れてほしい区役所の業務	37
(3) 中原区のイメージ	40

### 4. 中原区役所の広報

(1) 行政・地域情報の入手方法	44
(2) 充実してほしい行政・地域情報の提供方法	48
(3) 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況	51
(4) 充実してほしい行政・地域情報の種類	54

### 5. 中原区役所の環境

(1) 中原区役所の利用頻度	57
(2) 中原区役所の環境・設備の満足度	60

# 目次

---

<b>6. 地域包括ケアシステム</b>	
(1) 「地域包括ケアシステム」の認知度	64
(2) 「地域包括ケアシステム」がすべての住民を対象としていることの認知度	67
(3) 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと	70
<b>7. 健康づくり支援</b>	
(1) 健康づくりを推進するための区の取り組み	73
<b>8. 子育て支援</b>	
(1) 子育て支援の情報提供に有効だと思う方法	76
(2) 子育ての経験の有無	79
(3) 利用したことがある子育て支援サービス	81
<b>9. 動物の適正飼育</b>	
(1) 犬の飼育状況	84
(2) 飼い犬の登録義務の認知度・登録状況	87
(3) 年1回の狂犬病予防注射接種義務の認知度・接種状況	88
(4) 猫の飼育状況	89
(5) 飼い猫の室内飼いの実施状況	92
<b>10. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催</b>	
(1) 区内の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があることの認知度	93
(2) ホストタウンとしての取り組みが地域に与える影響として期待すること	96
(3) 東京大会の開催について今後知りたいこと	99
(4) 東京大会に対しての関わり方	102
(5) 東京大会に向けて力を入れていくべき分野	104
(6) 東京大会に向けた外国人観光客の増加傾向に対する区の取り組み	106
<b>Ⅲ 質問と回答</b>	109

# I 調査概要



## 1. 調査の目的

この調査は、区政に対する区民の意識、要望を、地域特性を踏まえて多面的に調査を行うことで明らかにし、調査結果を区政運営や地域課題の解決に係る基礎資料として活用することを目的として実施した。

## 2. 調査の方法

- (1) 調査地域 川崎市中原区全域
- (2) 調査対象 区内に在住する満18歳以上の男女（外国籍の区民を含む）
- (3) 標本数 2,000サンプル
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳に基づく単純無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成28年5月13日（金）～5月30日（月）
- (7) 調査委託機関 株式会社エスピー研

## 3. 調査の項目

- (1) 区民の定住性
- (2) 生活環境評価
- (3) 区役所業務の評価・区のイメージ
- (4) 中原区役所の広報
- (5) 中原区役所の環境
- (6) 地域包括ケアシステム
- (7) 健康づくり支援
- (8) 子育て支援
- (9) 動物の適正飼育
- (10) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

## 4. 回収状況

- (1) 調査票配布数 2,000
- (2) 有効回収数 977（有効回収率 48.9%）

## 5. この報告書の見方

- (1) 図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。
- (2) 回答の比率（%）は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つだけ回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。また、選択肢の中から複数の回答を選ぶ質問では、すべての選択肢の比率を合計すると通常100.0%を超える。
- (3) クロス集計による分析では、分析項目となる質問に無回答であった回答票も有効として扱い、全体の集計結果に含めている。しかし、分析項目となる質問に無回答であったものについてのクロス集計結果は、図表では割愛している。したがって、クロス集計の図表で示している属性すべてのnを合計しても、全体のnには必ずしも一致しない。
- (4) クロス集計による分析では、属性によってはnの値が小さい場合があり、原則としてnが10以下の属性については、比率のみかけ上顕著な違いがみられる場合であっても、図表の説明文中ではふれていない。
- (5) 今回調査と、平成14年および平成5年に実施した「中原区区民意識調査」との共通の質問については、調査結果の比較を行った。なお、一部の質問では、平成5年の調査結果について、回答の比率を、小数点以下を四捨五入して整数で示した部分がある。
- (6) この調査は標本調査を行ったため、集計結果には標本誤差が生じる。単純無作為抽出法における標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）および回答比率（P）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差      N=母集団  
 n=比率算出の基数（サンプル数）  
 P=回答比率

Nはnに対して非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$  とみなすことができるので、比率算出の基数（n）および回答比率（P）による標本誤差は、以下の早見表のように求められる。

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
977	±1.92	±2.56	±2.93	±3.13	± 3.20
800	±2.12	±2.83	±3.24	±3.46	± 3.54
500	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	± 4.47
300	±3.46	±4.62	±5.29	±5.66	± 5.77
200	±4.24	±5.66	±6.48	±6.93	± 7.07
100	±6.00	±8.00	±9.17	±9.80	±10.00

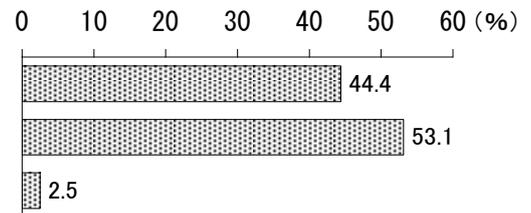
この早見表の見方は以下のとおりである。

例えば、ある設問の回答者数が977人で、設問中のある選択肢の回答比率が30%であった場合、回答比率の標本誤差の範囲は最高でも±2.93%以内、すなわち27.07～32.93%の範囲にあるとみることができる。

## 6. 回答者の属性

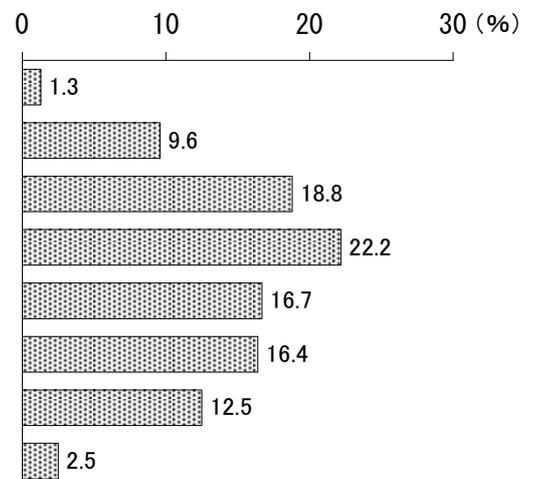
### (1) 性別

	基数	構成比
1 男性	434	44.4%
2 女性	519	53.1
(無回答)	24	2.5
合 計	977	100.0



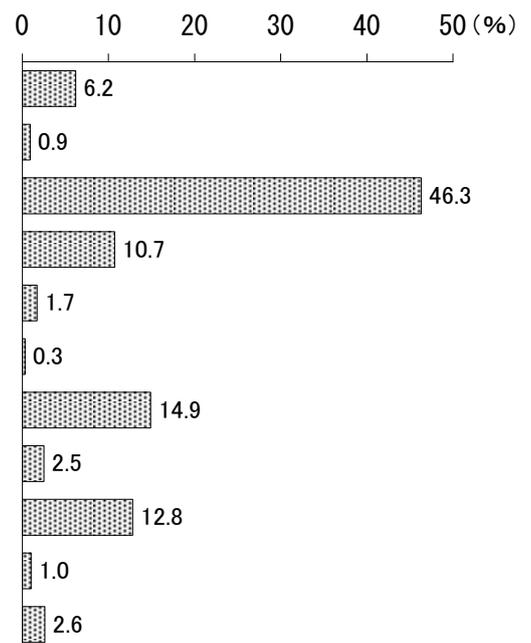
### (2) 年代

	基数	構成比
1 18～19歳	13	1.3%
2 20～29歳	94	9.6
3 30～39歳	184	18.8
4 40～49歳	217	22.2
5 50～59歳	163	16.7
6 60～69歳	160	16.4
7 70歳以上	122	12.5
(無回答)	24	2.5
合 計	977	100.0

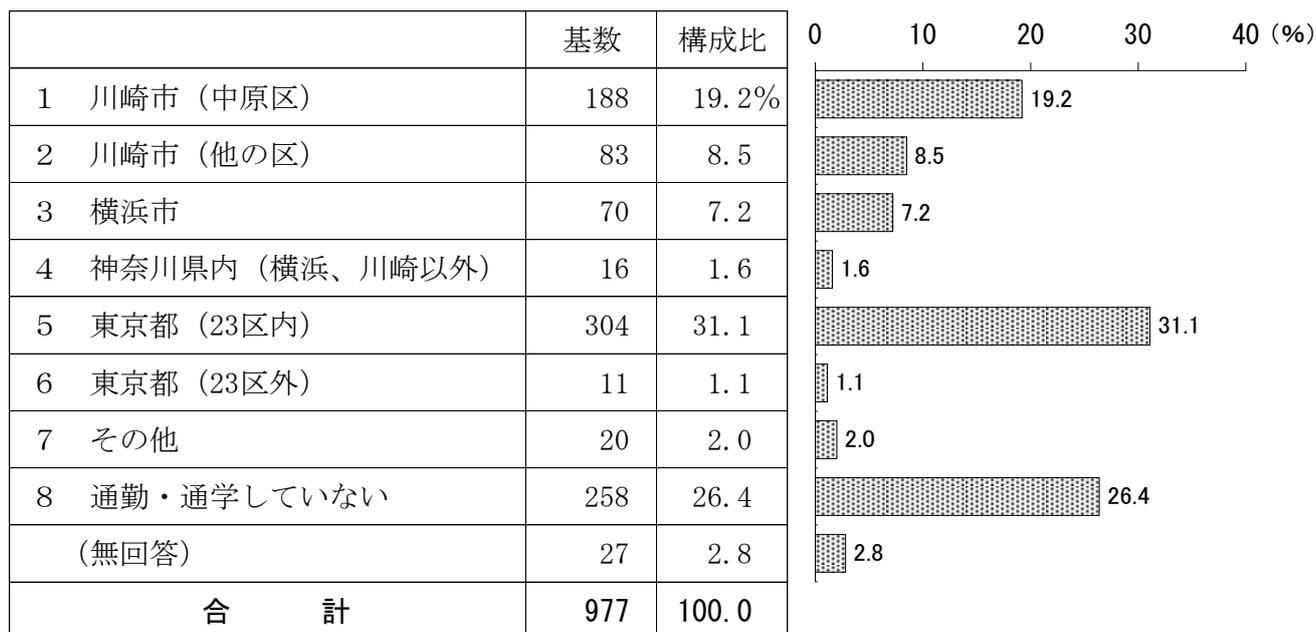


### (3) 職業

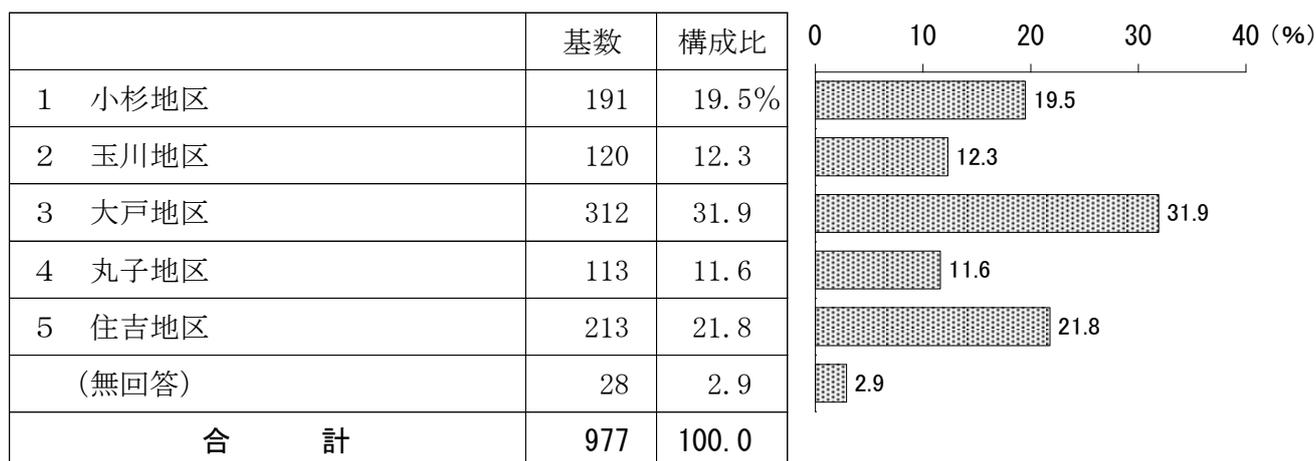
	基数	構成比
1 自営業	61	6.2%
2 家族従業 (家事手伝い)	9	0.9
3 勤め (全日)	452	46.3
4 勤め (パートタイム)	105	10.7
5 フリーアルバイト	17	1.7
6 内職	3	0.3
7 専業主婦	146	14.9
8 学生	24	2.5
9 無職	125	12.8
10 その他	10	1.0
(無回答)	25	2.6
合 計	977	100.0



(4) 通勤・通学先



(5) 居住地区 (※)

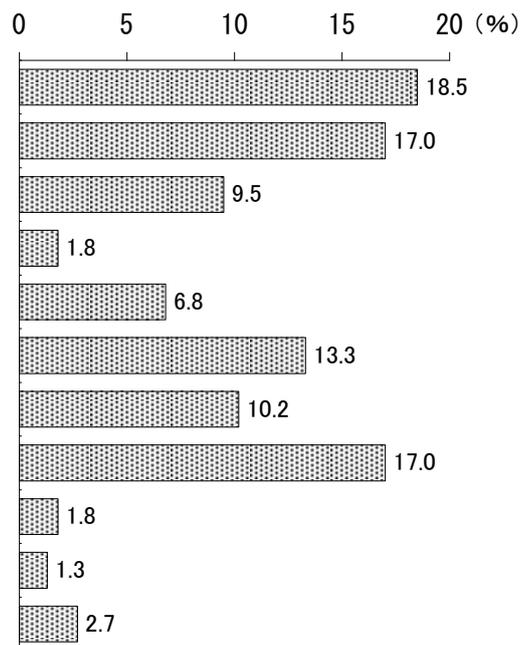


(※) 居住地区の分類

地区名	町 丁 名
小杉地区	市ノ坪、今井上町、今井仲町、今井西町、今井南町、小杉、小杉御殿町1・2丁目、小杉陣屋町1・2丁目、小杉町1～3丁目、等々力
玉川地区	上平間、北谷町、下沼部、田尻町、中丸子
大戸地区	上小田中1～7丁目、上新城1・2丁目、下小田中1～6丁目、下新城1～3丁目、新城、新城1～5丁目、新城中町、宮内1～4丁目
丸子地区	上丸子、上丸子山王町1・2丁目、上丸子天神町、上丸子八幡町、新丸子東1～3丁目、新丸子町、丸子通1・2丁目
住吉地区	井田1～3丁目、井田三舞町、井田杉山町、井田中ノ町、大倉町、荻宿、木月1～4丁目、木月伊勢町、木月祇園町、木月住吉町、木月大町、西加瀬

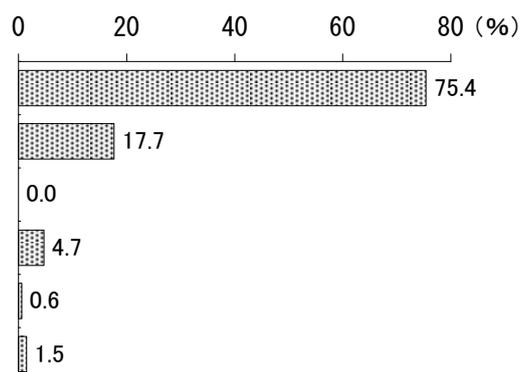
(6) 最寄り駅

	基数	構成比
1 JR武蔵小杉	181	18.5%
2 JR武蔵中原	166	17.0
3 JR武蔵新城	93	9.5
4 JR向河原	18	1.8
5 JR平間	66	6.8
6 東急武蔵小杉	130	13.3
7 東急新丸子	100	10.2
8 東急元住吉	166	17.0
9 東急日吉	18	1.8
10 その他	13	1.3
(無回答)	26	2.7
合計	977	100.0



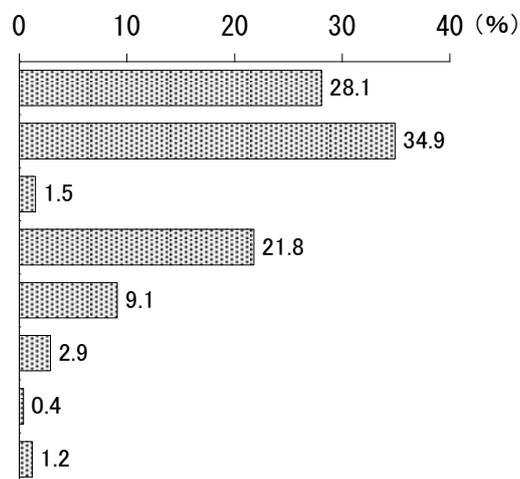
(7) 最寄り駅までの交通手段

	基数	構成比
1 徒歩のみ	737	75.4%
2 自転車で	173	17.7
3 バイクで	0	0.0
4 バスで	46	4.7
5 車で	6	0.6
(無回答)	15	1.5
合計	977	100.0



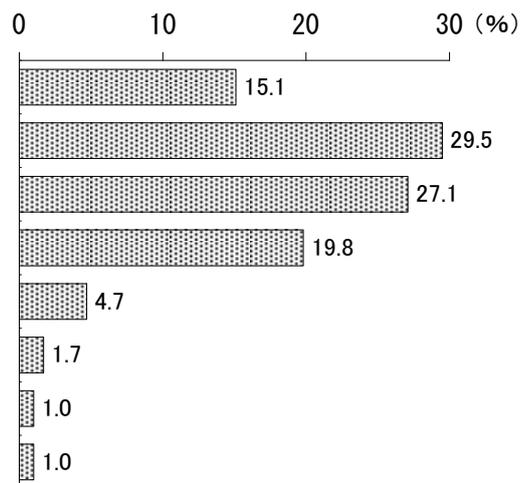
(8) 居住形態

	基数	構成比
1 持家(一戸建)	275	28.1%
2 持家(マンション・団地)	341	34.9
3 借家(一戸建)	15	1.5
4 借家(マンション・団地)	213	21.8
5 民間アパート	89	9.1
6 社宅・寮・公務員住宅	28	2.9
7 その他	4	0.4
(無回答)	12	1.2
合計	977	100.0



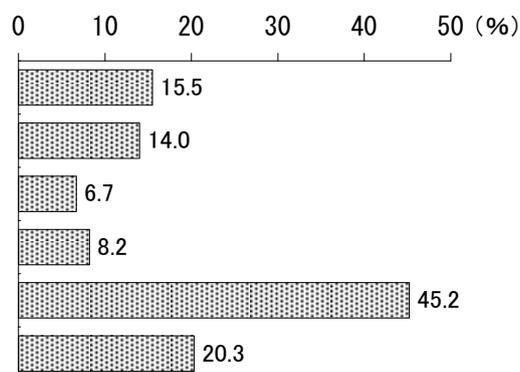
(9) 家族人数

	基数	構成比
1 1人	148	15.1%
2 2人	288	29.5
3 3人	265	27.1
4 4人	193	19.8
5 5人	46	4.7
6 6人	17	1.7
7 7人以上	10	1.0
(無回答)	10	1.0
合計	977	100.0



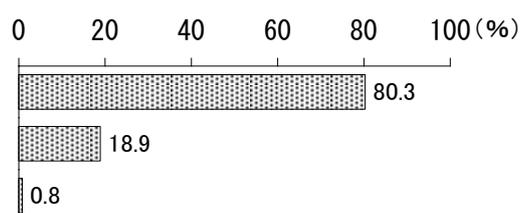
(9-1) 高校生以下の家族との同居 (複数回答、(9)で「2人」～「7人以上」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 未就学児	127	15.5%
2 小学生	115	14.0
3 中学生	55	6.7
4 高校生	67	8.2
5 いない	370	45.2
(無回答)	166	20.3
合計	819	100.0



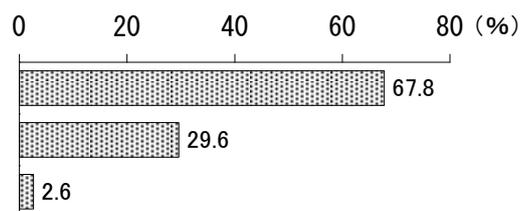
(9-2) 同居している未就学児の人数 ((9-1)で「未就学児」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	102	80.3%
2 2人	24	18.9
3 3人	1	0.8
合計	127	100.0



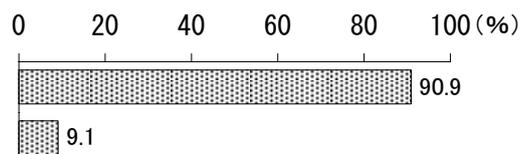
(9-3) 同居している小学生の人数 ((9-1)で「小学生」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	78	67.8%
2 2人	34	29.6
3 3人	3	2.6
合計	115	100.0



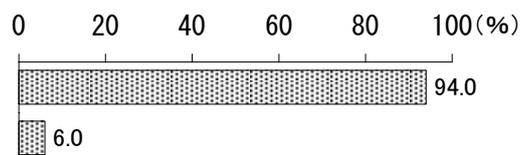
(9-4) 同居している中学生の人数 ((9-1) で「中学生」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	50	90.9%
2 2人	5	9.1
合計	55	100.0



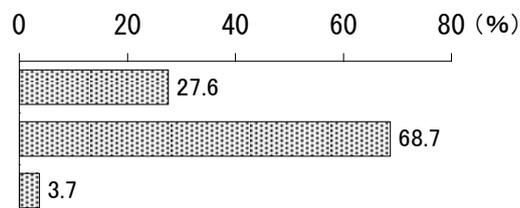
(9-5) 同居している高校生の人数 ((9-1) で「高校生」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 1人	63	94.0%
2 2人	4	6.0
合計	67	100.0



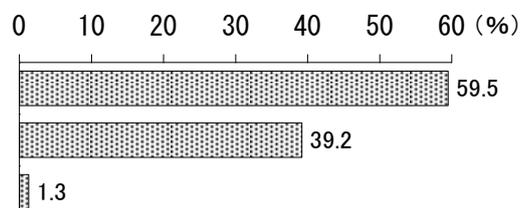
(9-6) 65歳以上の家族との同居 ((9) で「2人」～「7人以上」と回答した方に対する質問)

	基数	構成比
1 はい	226	27.6%
2 いいえ	563	68.7
(無回答)	30	3.7
合計	819	100.0



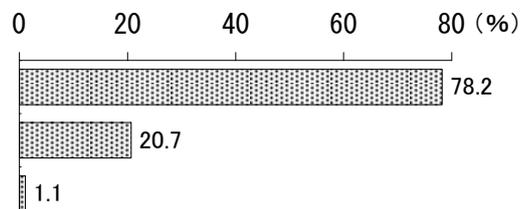
(10) 町内会・自治会の加入状況

	基数	構成比
1 はい	581	59.5%
2 いいえ	383	39.2
(無回答)	13	1.3
合計	977	100.0



(11) インターネットの利用状況

	基数	構成比
1 はい	764	78.2%
2 いいえ	202	20.7
(無回答)	11	1.1
合計	977	100.0





## Ⅱ 調査結果の詳細



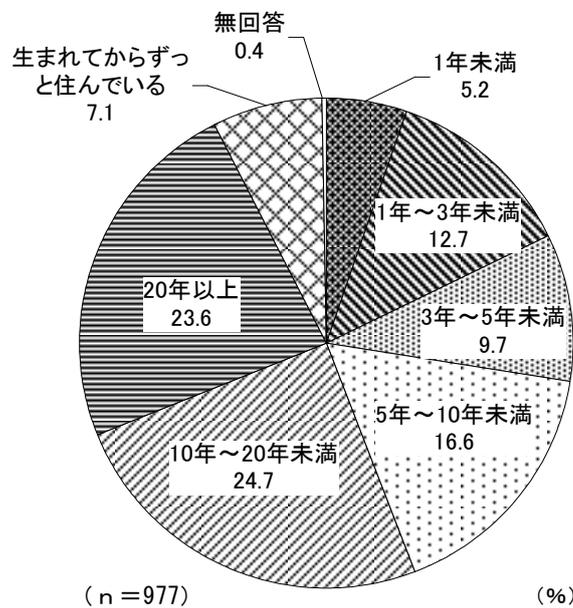
# 1. 区民の定住性

## (1) 居住年数

問1 今の所にお住みになって何年になりますか。(〇は1つだけ)

居住年数を聞いたところ、「5年～10年未満」(16.6%)と「10年～20年未満」(24.7%)の2つを合わせた『中期居住者』(41.3%)が4割を超えて高くなっている。「1年未満」(5.2%)と「1年～3年未満」(12.7%)、「3年～5年未満」(9.7%)の3つを合わせた『短期居住者』(27.6%)は3割近くで、「20年以上」(23.6%)と「生まれてからずっと住んでいる」(7.1%)の2つを合わせた『長期居住者』(30.7%)は約3割となっている。(図表1-1-1)

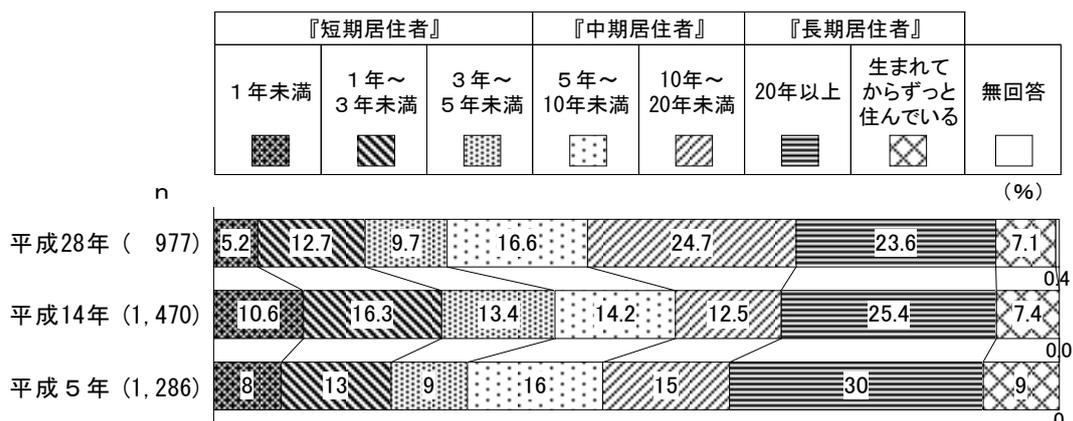
図表1-1-1 居住年数



過去の調査と比較すると、『中期居住者』(41.3%)は平成14年(26.7%)より14.6ポイント増加している。一方、『短期居住者』(27.6%)は平成14年(40.3%)より12.7ポイント減少している。

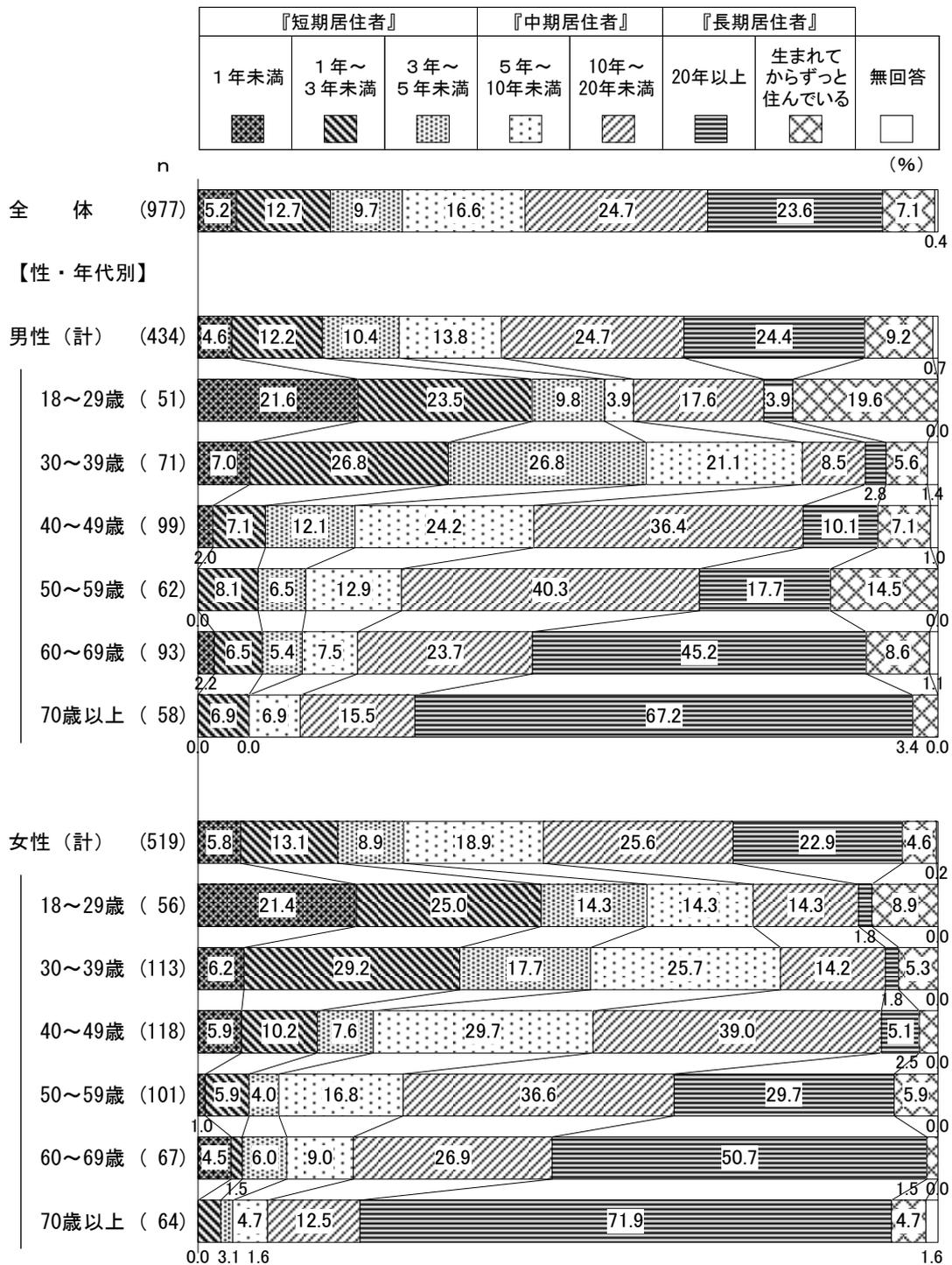
(図表1-1-2)

図表1-1-2 居住年数—過去の調査との比較



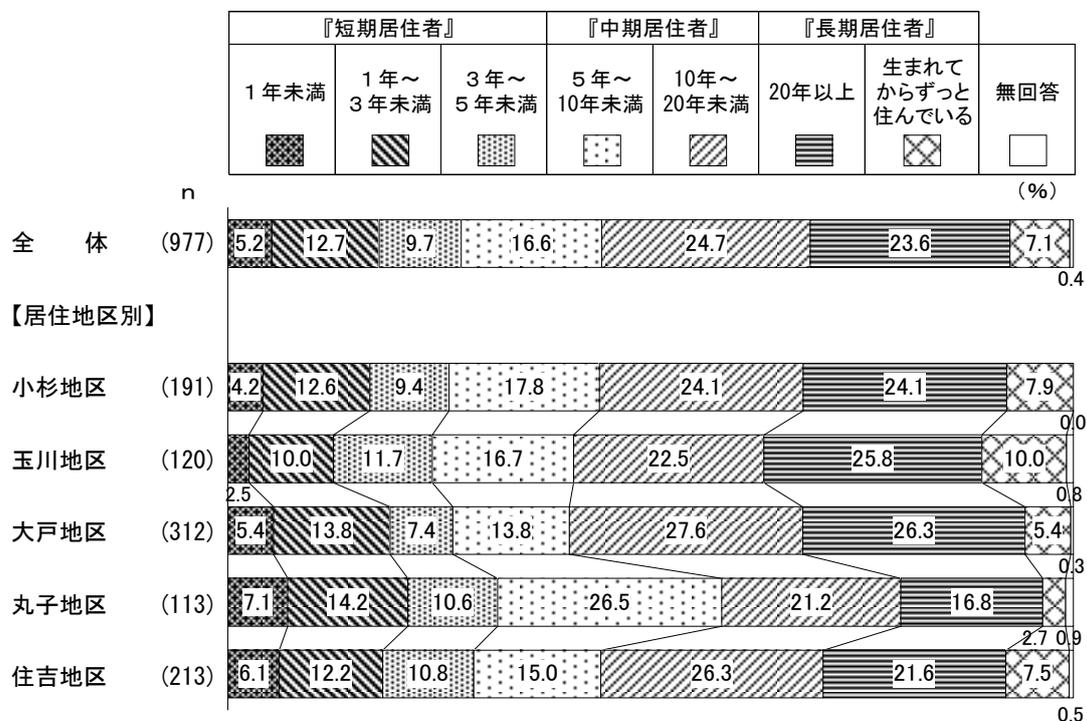
性・年代別にみると、『短期居住者』は女性18～29歳（60.7%）と男性30～39歳（60.6%）がともに約6割で高くなっている。『中期居住者』は女性40～49歳（68.7%）が7割近くで高くなっている。（図表1-1-3）

図表1-1-3 居住年数一性・年代別



居住地区別にみると、『短期居住者』は丸子地区（31.9%）が3割を超えて高くなっている。『中期居住者』は丸子地区（47.7%）が5割近くで高くなっている。『長期居住者』は玉川地区（35.8%）が3割台半ばで高くなっている。（図表1-1-4）

図表1-1-4 居住年数-居住地区別



(2) 以前の居住地

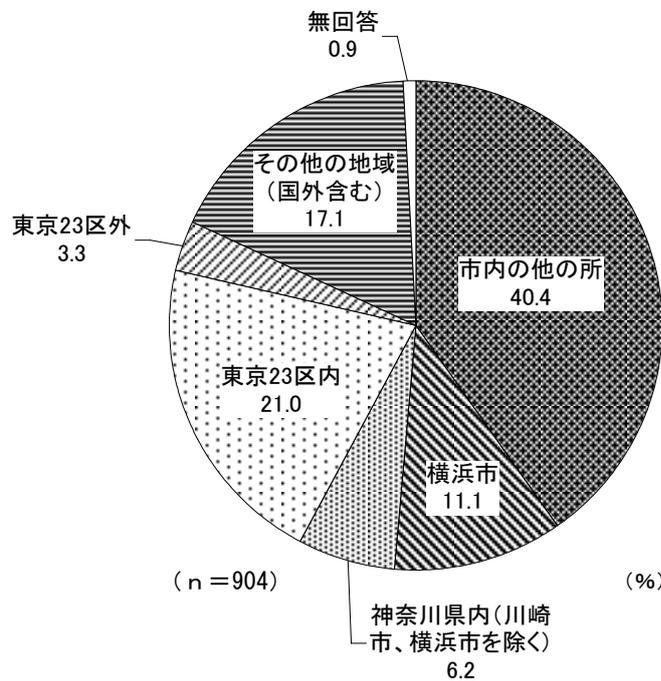
(問1で、「生まれてからずっと住んでいる」以外と回答した方に)

問1-1 今の所に住む以前はどちらにお住まいでしたか。(〇は1つだけ)

今の所に「生まれてからずっと住んでいる」以外と回答した方(904人)に、以前の居住場所を聞いたところ、「市内の他の所」(40.4%)が約4割で最も高く、次いで「東京23区内」(21.0%)、「その他の地域(国外含む)」(17.1%)、「横浜市」(11.1%)などの順となっている。

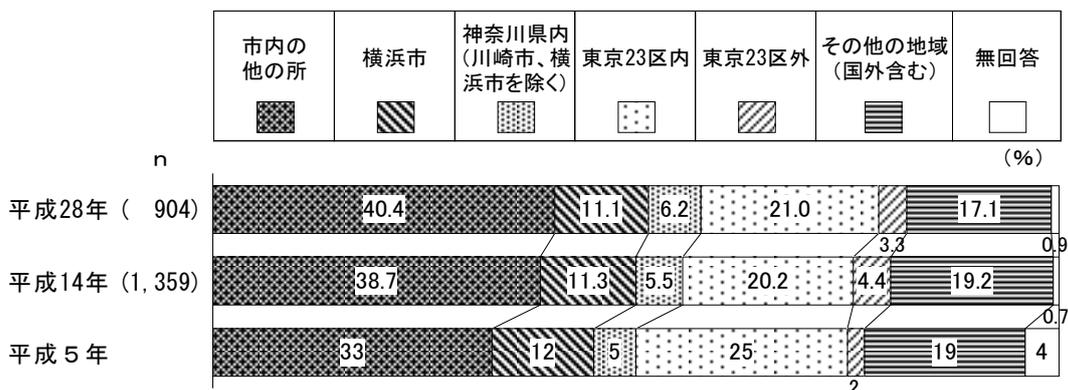
(図表1-2-1)

図表1-2-1 以前の居住地



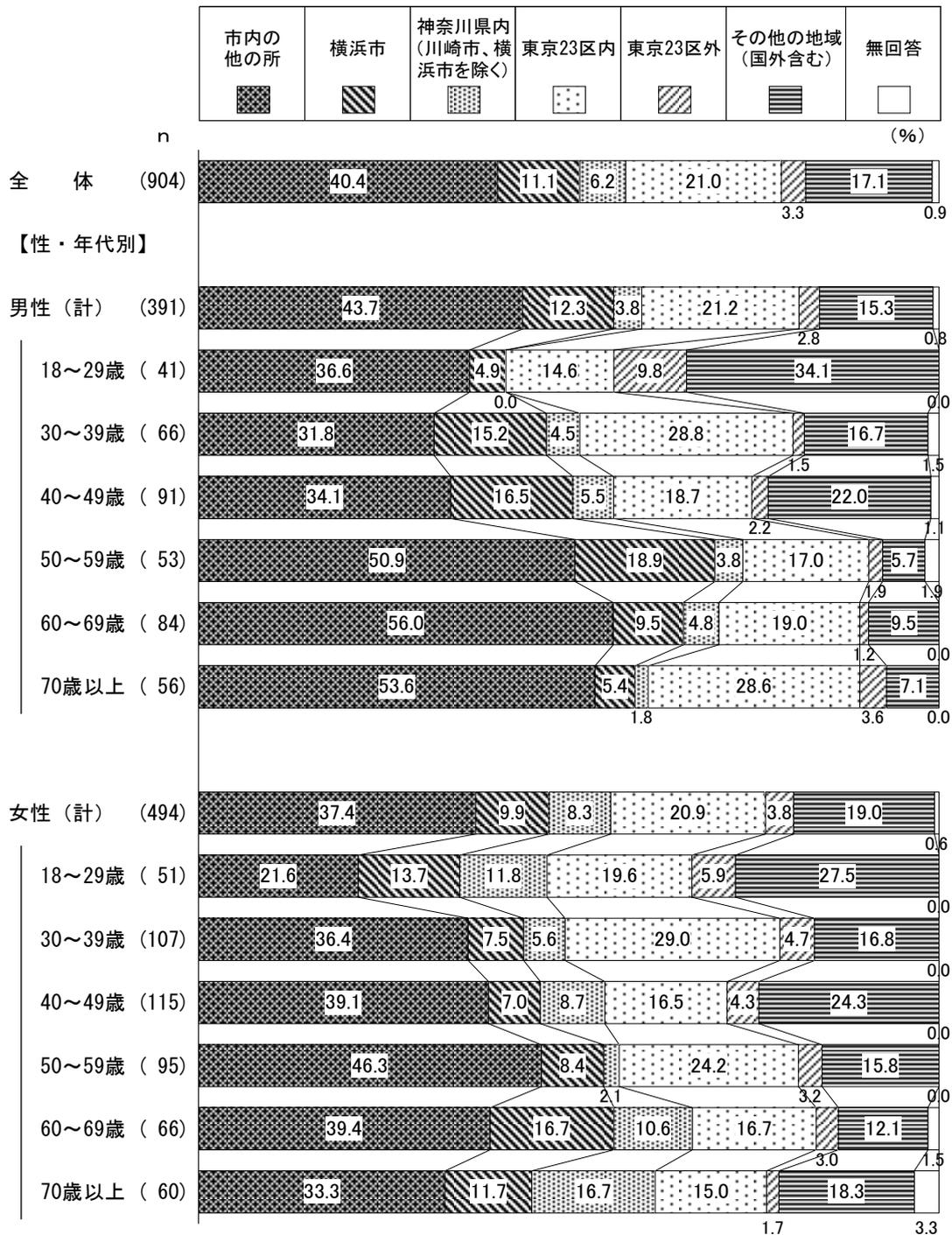
過去の調査と比較すると、「市内の他の所」(40.4%)は増加傾向にある。(図表1-2-2)

図表1-2-2 以前の居住地—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「市内の他の所」は男性60～69歳（56.0%）が5割台半ばで高くなっている。「東京23区内」は女性30～39歳（29.0%）が約3割で高くなっている。「その他の地域（国外含む）」は男性18～29歳（34.1%）が3割台半ばで高くなっている。（図表1-2-3）

図表1-2-3 以前の居住場所－性・年代別

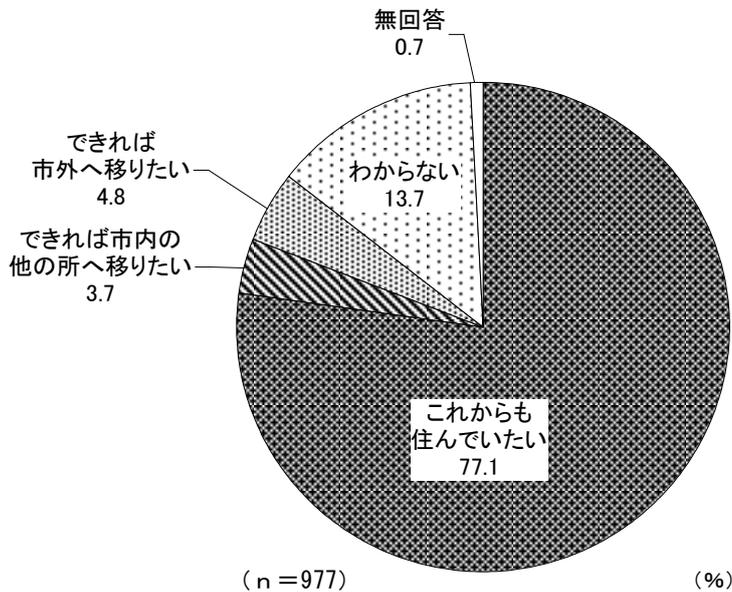


### (3) 定住意向

問2 これからも今の所にお住まいになる予定ですか。(○は1つだけ)

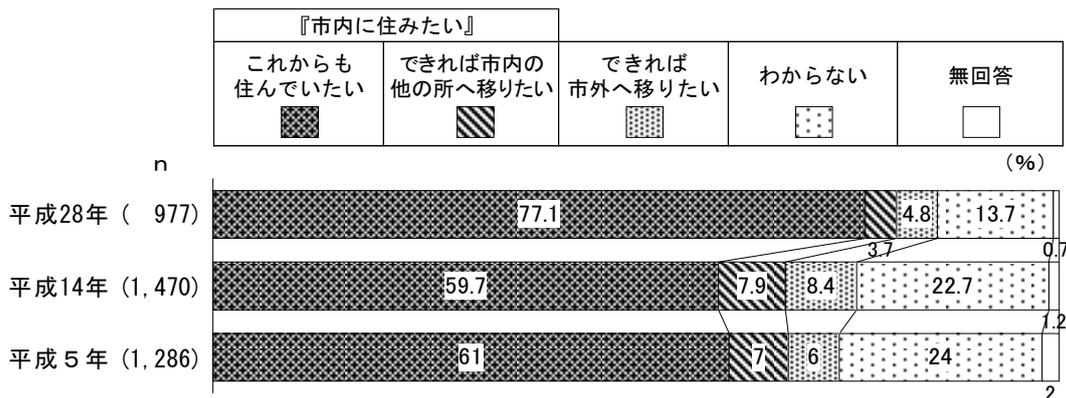
定住意向を聞いたところ、「これからも住んでいたい」(77.1%)が8割近くで、これと「できれば市内の他の所へ移りたい」(3.7%)を合わせた『市内に住みたい』(80.8%)が約8割と高くなっている。一方、「できれば市外へ移りたい」は4.8%となっている。(図表1-3-1)

図表1-3-1 定住意向



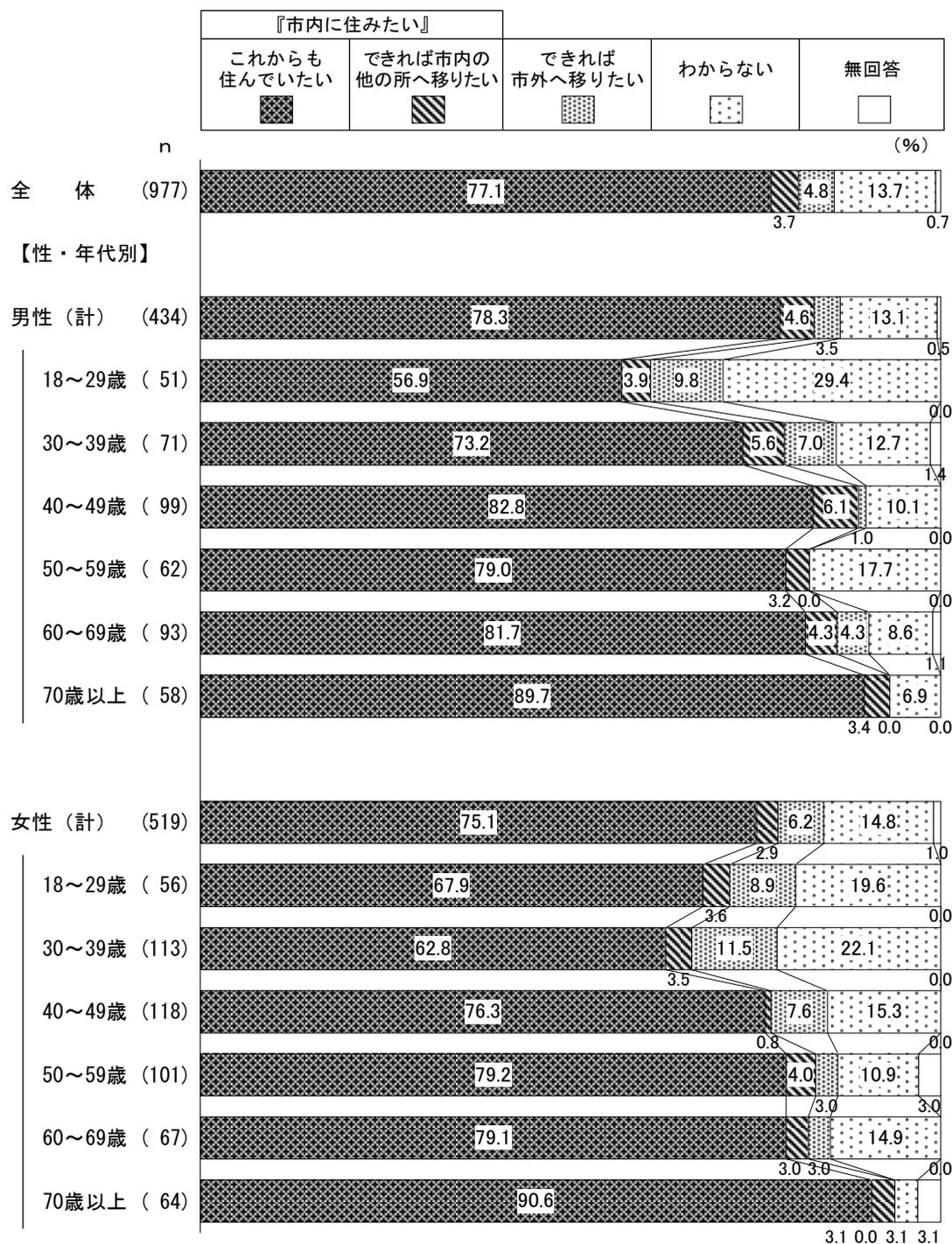
過去の調査と比較すると、「これからも住んでいたい」(77.1%)は平成14年(59.7%)より17.4ポイント増加している。一方、「できれば市内の他の所へ移りたい」(3.7%)は平成14年(7.9%)より4.2ポイント、「できれば市外へ移りたい」(4.8%)は平成14年(8.4%)より3.6ポイント、それぞれ減少している。(図表1-3-2)

図表1-3-2 定住意向—過去の調査との比較



性・年代別にみると、「これからも住んでいたい」は女性70歳以上（90.6%）と男性70歳以上（89.7%）がともに9割前後で高くなっている。「できれば市外へ移りたい」は女性30～39歳（11.5%）が1割を超えている。（図表1-3-3）

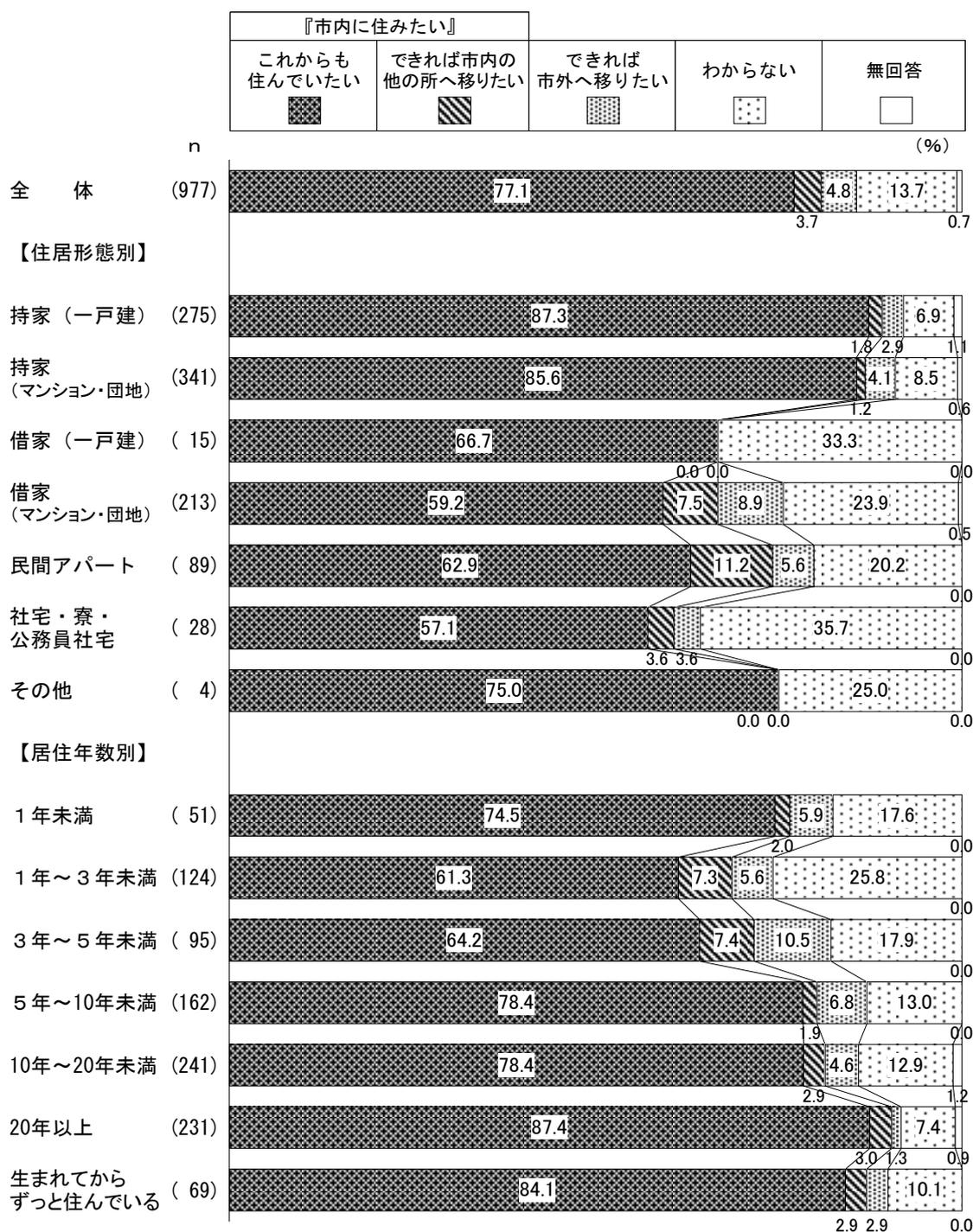
図表1-3-3 定住意向一性・年代別



住居形態別にみると、「これからも住んでいたい」は持家（一戸建）（87.3%）と持家（マンション・団地）（85.6%）がともに8割台で高くなっている。「できれば市内へ移りたい」は民間アパート（11.2%）が1割を超えている。

居住年数別にみると、「これからも住んでいたい」は20年以上住んでいる人（87.4%）と生まれてからずっと住んでいる人（84.1%）がともに8割台で高くなっている。「できれば市外へ移りたい」は3年～5年未満住んでいる人（10.5%）が約1割となっている。（図表1-3-4）

図表1-3-4 定住意向－住居形態別・居住年数別



#### (4) 定住したい理由

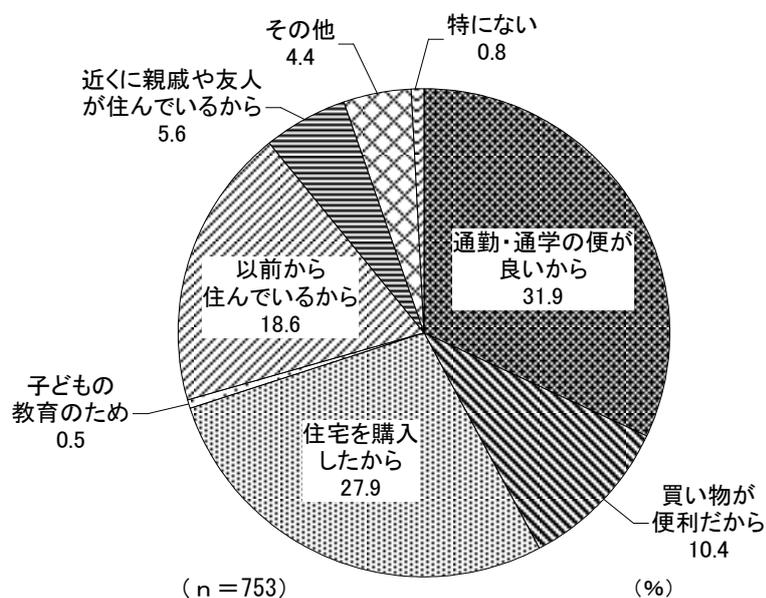
(問2で、「これからも住んでいたい」と回答した方に)

問2-1 今の所に住んでいたい主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

今の所に「これからも住んでいたい」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「通勤・通学の便が良いから」(31.9%)が3割を超えて最も高く、次いで「住宅を購入したから」(27.9%)、「以前から住んでいるから」(18.6%)、「買い物が便利だから」(10.4%)などの順となっている。

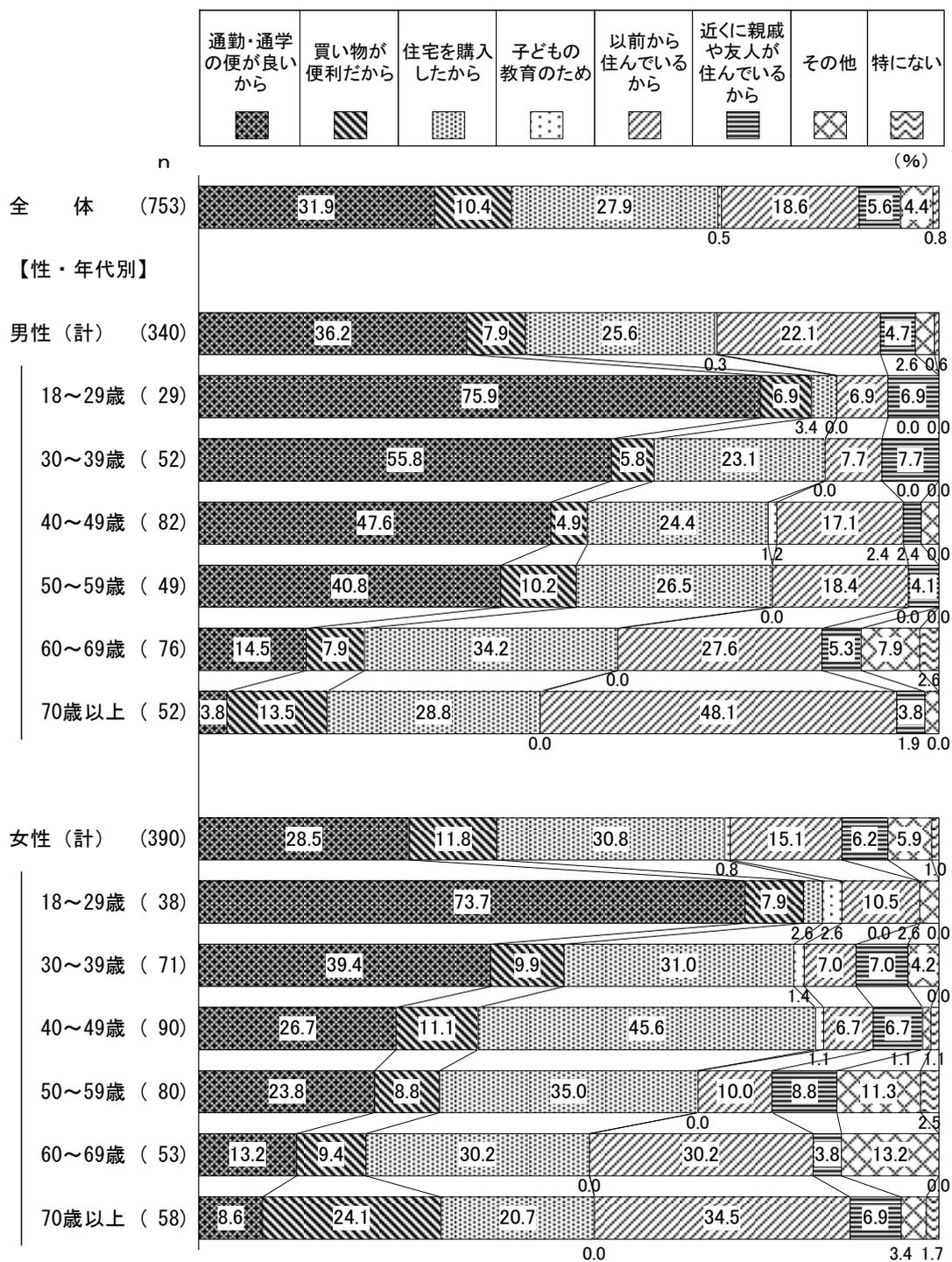
(図表1-4-1)

図表1-4-1 定住したい理由



性・年代別にみると、「通勤・通学の便が良いから」は男女とも低い年代ほど割合が高く、男性18～29歳（75.9%）と女性18～29歳（73.7%）がともに7割台で高くなっている。「住宅を購入したから」は女性40～49歳（45.6%）が4割台半ばで高くなっている。「以前から住んでいるから」は男性70歳以上（48.1%）が5割近くで高くなっている。「買い物が便利だから」は女性70歳以上（24.1%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-4-2）

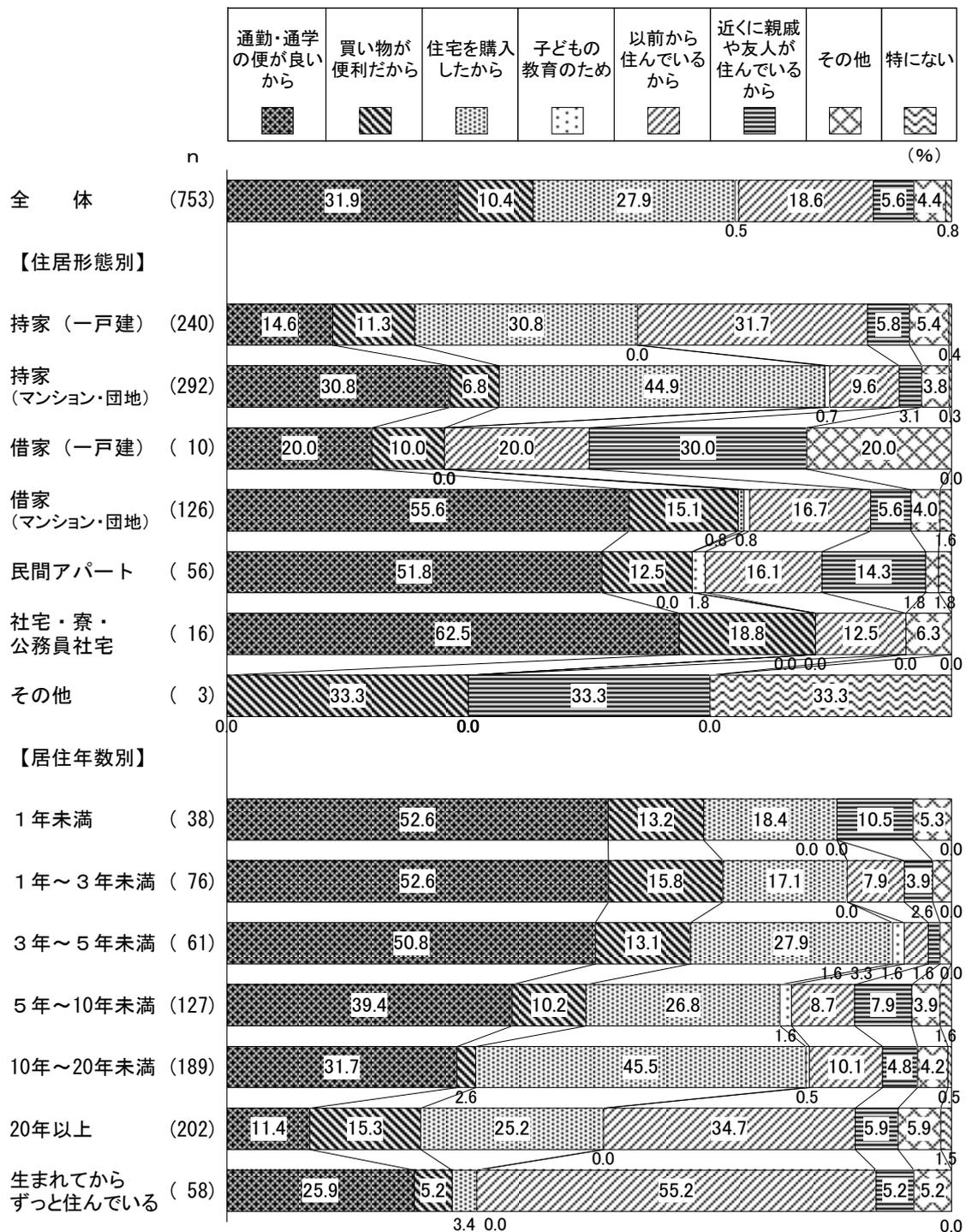
図表1-4-2 定住したい理由—性・年代別



住居形態別にみると、「通勤・通学の便が良いから」は社宅・寮・公務員住宅（62.5%）が6割を超え、借家（マンション・団地）（55.6%）と民間アパート（51.8%）がともに5割台で高くなっている。「住宅を購入したから」は持家（マンション・団地）（44.9%）が4割台半ばで高くなっている。

居住年数別にみると、「通勤・通学の便が良いから」は居住年数5年未満の人がいずれも5割台で高くなっている。「住宅を購入したから」は居住年数10年～20年未満の人（45.5%）が4割台半ばで高くなっている。「以前から住んでいるから」は生まれてからずっと住んでいる人（55.2%）が5割台半ばで高くなっている。（図表1-4-3）

図表1-4-3 定住したい理由－住居形態別・居住年数別

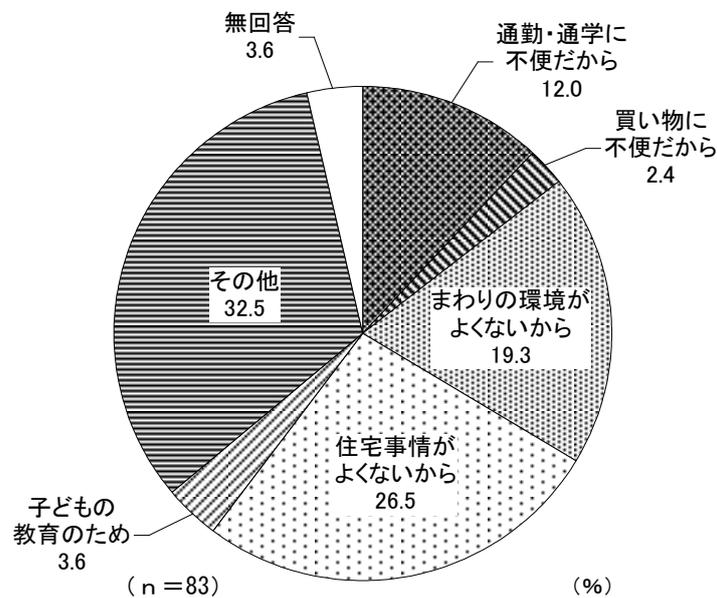


## (5) 転出したい理由

(問2で、「できれば市内の他の所へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した方に)  
問2-2 今の所から移りたいという主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)

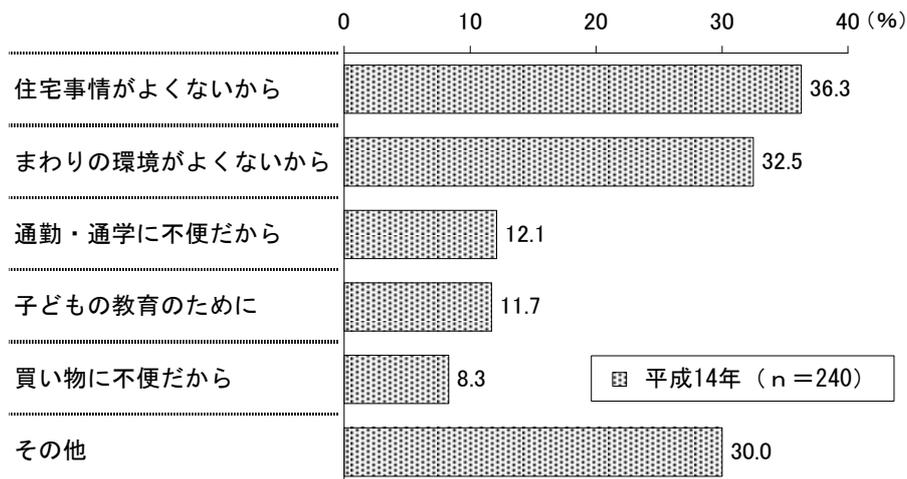
今の所から「できれば市内の他の所へ移りたい」、「できれば市外へ移りたい」と回答した方(83人)に、その理由を聞いたところ、「住宅事情がよくないから」(26.5%)が3割近くで最も高く、次いで「まわりの環境がよくないから」(19.3%)、「通勤・通学に不便だから」(12.0%)などの順となっている。(図表1-5-1)

図表1-5-1 転出したい理由



前回調査との比較は、前回調査では2つまでの複数回答の形式で質問していたため参考にとどまるが、「住宅事情がよくないから」と「まわりの環境がよくないから」が上位2項目となっている傾向に変化はみられない。(図表1-5-2)

図表1-5-2 転出したい理由—前回調査の結果(参考)



## 2. 生活環境評価

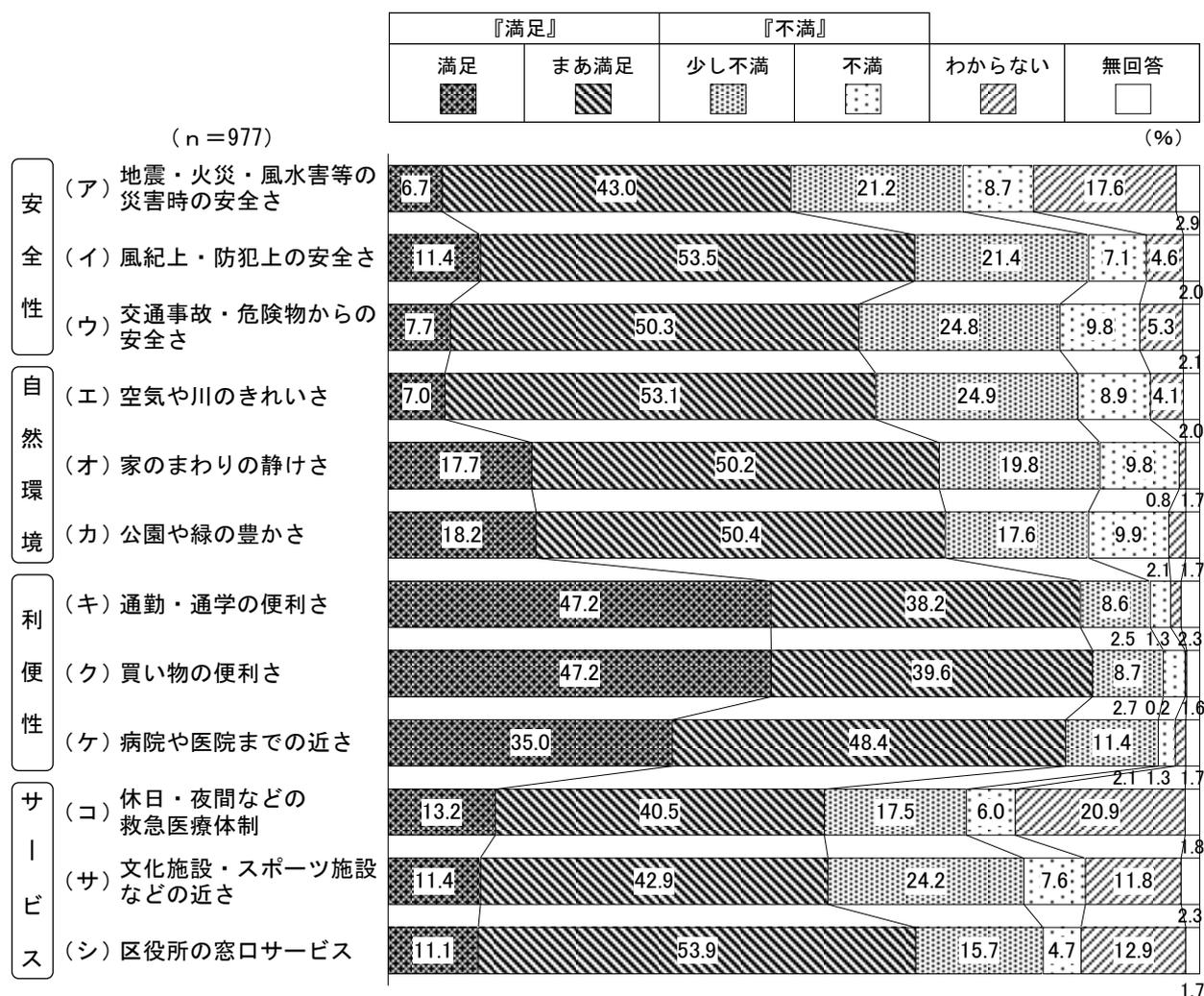
### (1) 生活環境の満足度

問3 あなたのお住まいのまわりの生活環境についてお伺いします。次にあげる(ア)から(シ)のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。(〇はそれぞれ1つ)

住まいの周辺の生活環境について、12項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』の割合は、(ク)買い物の便利さ(86.8%)が9割近くで最も高く、次いで(キ)通勤・通学の便利さ(85.4%)、(ケ)病院や医院までの近さ(83.4%)などの順となっている。

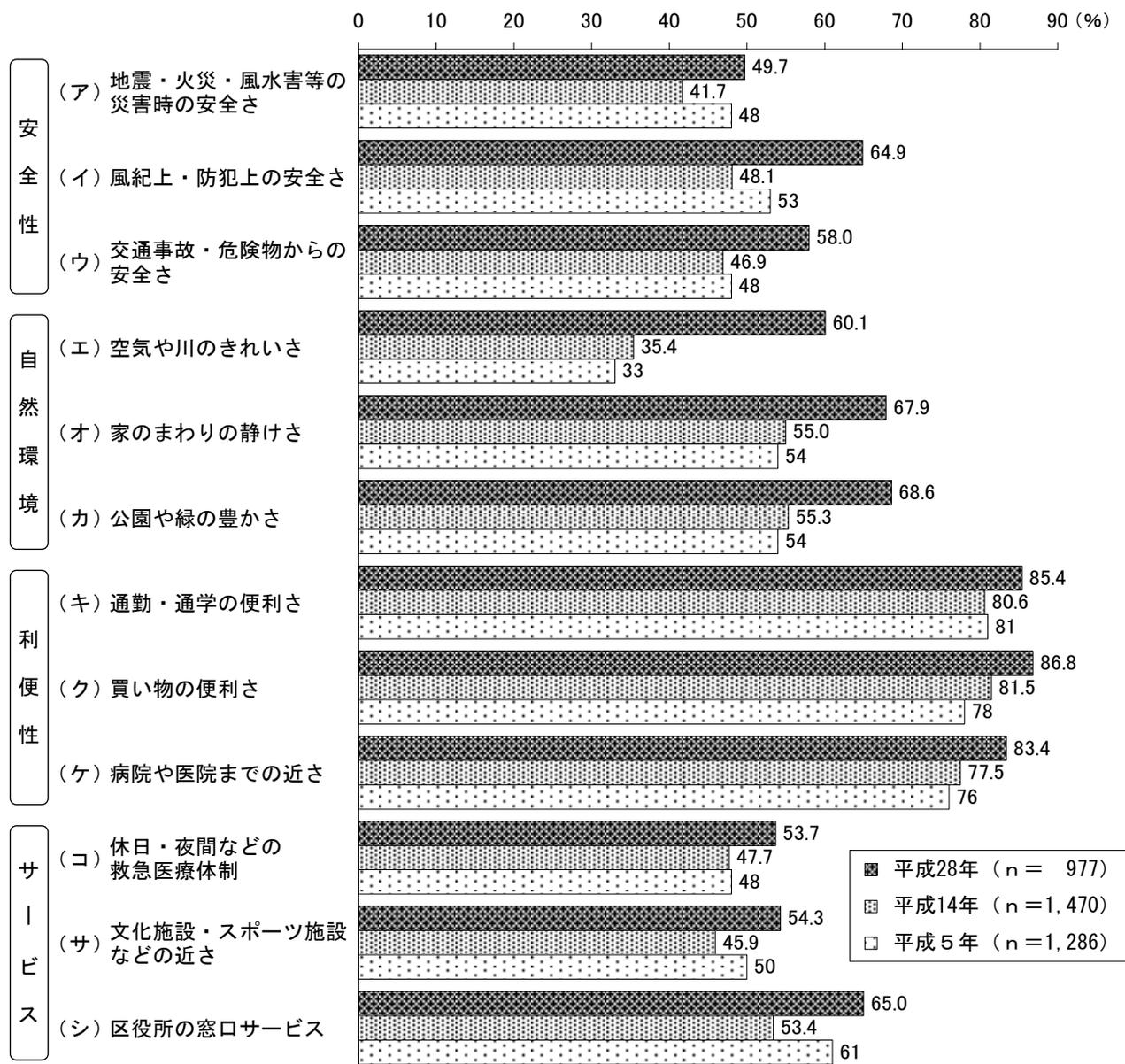
一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』の割合は、(ウ)交通事故・危険物からの安全さ(34.6%)が3割台半ばで最も高く、次いで(エ)空気や川のきれいさ(33.8%)、(サ)文化施設・スポーツ施設などの近さ(31.8%)、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(29.9%)、(オ)家のまわりの静けさ(29.6%)、(イ)風紀上・防犯上の安全さ(28.5%)などの順となっている。(図表2-1-1)

図表2-1-1 生活環境の満足度



「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』の割合を過去の調査と比較すると、すべての項目で過去の調査の割合を上回っており、特に（エ）空気や川のきれいさ（60.1%）が平成14年（35.4%）より24.7ポイント、（イ）風紀上・防犯上の安全さ（64.9%）が平成14年（48.1%）より16.8ポイント、それぞれ高くなっている。（図表2-1-2）

図表2-1-2 生活環境の満足度－『満足』の割合の過去の調査との比較



12項目にわたる生活環境の満足度の相互の比較をしやすいように、以下のような加重平均値の計算式を用いた評価点を算出した。

$$\text{評価点} = (\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあ満足」の回答者数} \times 1 \text{点} + \text{「少し不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点}) \div (\text{回答者数} - \text{無回答者数})$$

この計算方法では、評価点は+2.00点～-2.00点の間に分布し、+2点に近くなるほど満足度が高く、逆に-2点に近くなるほど満足度が低くなる。

評価点の計算結果および地区別の評価点の計算結果は、以下の図表2-1-3のとおりである。

図表2-1-3 生活環境の満足度の評価点—居住地区別

	中原区全体	小杉地区	玉川地区	大戸地区	丸子地区	住吉地区
(ア) 地震・火災・風水害等の災害時の安全さ	0.22	0.18	0.29	0.28	0.04	0.24
(イ) 風紀上・防犯上の安全さ	0.44	0.50	0.46	0.33	0.24	0.59
(ウ) 交通事故・危険物からの安全さ	0.23	0.18	0.30	0.24	-0.05	0.34
(エ) 空気や川のきれいさ	0.26	0.30	0.45	0.25	0.13	0.18
(オ) 家のまわりの静けさ	0.47	0.50	0.52	0.55	-0.06	0.57
(カ) 公園や緑の豊かさ	0.51	0.60	0.53	0.45	0.09	0.65
(キ) 通勤・通学の便利さ	1.23	1.42	1.38	0.96	1.65	1.17
(ク) 買い物の便利さ	1.22	1.29	0.96	1.12	1.43	1.34
(ケ) 病院や医院までの近さ	1.06	1.28	0.81	0.88	1.29	1.12
(コ) 休日・夜間などの救急医療体制	0.48	0.72	0.33	0.32	0.47	0.53
(サ) 文化施設・スポーツ施設などの近さ	0.31	0.62	0.13	0.36	0.29	-0.02
(シ) 区役所の窓口サービス	0.60	0.79	0.54	0.47	0.61	0.55

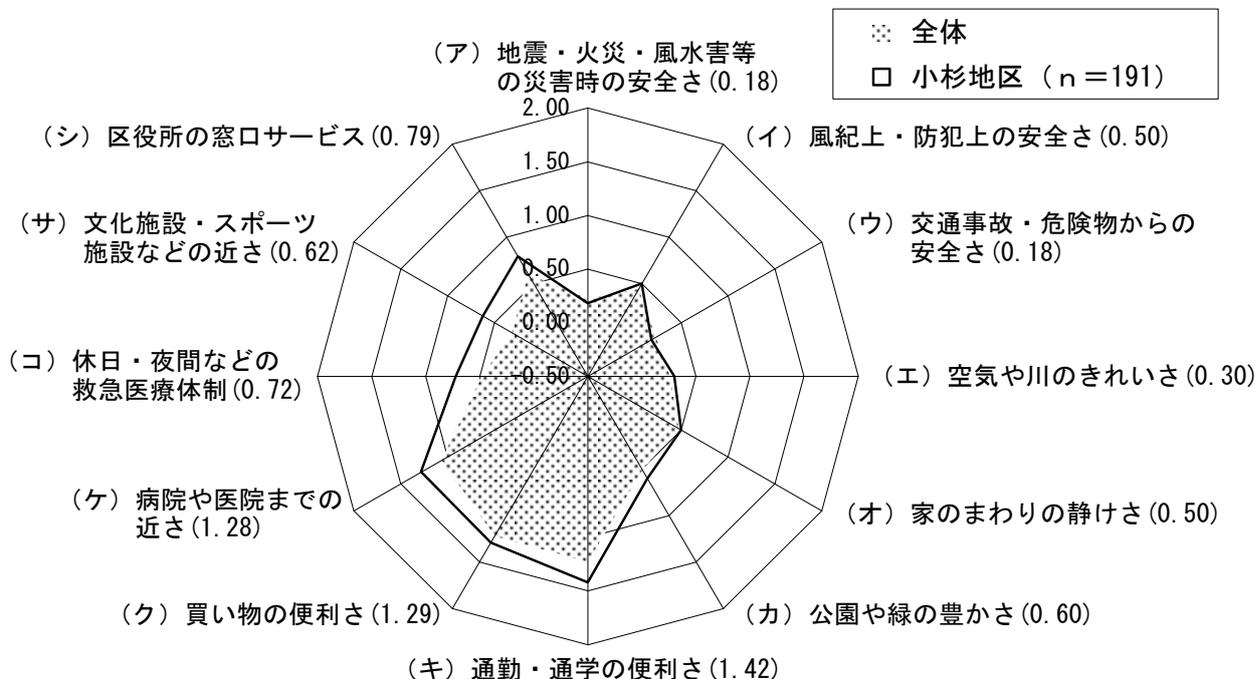
(注) 図表中の網かけは、各項目で中原区全体と比べて低い値であることを示す。

また、以下の図表2-1-4～図表2-1-8において、各居住地区の生活環境の満足度的评价点を、中原区全体と比較して示した。

さらに、以下の図表2-1-9と図表2-1-10において、問2（定住意向）の質問で「これからも住んでいたい」と答えた人と、「できれば市内の他の所へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた人の間で、どの項目で生活環境の満足度的评价の違いが大きいか、中原区全体と比較して示した。

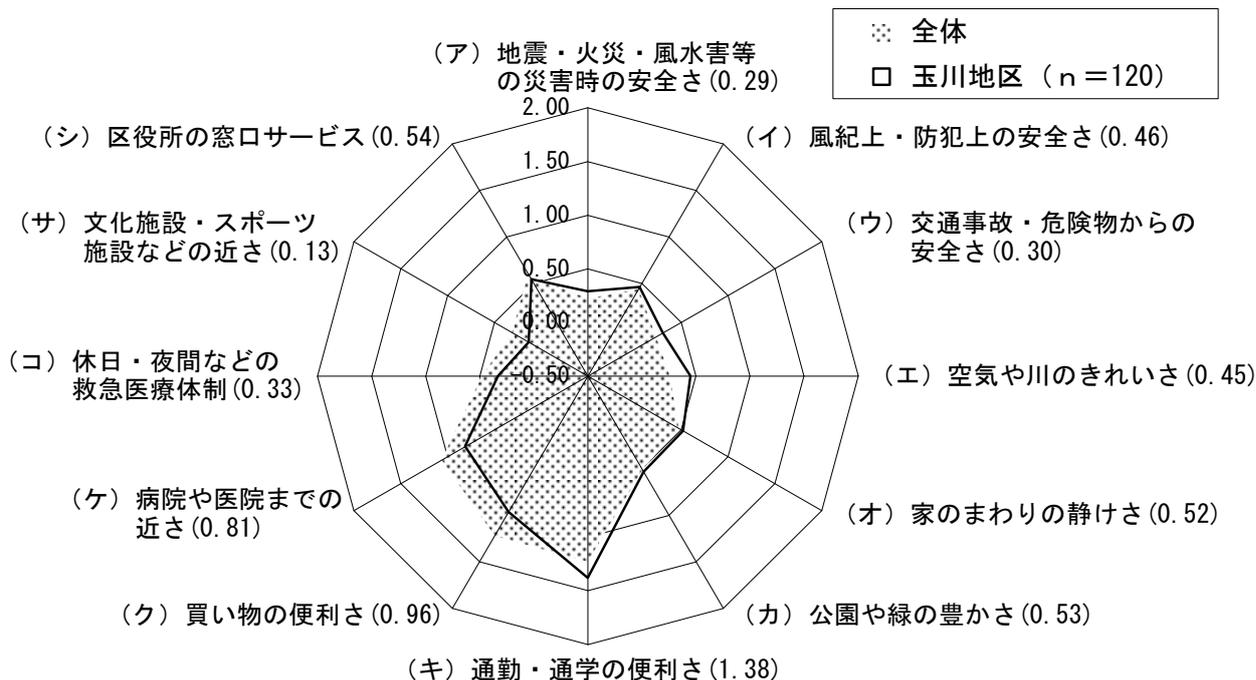
小杉地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(サ)文化施設・スポーツ施設などの近さ(+0.31)、(コ)休日・夜間などの救急医療体制(+0.24)など計10項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(ウ)交通事故・危険物からの安全さ(-0.05)、(ア)地震・火災・風水害等の災害時の安全さ(-0.04)の2項目となっている。(図表2-1-4)

図表2-1-4 生活環境の満足度の評価点—小杉地区



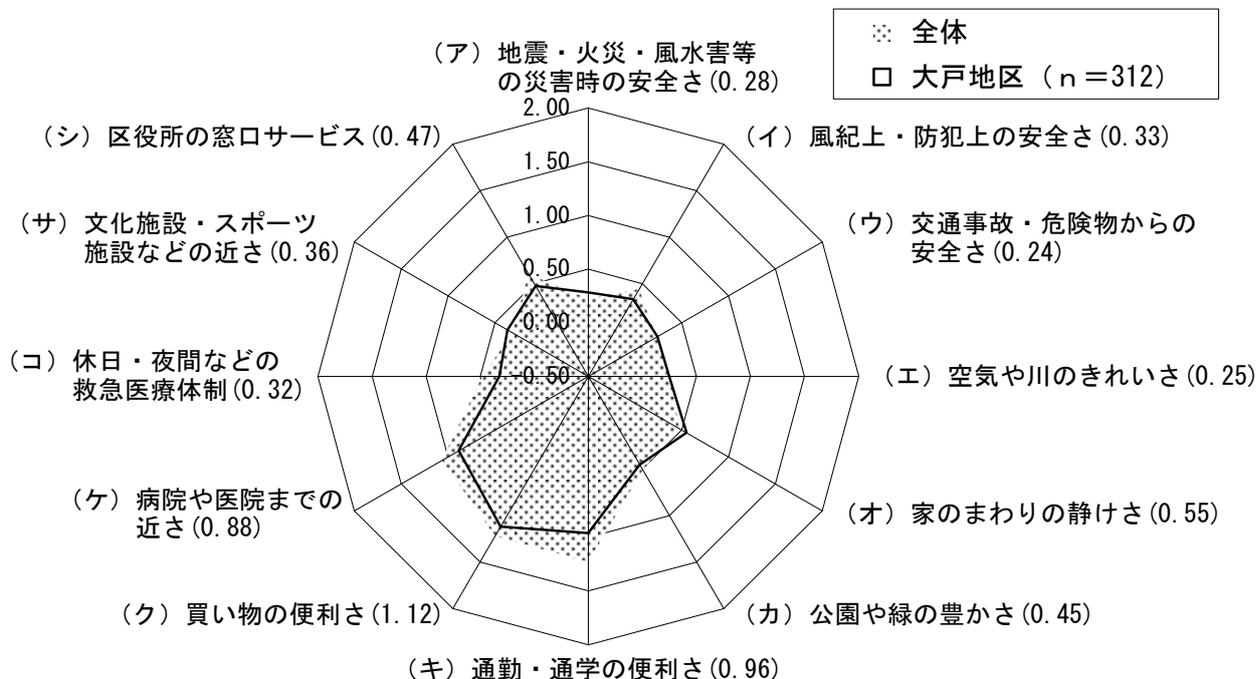
玉川地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(エ)空気や川のきれいさ(+0.19)、(キ)通勤・通学の便利さ(+0.15)など計7項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(ク)買い物の便利さ(-0.26)、(ケ)病院や医院までの近さ(-0.25)など計5項目となっている。(図表2-1-5)

図表2-1-5 生活環境の満足度の評価点—玉川地区



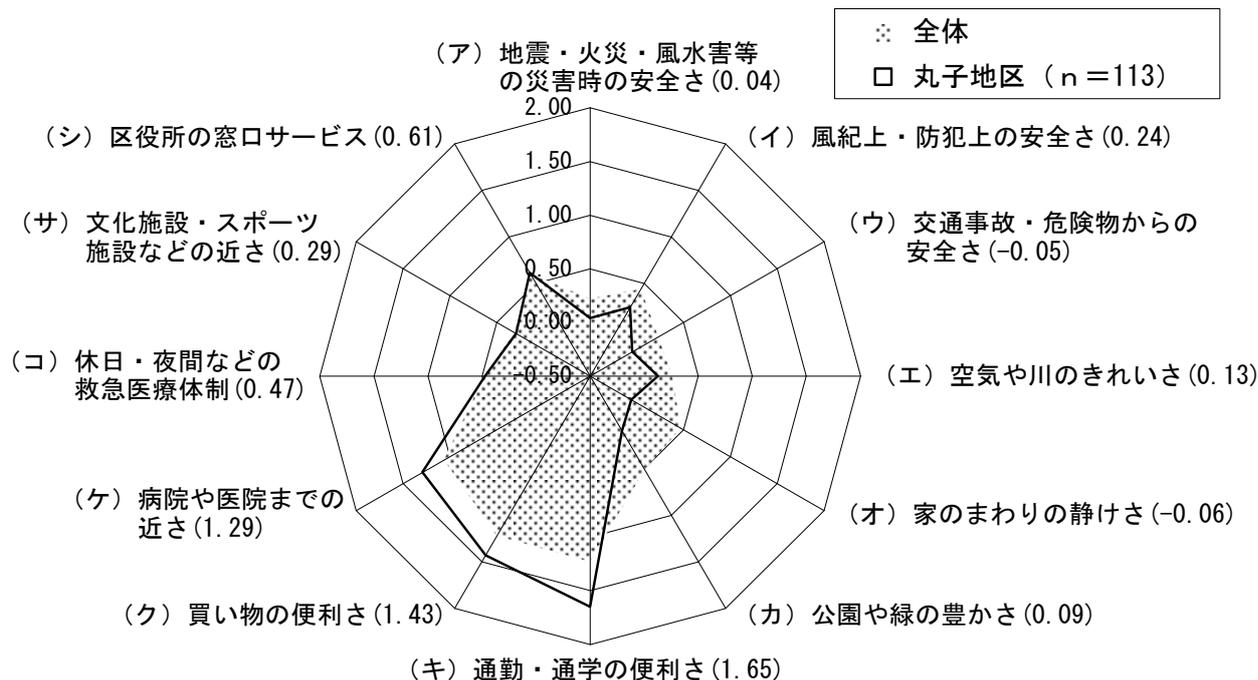
大戸地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(オ) 家のまわりの静けさ (+0.08)、(ア) 地震・火災・風水害等の災害時の安全さ (+0.06) など計4項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(キ) 通勤・通学の便利さ (-0.27)、(ケ) 病院や医院までの近さ (-0.18) など計8項目となっている。(図表2-1-6)

図表2-1-6 生活環境の満足度の評価点—大戸地区



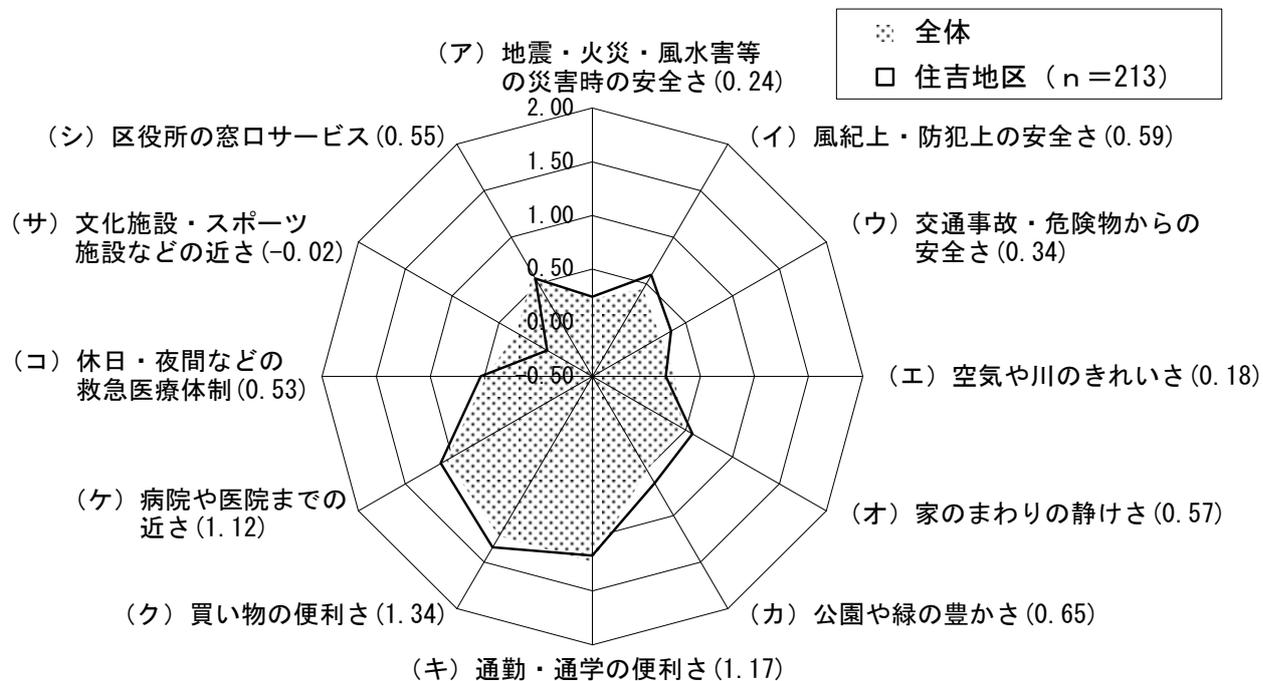
丸子地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(キ) 通勤・通学の便利さ (+0.42)、(ケ) 病院や医院までの近さ (+0.23)、(ク) 買い物の便利さ (+0.21) など計4項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(オ) 家のまわりの静けさ (-0.53)、(カ) 公園や緑の豊かさ (-0.42) など計8項目となっている。(図表2-1-7)

図表2-1-7 生活環境の満足度の評価点—丸子地区



住吉地区で中原区全体と比べて評価が高い項目は、(イ) 風紀上・防犯上の安全さ (+0.15)、(カ) 公園や緑の豊かさ (+0.14) など計8項目となっている。一方、中原区全体と比べて評価が低い項目は、(サ) 文化施設・スポーツ施設などの近さ (-0.33)、(エ) 空気や川のきれいさ (-0.08) など計4項目となっている。(図表2-1-8)

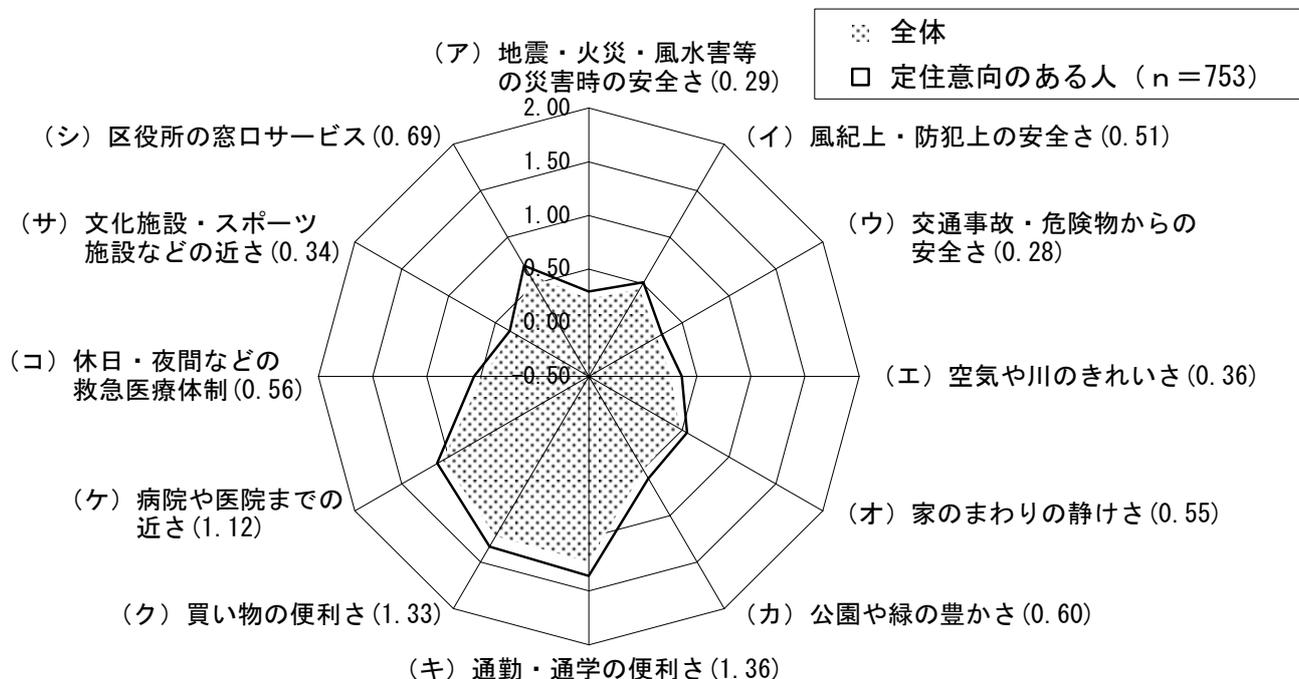
図表2-1-8 生活環境の満足度の評価点—住吉地区



問2で、今の所に「これからも住んでいたい」と答えた、定住意向のある人（753人）でみると、すべての項目で中原区全体と比べて評価が高くなっており、特に（キ）通勤・通学の便利さ（+0.13）、（ク）買い物の便利さ（+0.11）、（エ）空気や川のきれいさ（+0.10）の評価が高くなっている。

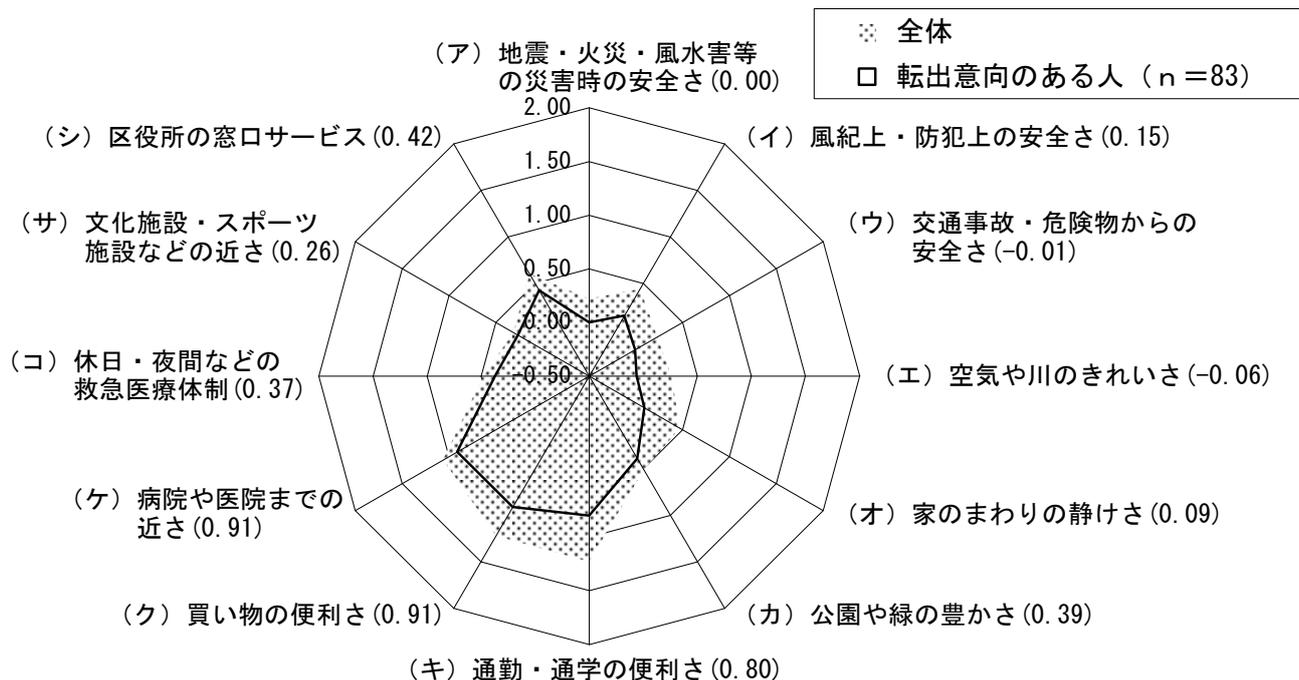
（図表2-1-9）

図表2-1-9 生活環境の満足度の評価点—定住意向のある人



問2で、今の所から「できれば市内の他の所へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた、転出意向のある人（83人）でみると、すべての項目で中原区全体と比べて評価が低くなっており、特に（キ）通勤・通学の便利さ（-0.43）、（オ）家のまわりの静けさ（-0.38）、（エ）空気や川のきれいさ（-0.32）の評価が低くなっている。（図表2-1-10）

図表2-1-10 生活環境の満足度の評価点—転出意向のある人

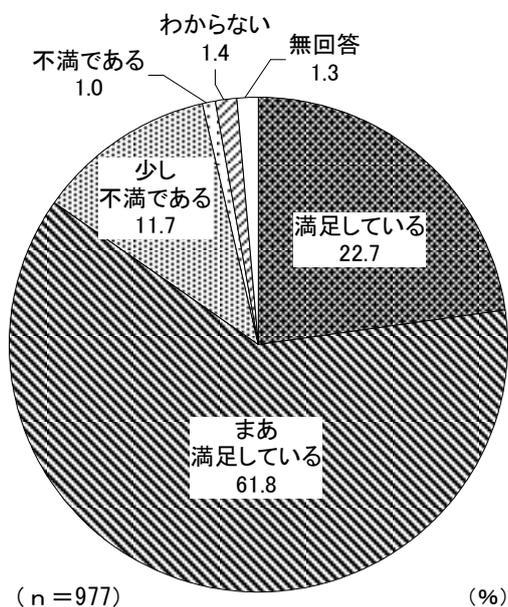


## (2) 生活環境全体の満足度

問4 地域の生活環境を総合的にみた場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。  
(○は1つだけ)

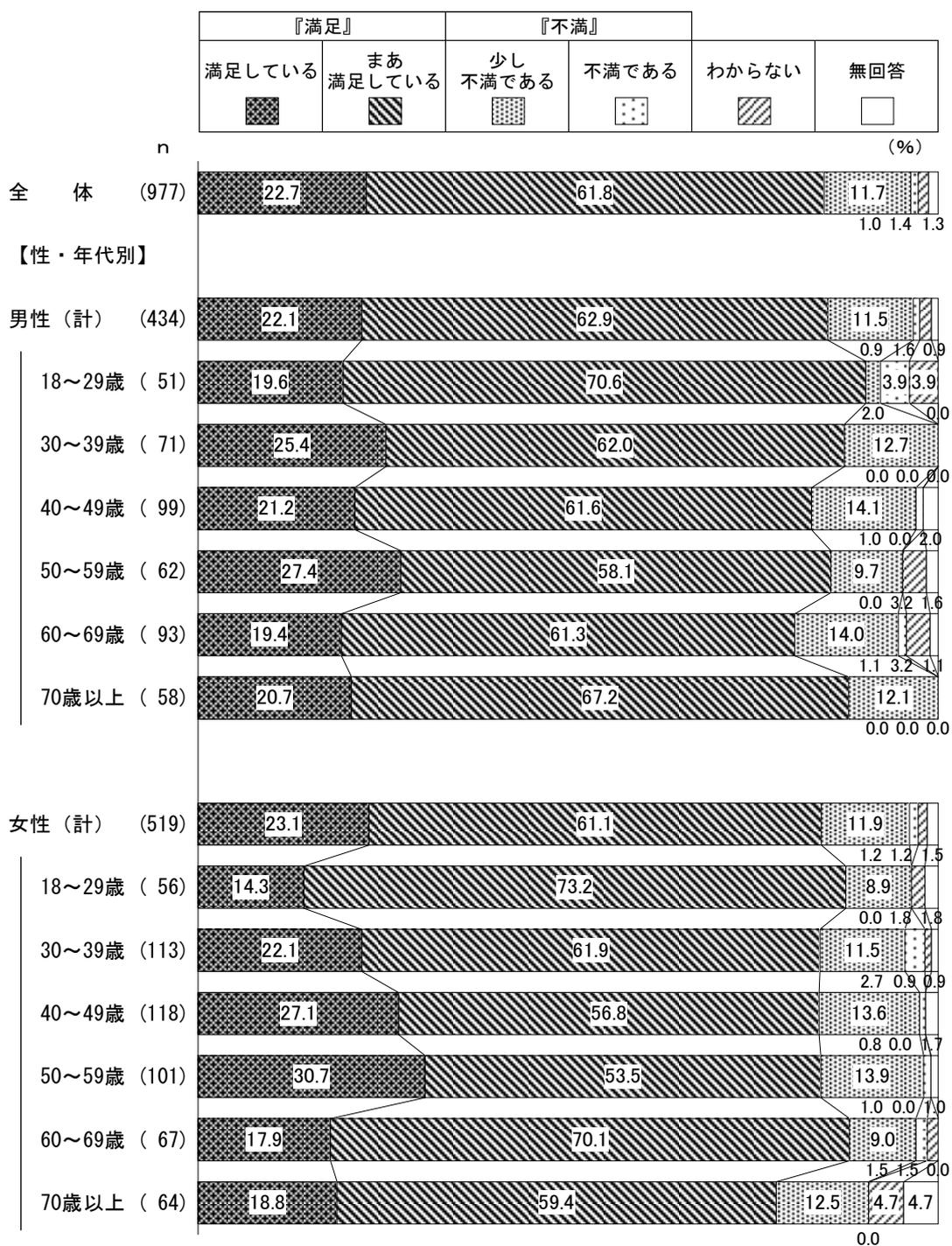
地域の生活環境を総合的にみた場合、今住んでいる地域にどの程度満足しているか聞いたところ、「満足している」(22.7%)と「まあ満足している」(61.8%)の2つを合わせた『満足』(84.5%)が8割台半ばで高くなっている。一方、「少し不満である」(11.7%)と「不満である」の2つを合わせた『不満』(12.7%)は1割を超えている。(図表2-2-1)

図表2-2-1 生活環境全体の満足度



性・年代別にみると、『満足』は男性18～29歳（90.2%）が約9割、女性70歳以上（78.2%）が8割近くとなっており、それ以外のすべての年代で8割台となっている。「満足している」は女性50～59歳（30.7%）が約3割で高くなっている。（図表2-2-2）

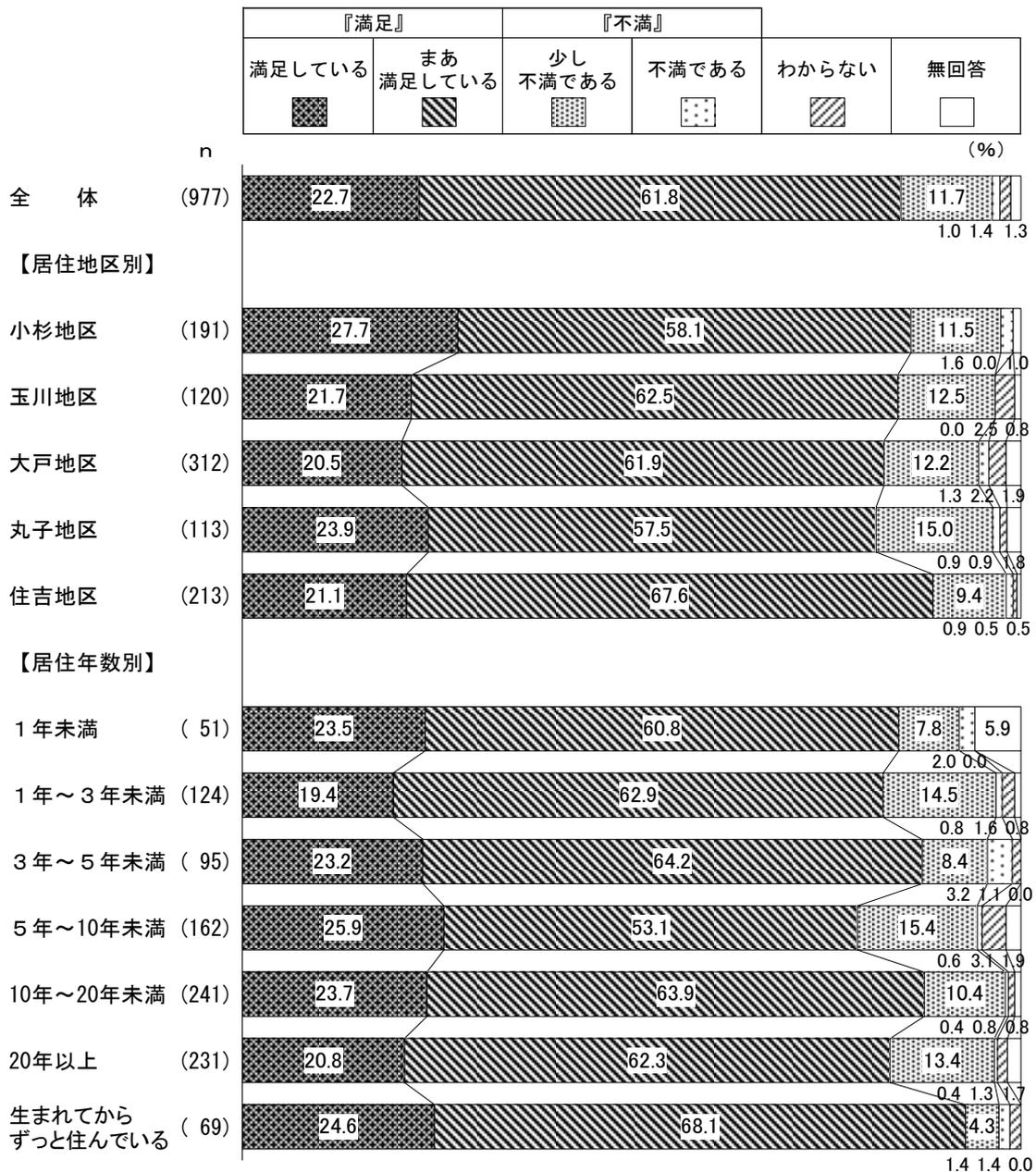
図表2-2-2 生活環境全体の満足度一性・年代別



居住地区別にみると、『満足』は住吉地区（88.7%）が9割近くで高くなっている。「満足している」は小杉地区（27.7%）が3割近くで高くなっている。

居住年数別にみると、『満足』は生まれてからずっと住んでいる人（92.7%）が9割を超えて高くなっている。（図表2-2-3）

図表2-2-3 生活環境全体の満足度－居住地区別・居住年数別

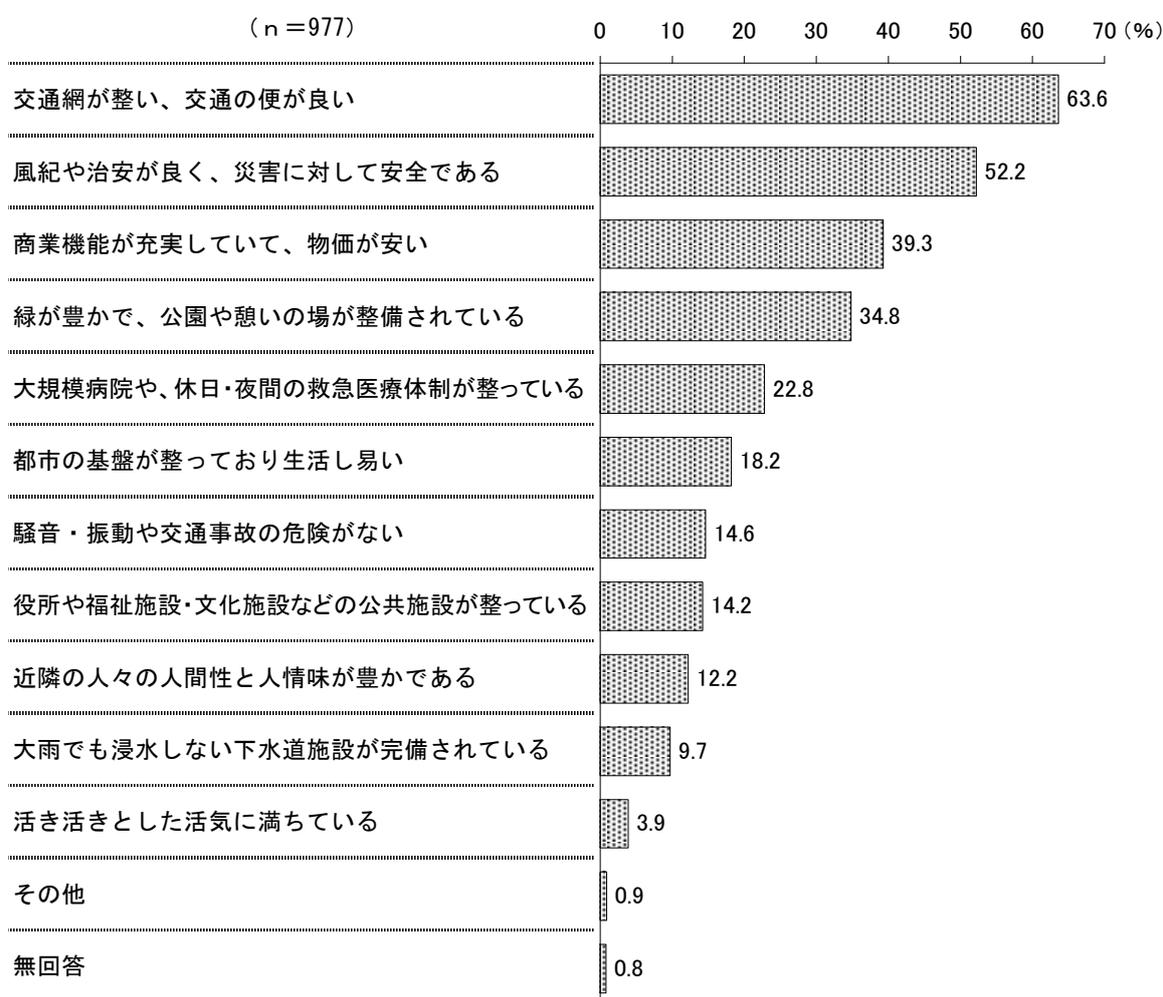


### (3) 住みよい環境についての意識

問5 住みよい環境とは、どのような所だと思いますか。(〇は3つまで)

住みよい環境とは、どのような所だと思うか聞いたところ、「交通網が整い、交通の便が良い」(63.6%)が6割を超えて最も高く、次いで「風紀や治安が良く、災害に対して安全である」(52.2%)、「商業機能が充実していて、物価が安い」(39.3%)、「緑が豊かで、公園や憩いの場が整備されている」(34.8%)、「大規模病院や、休日・夜間の救急医療体制が整っている」(22.8%)などの順となっている。(図表2-3-1)

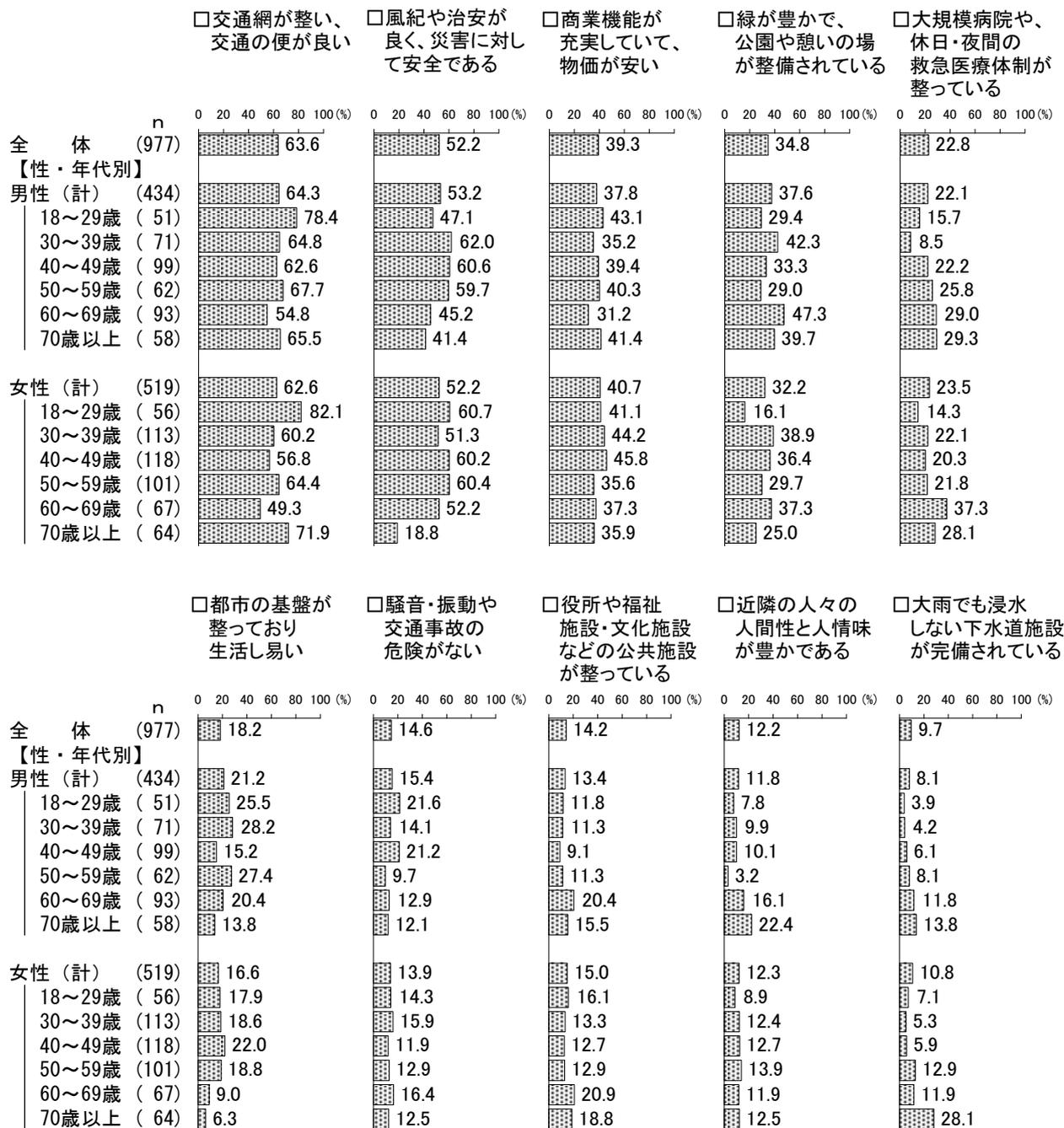
図表2-3-1 住みよい環境についての意識



性・年代別にみると、「交通網が整い、交通の便が良い」は女性18～29歳（82.1%）が8割を超え、男性18～29歳（78.4%）が8割近くで高くなっている。「風紀や治安が良く、災害に対して安全である」は男性30～39歳（62.0%）が6割を超えて高くなっている。「緑が豊かで、公園や憩いの場が整備されている」は男性60～69歳（47.3%）が5割近くで高くなっている。「大規模病院や、休日・夜間の救急医療体制が整っている」は女性60～69歳（37.3%）が4割近くで高くなっている。

（図表2-3-2）

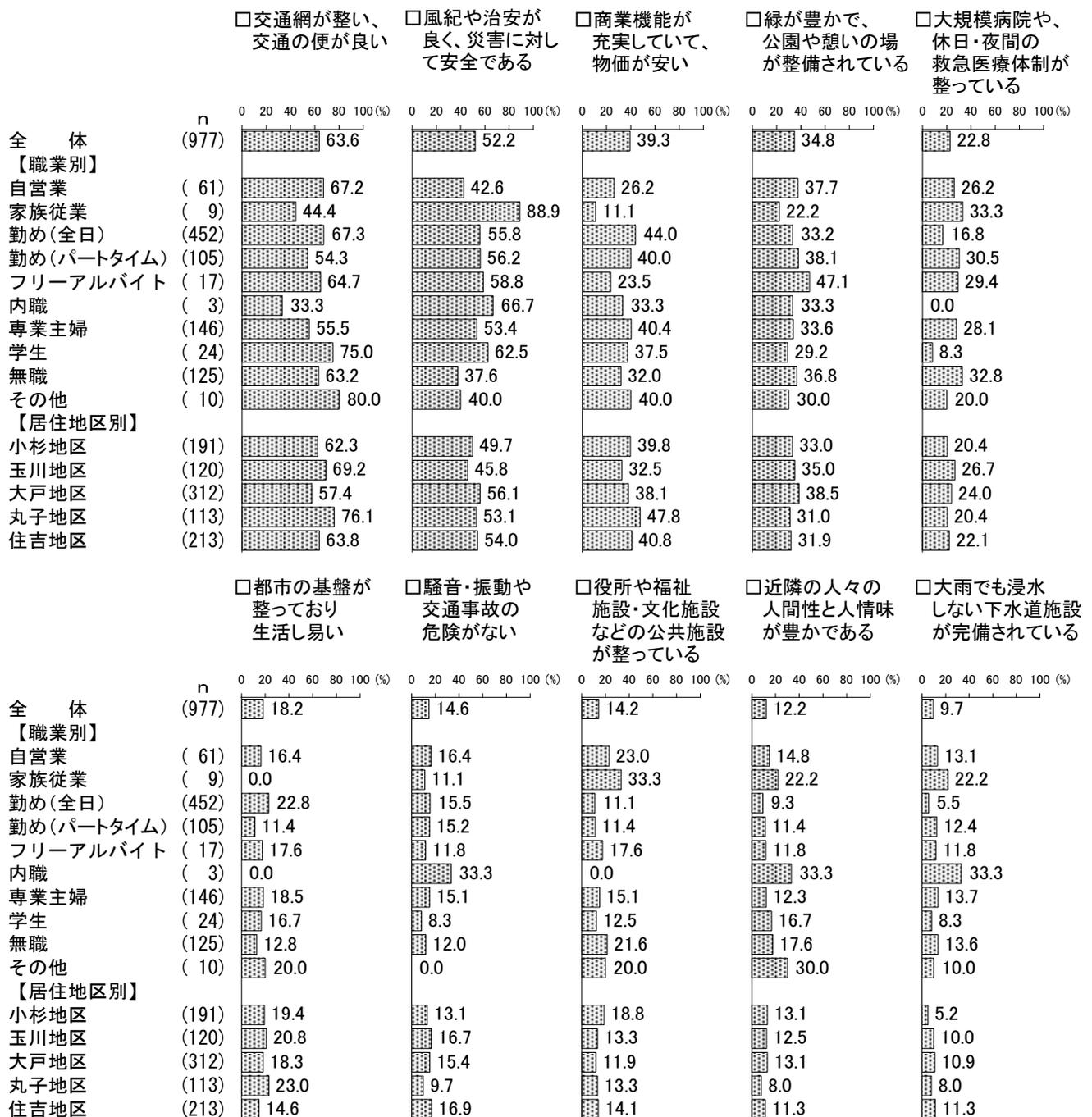
図表2-3-2 住みよい環境についての意識一性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「交通網が整い、交通の便が良い」は学生（75.0%）が7割台半ばで高くなっている。「緑が豊かで、公園や憩いの場が整備されている」はフリーアルバイト（47.1%）が5割近くで高くなっている。

居住地区別にみると、「交通網が整い、交通の便が良い」は丸子地区（76.1%）が7割台半ばで高くなっている。「商業機能が充実していて、物価が安い」は丸子地区（47.8%）が5割近くで高くなっている。（図表2-3-3）

図表2-3-3 住みよい環境についての意識—職業別・居住地区別（上位10項目）



### 3. 区役所業務の評価・区のイメージ

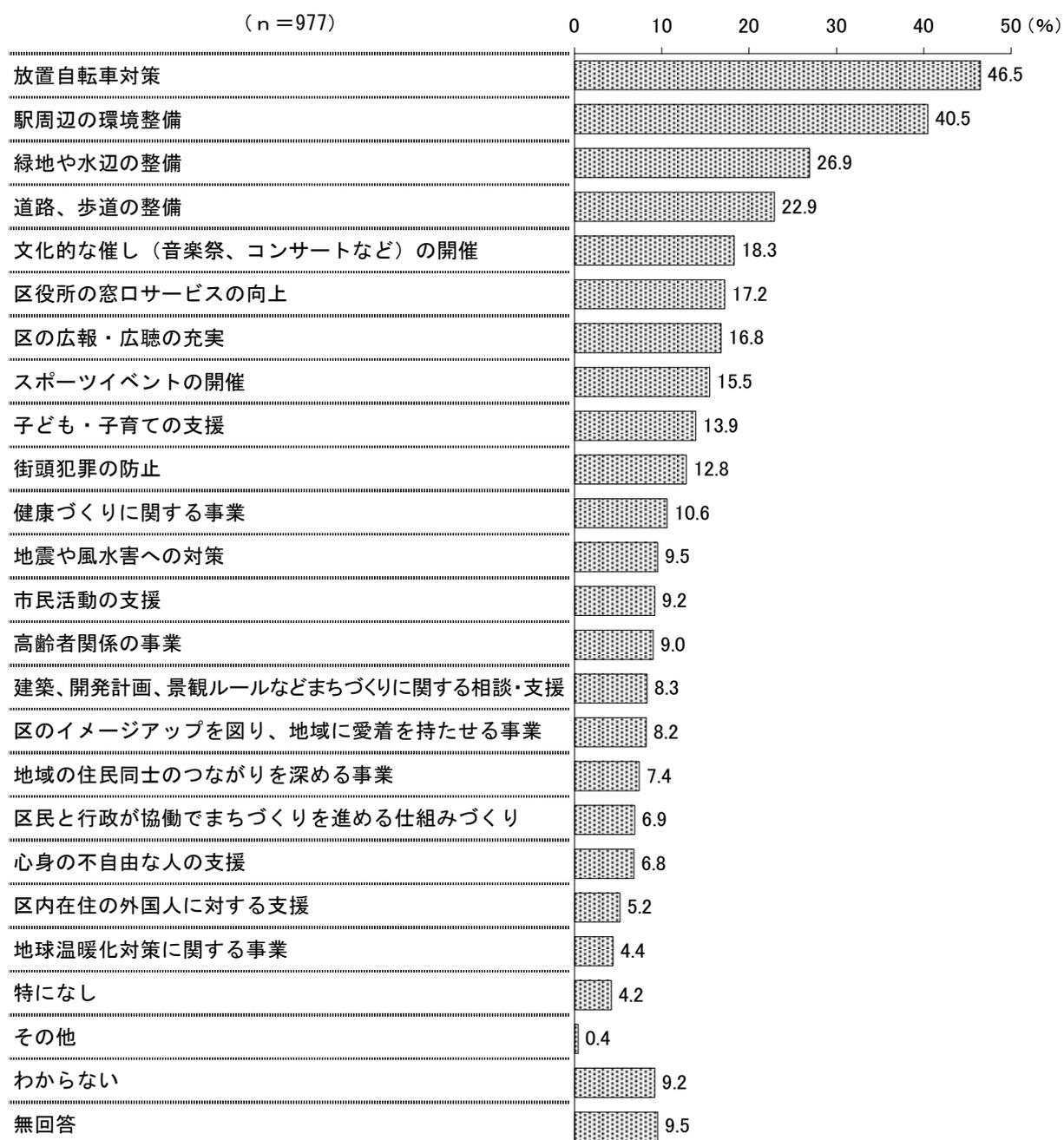
#### (1) 満足している区役所の業務

問6 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思うものは、どれですか。

(○はいくつでも)

区役所の仕事で、よくやっていると思うものは何か聞いたところ、「放置自転車対策」(46.5%)が5割近くで最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(40.5%)、「緑地や水辺の整備」(26.9%)、「道路、歩道の整備」(22.9%)、「文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催」(18.3%)などの順となっている。(図表3-1-1)

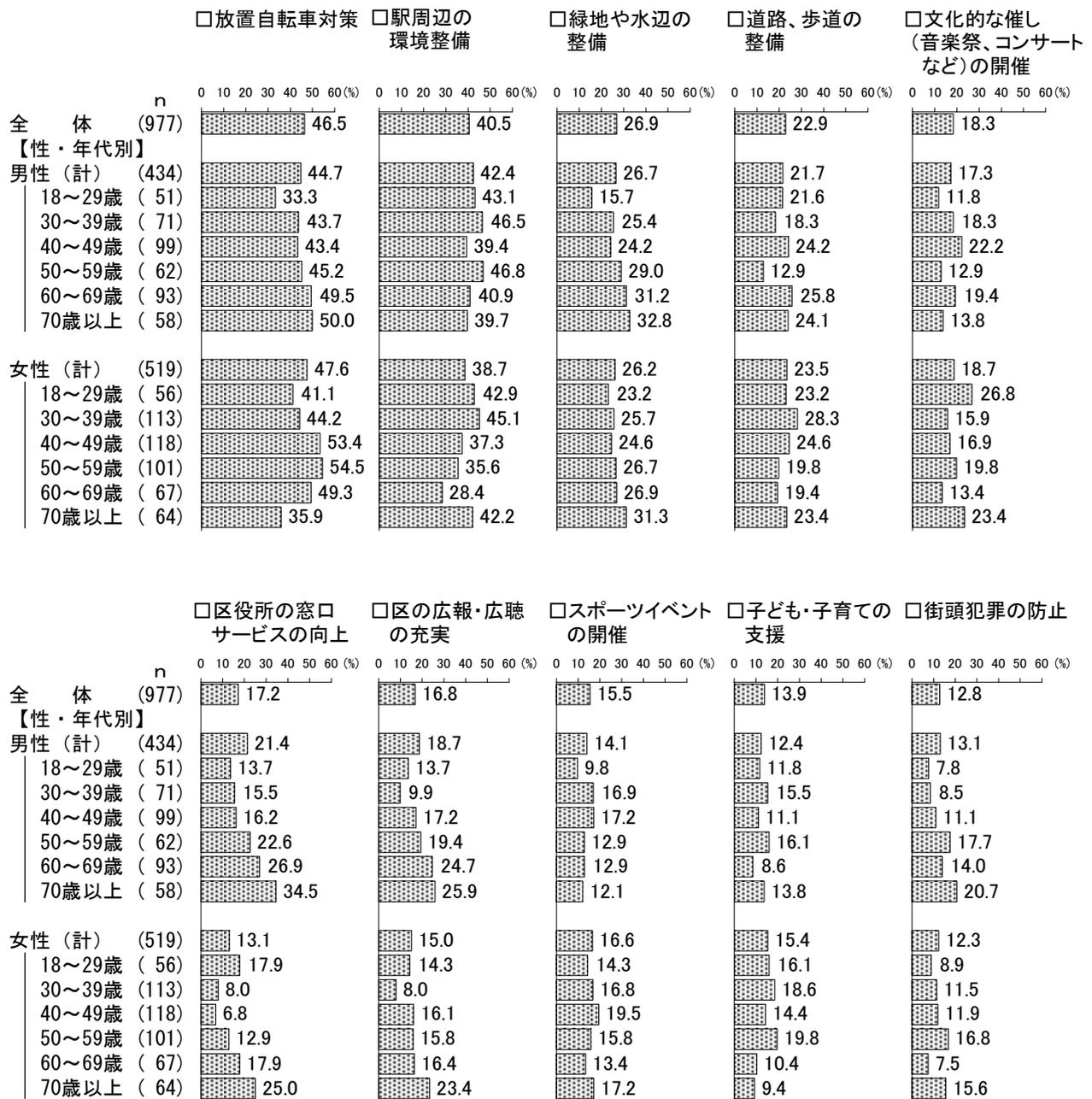
図表3-1-1 満足している区役所の業務



性・年代別にみると、「放置自転車対策」は女性50～59歳（54.5%）が5割台半ばで高くなっている。「区役所の窓口サービスの向上」は男性70歳以上（34.5%）が3割台半ばで高くなっている。

(図表3-1-2)

図表3-1-2 満足している区役所の業務一性・年代別（上位10項目）

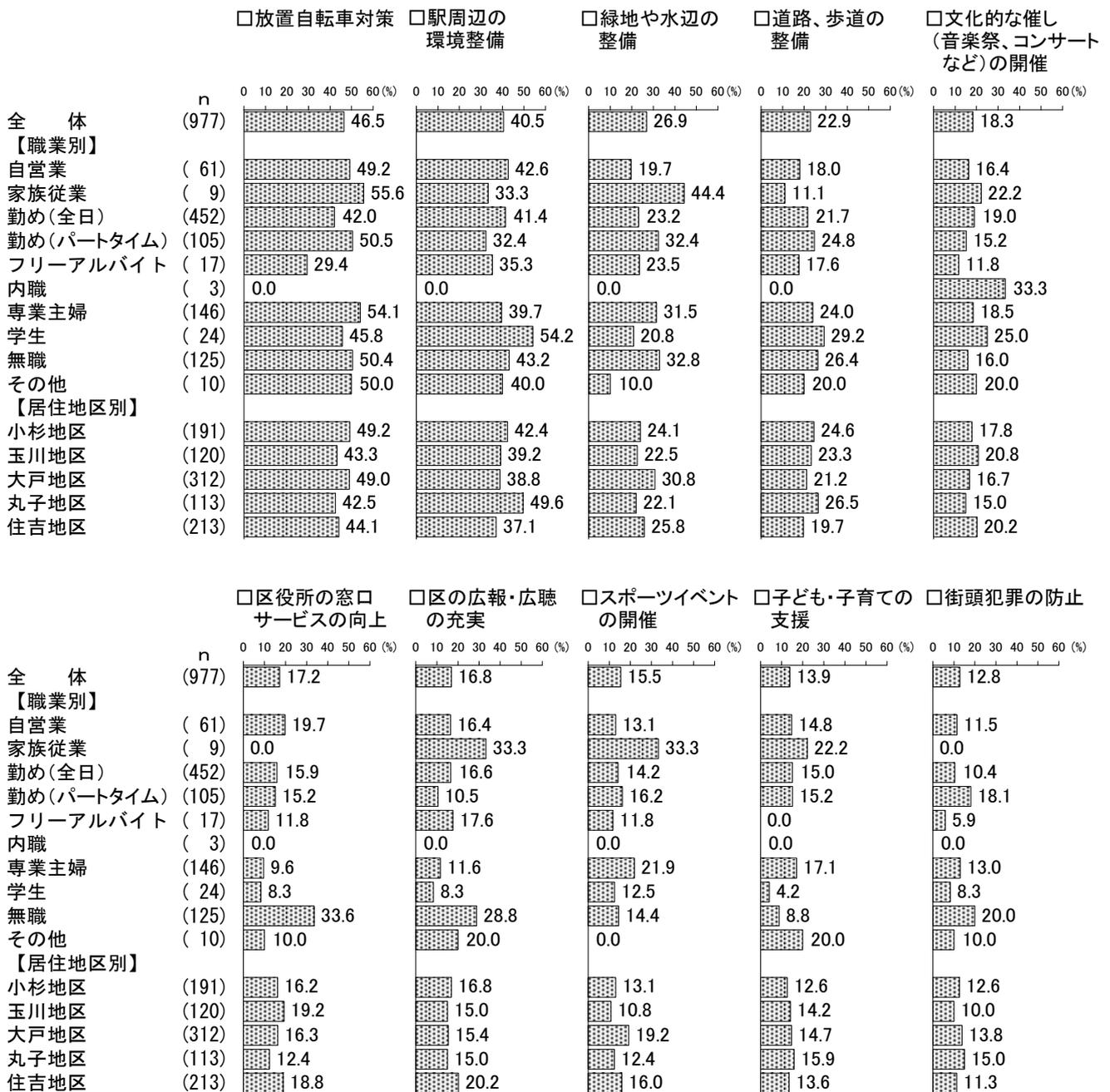


職業別にみると、「放置自転車対策」は専業主婦（54.1%）が5割台半ばで高くなっている。「駅周辺の環境整備」は学生（54.2%）が5割台半ばで高くなっている。

居住地区別にみると、「駅周辺の環境整備」は丸子地区（49.6%）が約5割で高くなっている。

（図表3-1-3）

図表3-1-3 満足している区役所の業務—職業別・居住地区別（上位10項目）

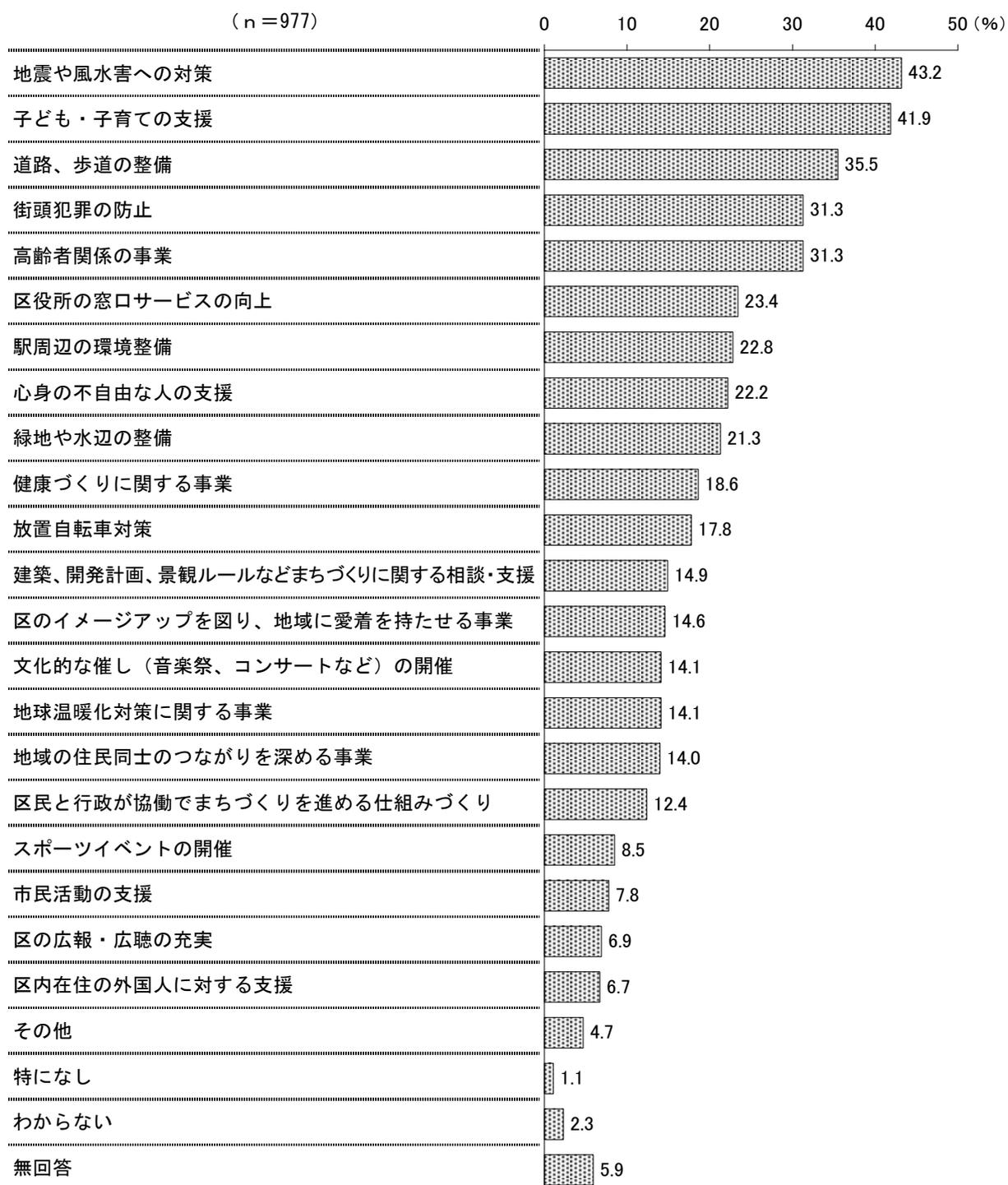


## (2) 力を入れてほしい区役所の業務

問7 今後、特に力を入れてほしいと思うものは、どれですか。(〇はいくつでも)

区役所の仕事で、今後、特に力を入れてほしいと思うものは何か聞いたところ、「地震や風水害への対策」(43.2%)と「子ども・子育ての支援」(41.9%)がともに4割を超えて高く、次いで「道路、歩道の整備」(35.5%)、「街頭犯罪の防止」(31.3%)、「高齢者関係の事業」(31.3%)などの順となっている。(図表3-2-1)

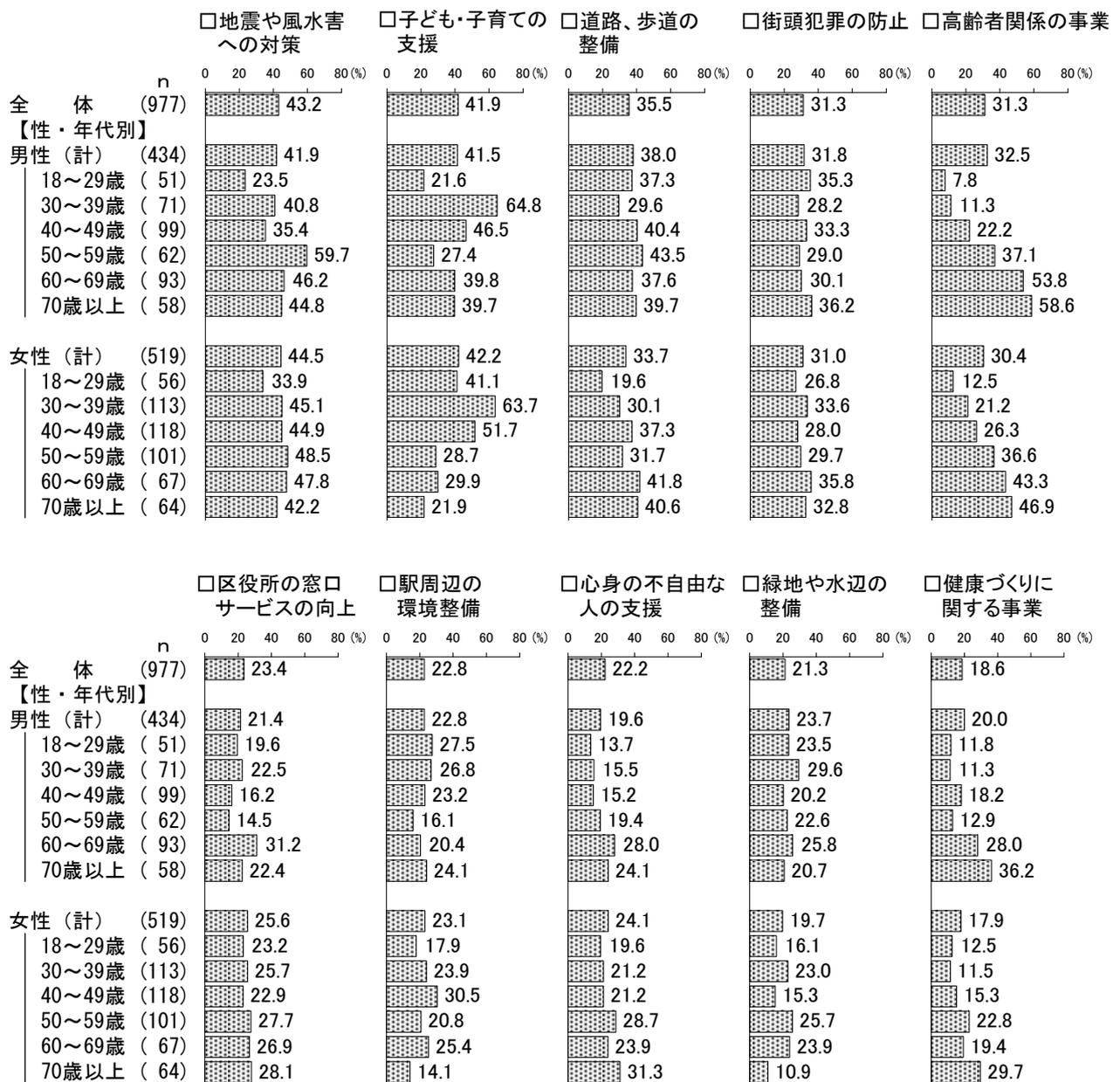
図表3-2-1 力を入れてほしい区役所の業務



性・年代別にみると、「地震や風水害への対策」は男性50～59歳（59.7%）が約6割で高くなっている。「子ども・子育ての支援」は男性30～39歳（64.8%）と女性30～39歳（63.7%）がともに6割台で高くなっている。「高齢者関係の事業」は男性70歳以上（58.6%）が6割近くで高くなっている。「健康づくりに関する事業」は男性70歳以上（36.2%）が3割台半ばで高くなっている。

(図表3-2-2)

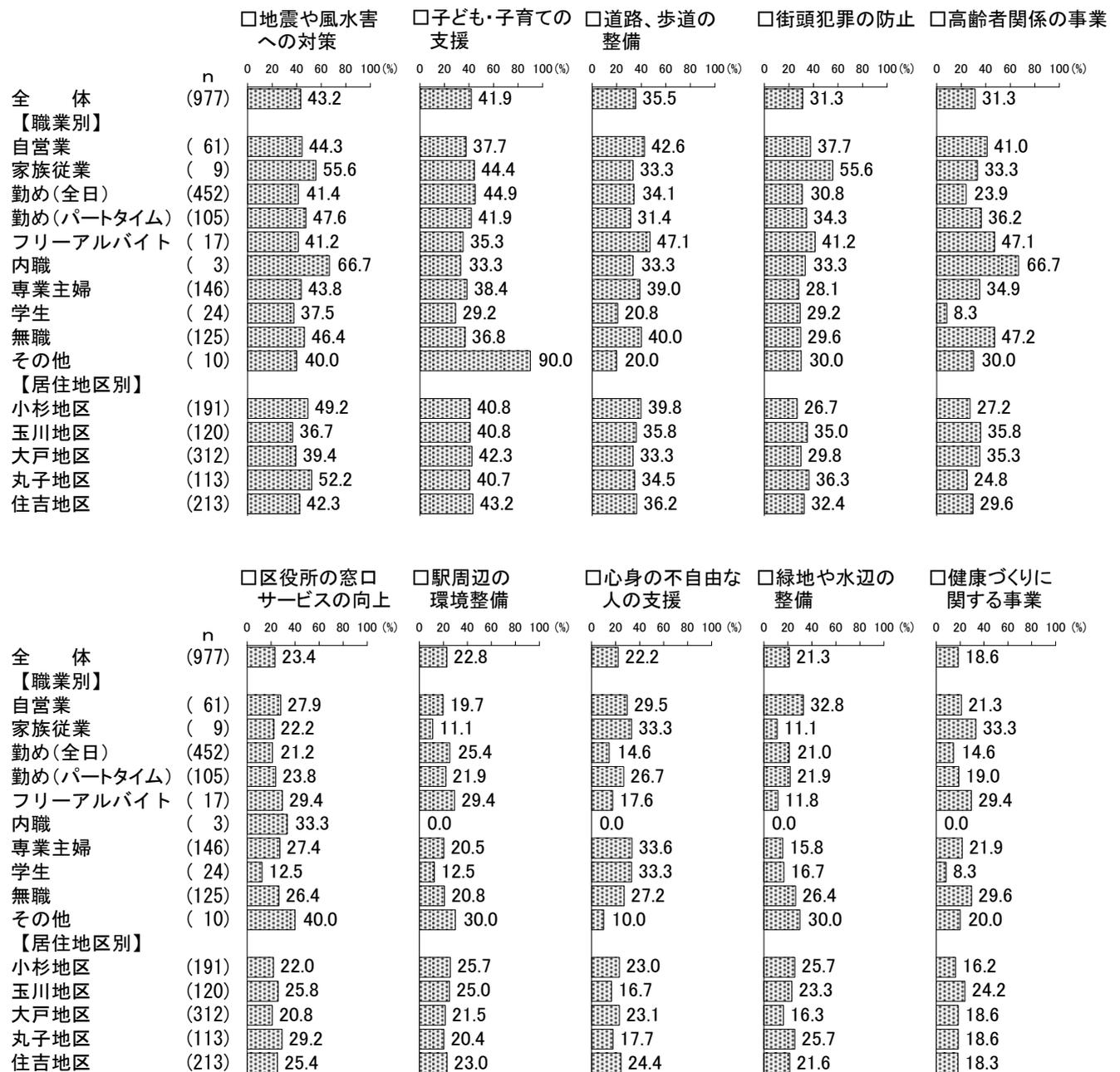
図表3-2-2 力を入れてほしい区役所の業務－性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「道路、歩道の整備」はフリーアルバイト（47.1%）が5割近くで高くなっている。「高齢者関係の事業」は無職（47.2%）とフリーアルバイト（47.1%）がともに5割近くで高くなっている。

居住地区別にみると、「地震や風水害への対策」は丸子地区（52.2%）が5割を超えて高くなっている。（図表3-2-3）

図表3-2-3 力を入れてほしい区役所の業務—職業別・居住地区別（上位10項目）

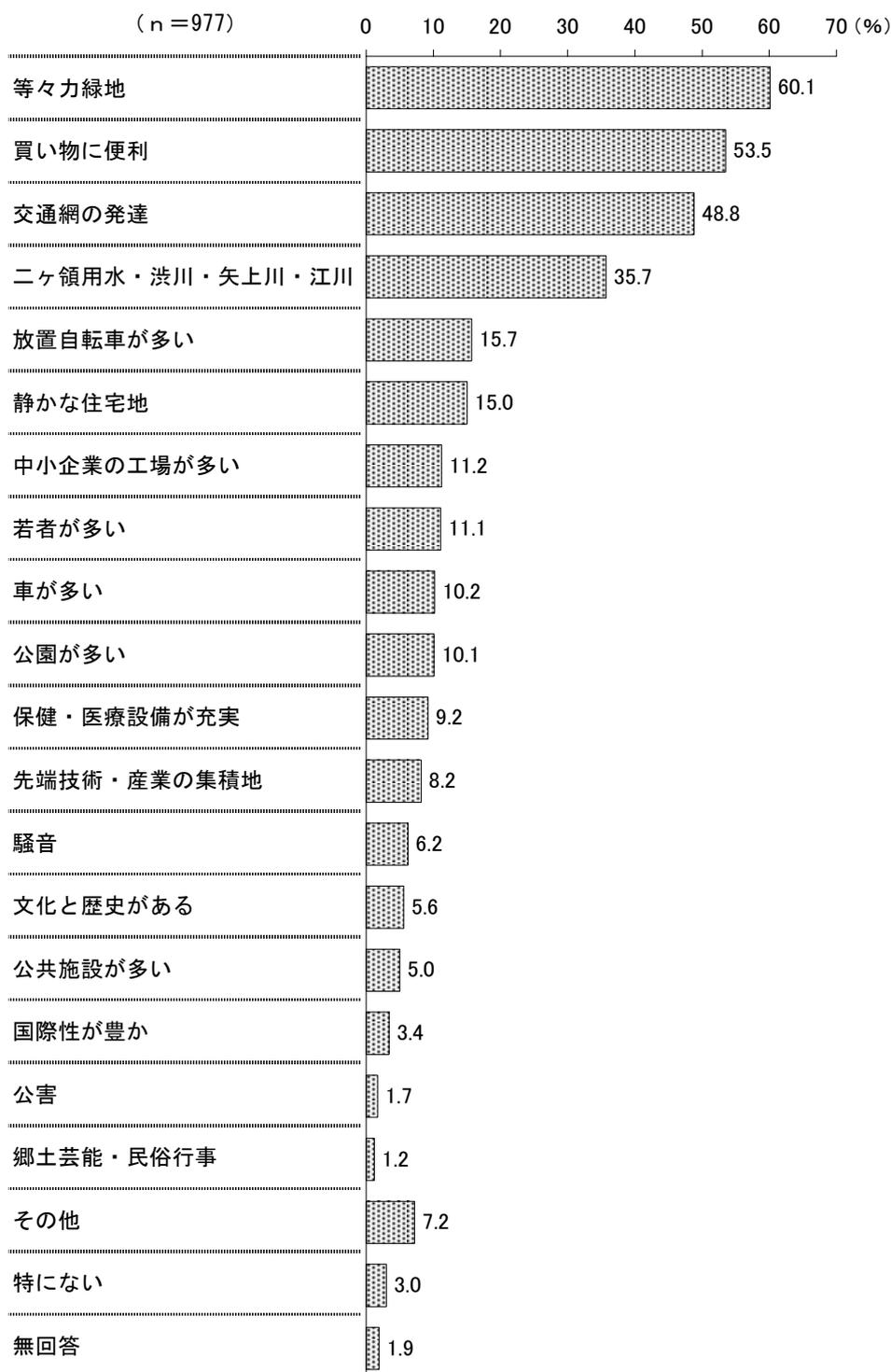


### (3) 中原区のイメージ

問8 中原区の「イメージ」として何を思い浮かべますか。(〇はいくつでも)

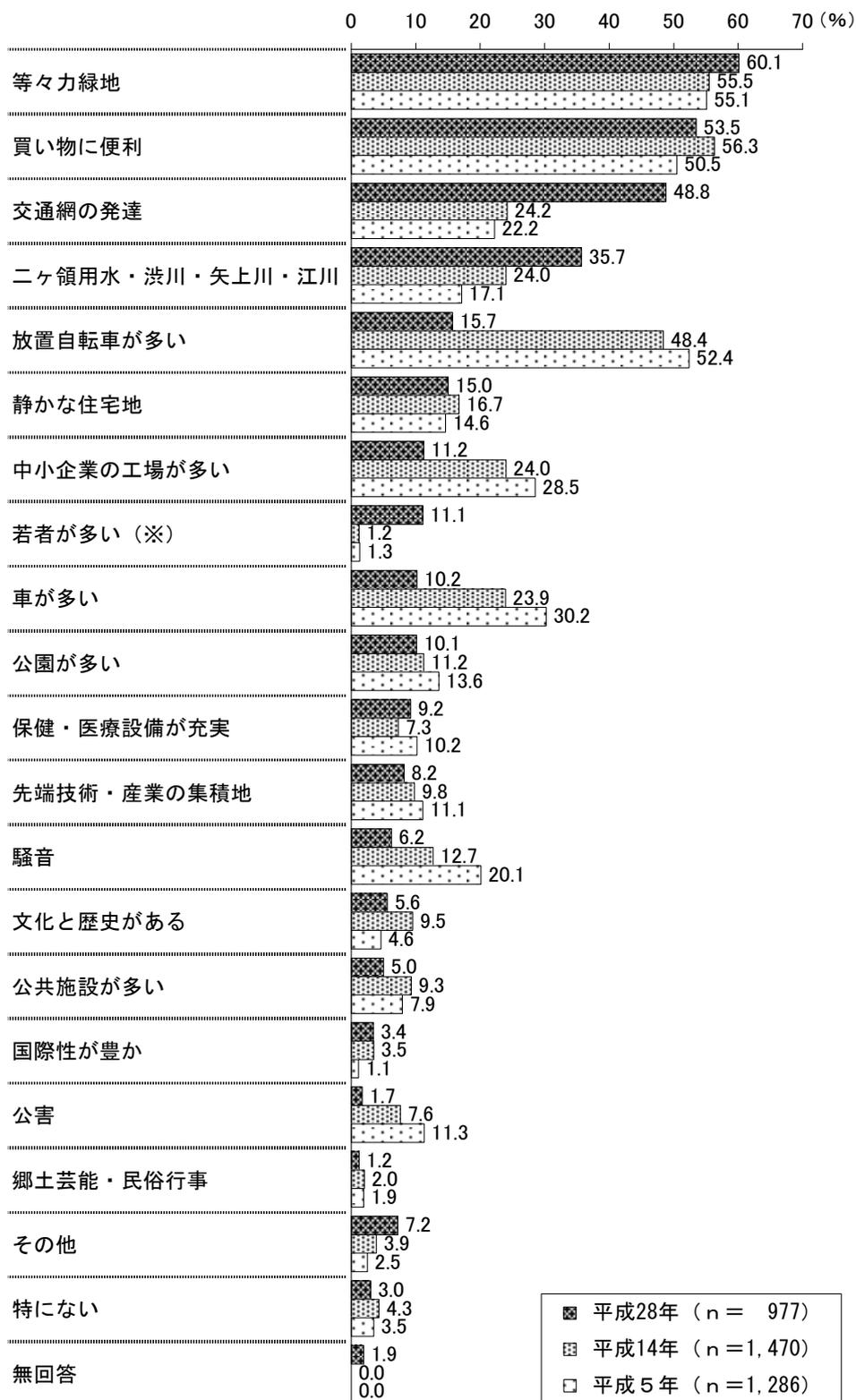
中原区の「イメージ」として何を思い浮かべるか聞いたところ、「等々力緑地」(60.1%)が約6割で最も高く、次いで「買い物に便利」(53.5%)、「交通網の発達」(48.8%)、「二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川」(35.7%)などの順となっている。(図表3-3-1)

図表3-3-1 中原区のイメージ



過去の調査と比較すると、「交通網の発達」(48.8%)は平成14年(24.2%)より24.6ポイント、「二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川」(35.7%)は平成14年(24.0%)より11.7ポイント、それぞれ増加している。一方、「放置自転車が多い」(15.7%)は平成14年(48.4%)より32.7ポイント減少しているほか、「中小企業の工場が多い」、「車が多い」、「公園が多い」、「先端技術・産業の集積地」、「騒音」、「公害」は減少傾向となっている。(図表3-3-2)

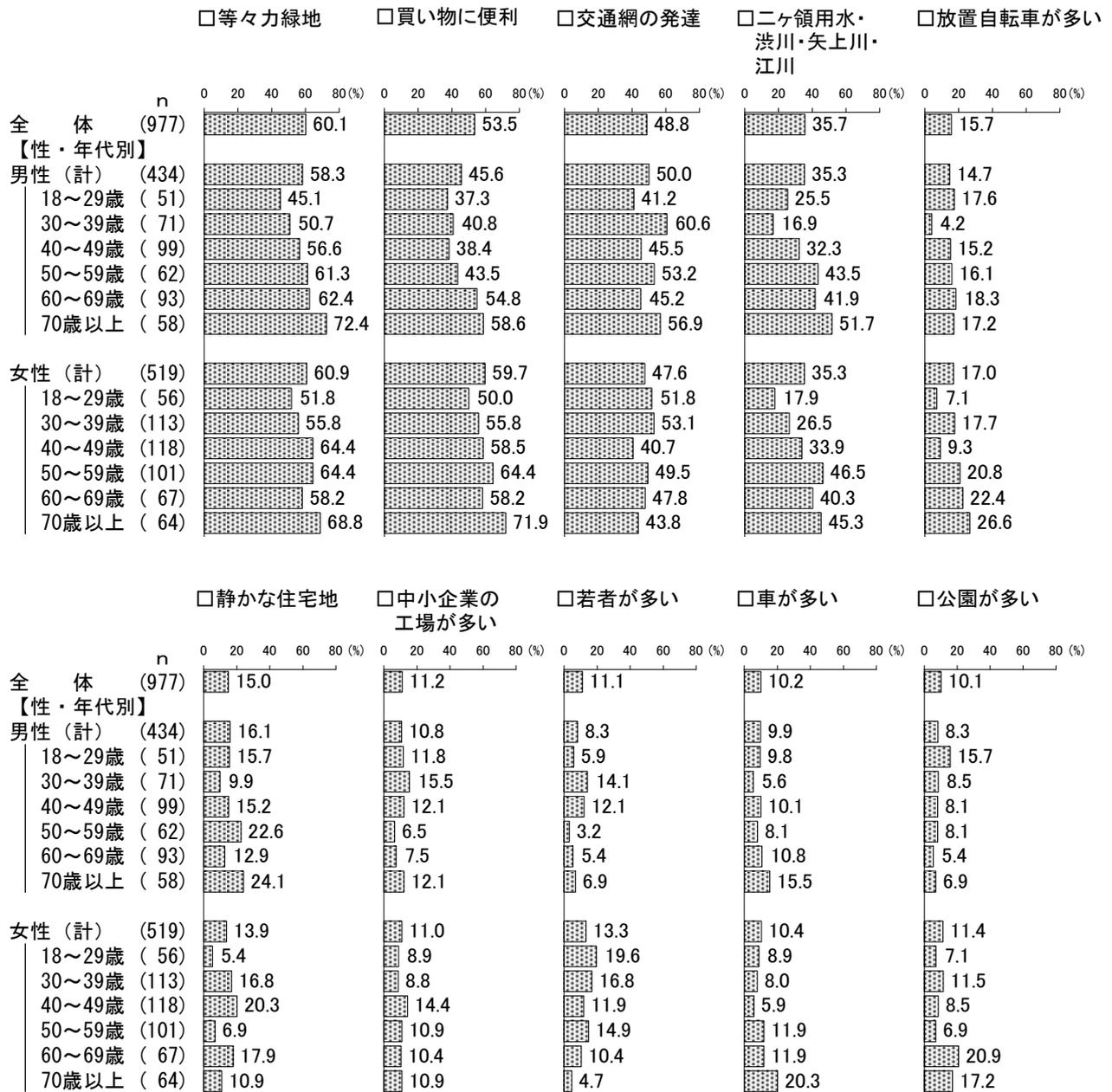
図表3-3-2 中原区のイメージ過去の調査との比較



※ 「若者が多い」は、過去の調査では「若者のまち」としていた。

性・年代別にみると、「等々力緑地」は男性70歳以上（72.4%）が7割を超えて高くなっている。「買い物に便利」は女性70歳以上（71.9%）が7割を超えて高くなっている。「交通網の発達」は男性30～39歳（60.6%）が約6割で高くなっている。「ニヶ領用水・渋川・矢上川・江川」は男性70歳以上（51.7%）が5割を超えて高くなっている。（図表3-3-3）

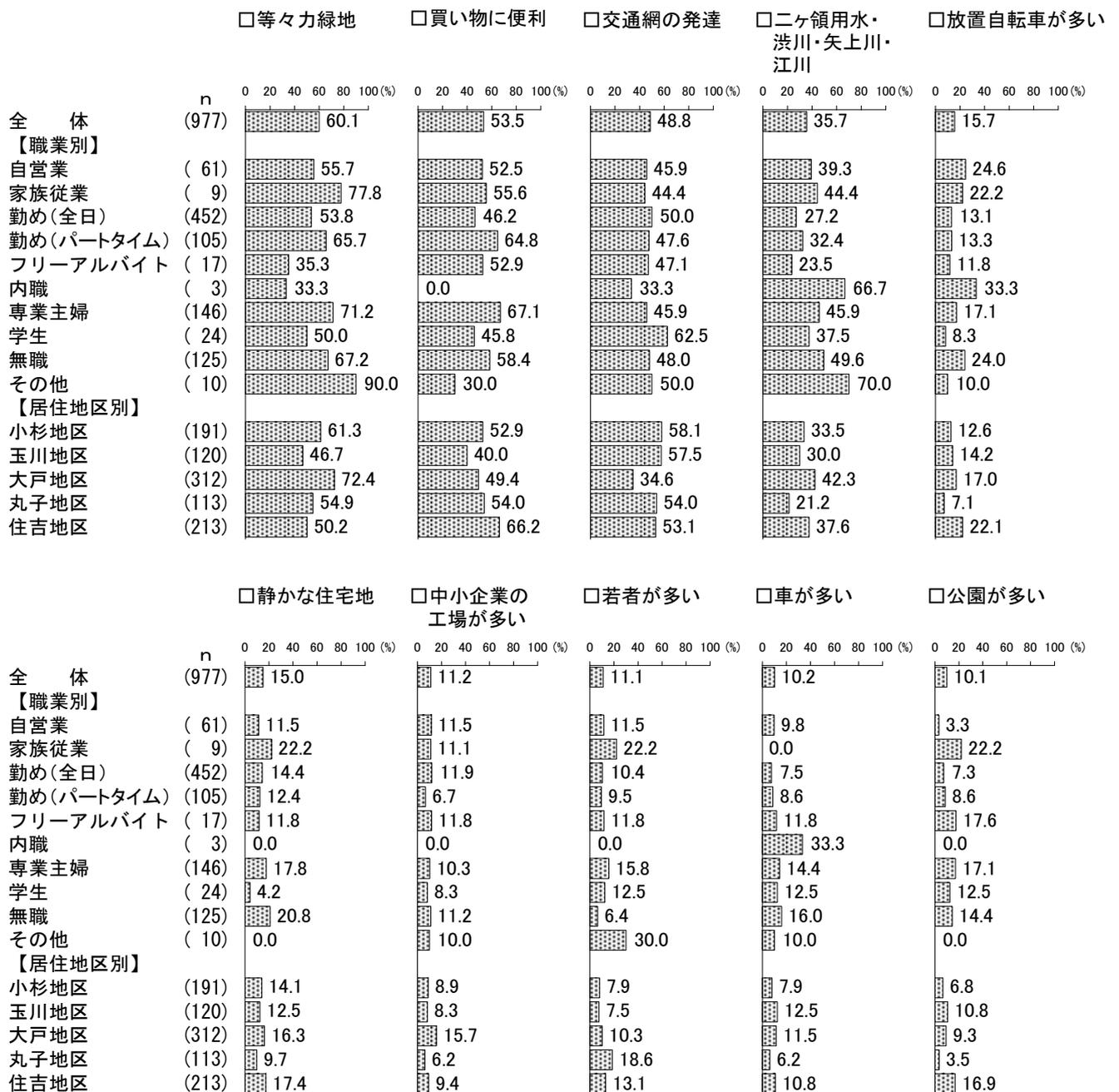
図表3-3-3 中原区のイメージ性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「等々力緑地」は専業主婦（71.2%）が7割を超えて高くなっている。「買い物に便利」は専業主婦（67.1%）と勤め（パートタイム）（64.8%）がともに6割台で高くなっている。「交通網の発達」は学生（62.5%）が6割を超えて高くなっている。「二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川」は無職（49.6%）が約5割で高くなっている。

居住地区別にみると、「等々力緑地」は大戸地区（72.4%）が7割を超えて高くなっている。「買い物に便利」は住吉地区（66.2%）が6割台半ばで高くなっている。（図表3-3-4）

図表3-3-4 中原区のイメージ-職業別・居住地区別（上位10項目）



## 4. 中原区役所の広報

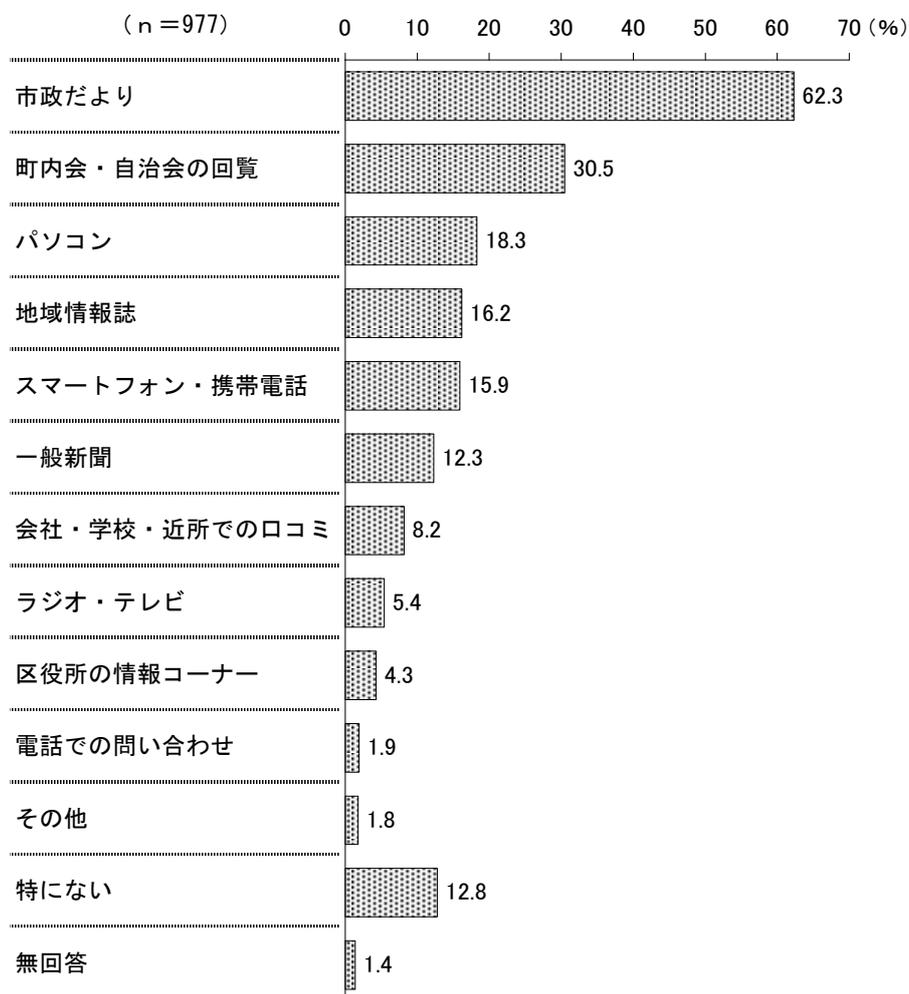
### (1) 行政・地域情報の入手方法

問9 普段、行政情報や地域情報を何から入手していますか。(〇はいくつでも)

普段、行政情報や地域情報を何から入手しているか聞いたところ、「市政だより」(62.3%)が6割を超えて最も高く、次いで「町内会・自治会の回覧」(30.5%)、「パソコン」(18.3%)、「地域情報誌」(16.2%)、「スマートフォン・携帯電話」(15.9%)などの順となっている。

(図表4-1-1)

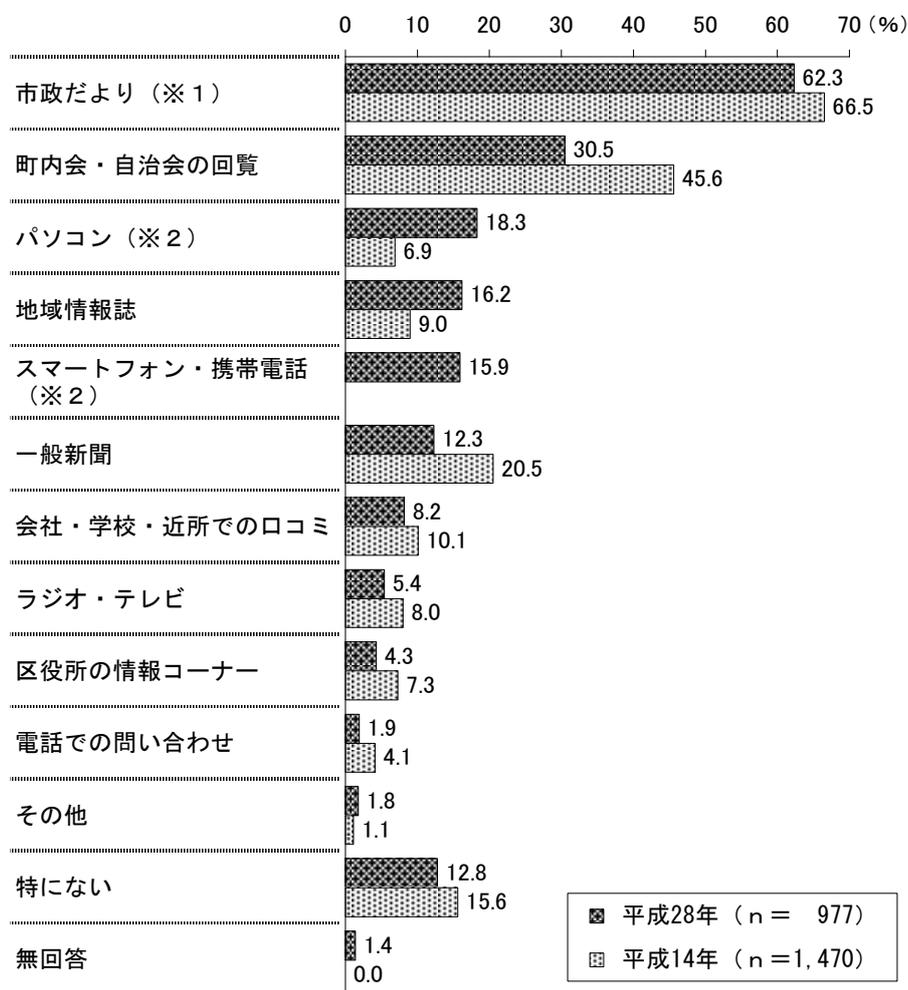
図表4-1-1 行政・地域情報の入手方法



前回調査との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「市政だより」が第1位、「町内会・自治会の回覧」が第2位となっている傾向に変化はみられない。

(図表4-1-2)

図表4-1-2 行政・地域情報の入手方法—前回調査との比較



※1 「市政だより」は、前回調査では「市政だより (区版)」としていた。

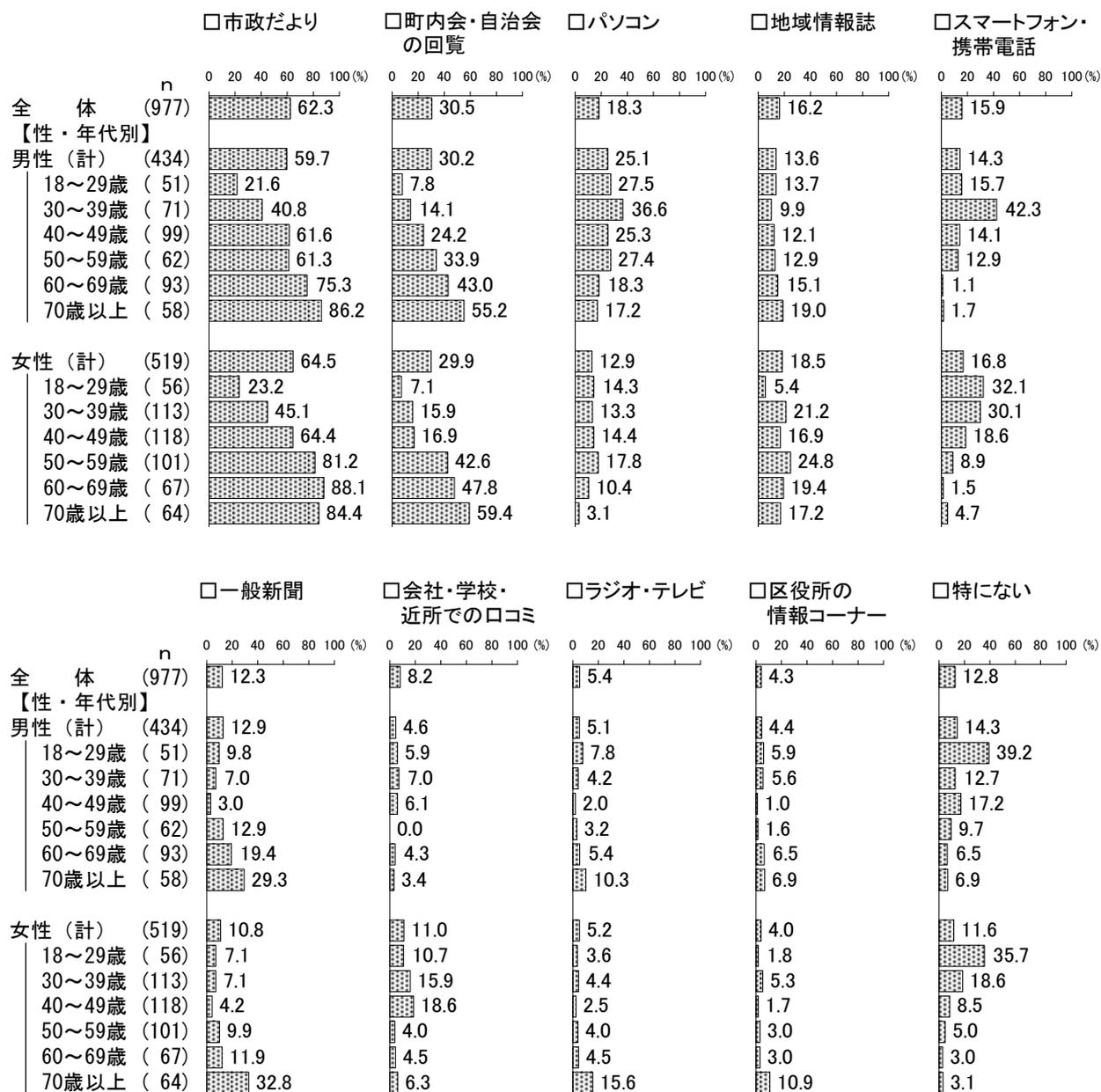
※2 「パソコン」と「スマートフォン・携帯電話」は、前回調査では1つの選択肢「インターネット」としていた。なお、作図の便宜上「パソコン」と並べて比較した。

※3 前回調査で選択肢としていた「JR武蔵小杉駅前の総合案内板」(3.5%)は、今回調査では質問していない。

性・年代別にみると、「市政だより」は女性60～69歳（88.1%）が9割近く、男性70歳以上（86.2%）と女性70歳以上（84.4%）がともに8割台半ばで高くなっている。「町内会・自治会の回覧」は女性70歳以上（59.4%）が約6割で高くなっている。「パソコン」は男性30～39歳（36.6%）が4割近くで高くなっている。「スマートフォン・携帯電話」は男性30～39歳（42.3%）が4割を超えて高くなっている。「一般新聞」は女性70歳以上（32.8%）が3割を超えて高くなっている。

（図表4-1-3）

図表4-1-3 行政・地域情報の入手方法—性・年代別（上位10項目）

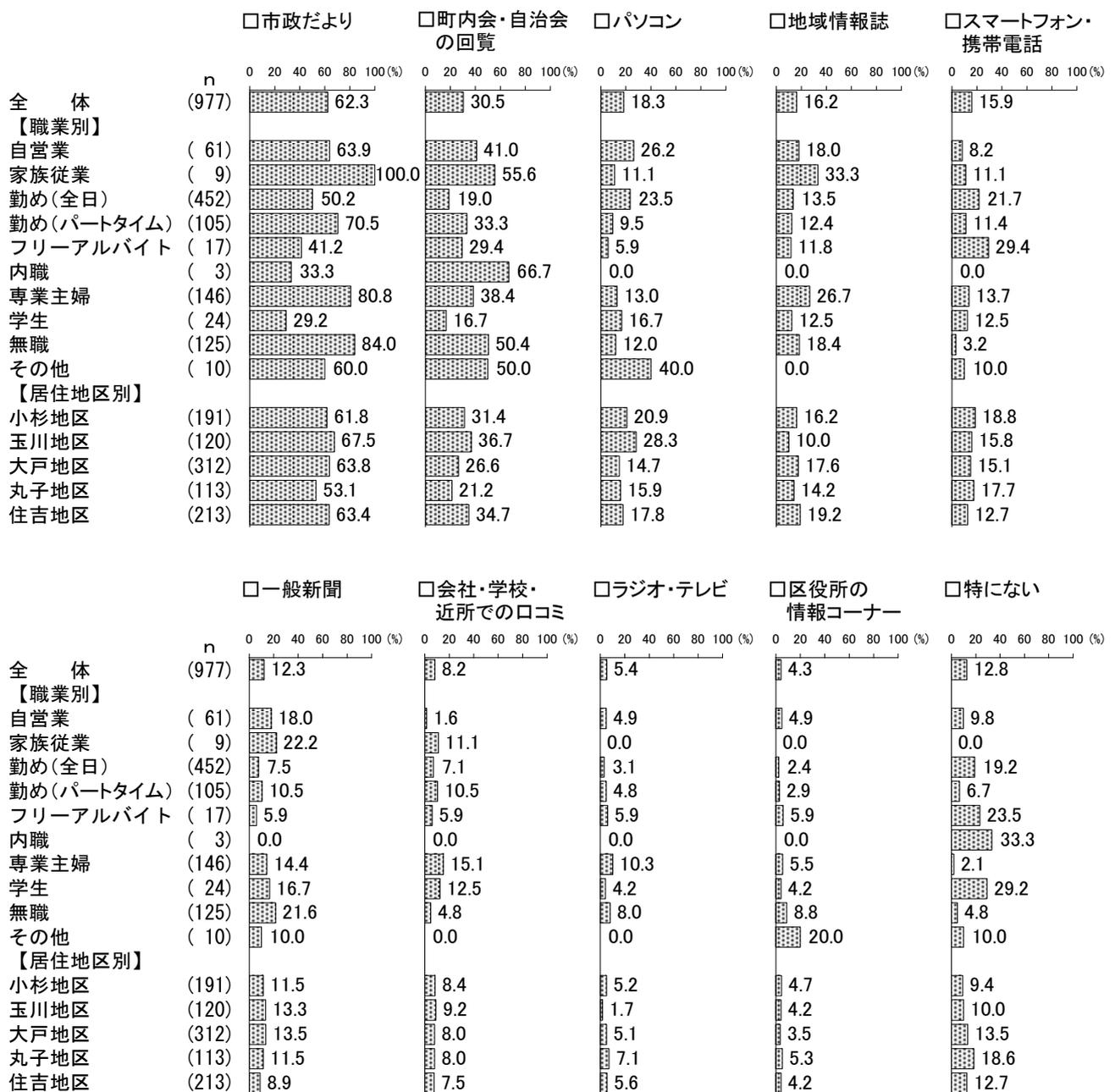


職業別にみると、「市政だより」は無職（84.0%）と専業主婦（80.8%）がともに8割台で高くなっている。「町内会・自治会の回覧」は無職（50.4%）が約5割で高くなっている。「パソコン」は自営業（26.2%）が2割台半ばで高くなっている。「地域情報誌」は専業主婦（26.7%）が3割近くで高くなっている。

居住地区別にみると、「パソコン」は玉川地区（28.3%）が3割近くで高くなっている。

(図表4-1-4)

図表4-1-4 行政・地域情報の入手方法—職業別・居住地区別（上位10項目）



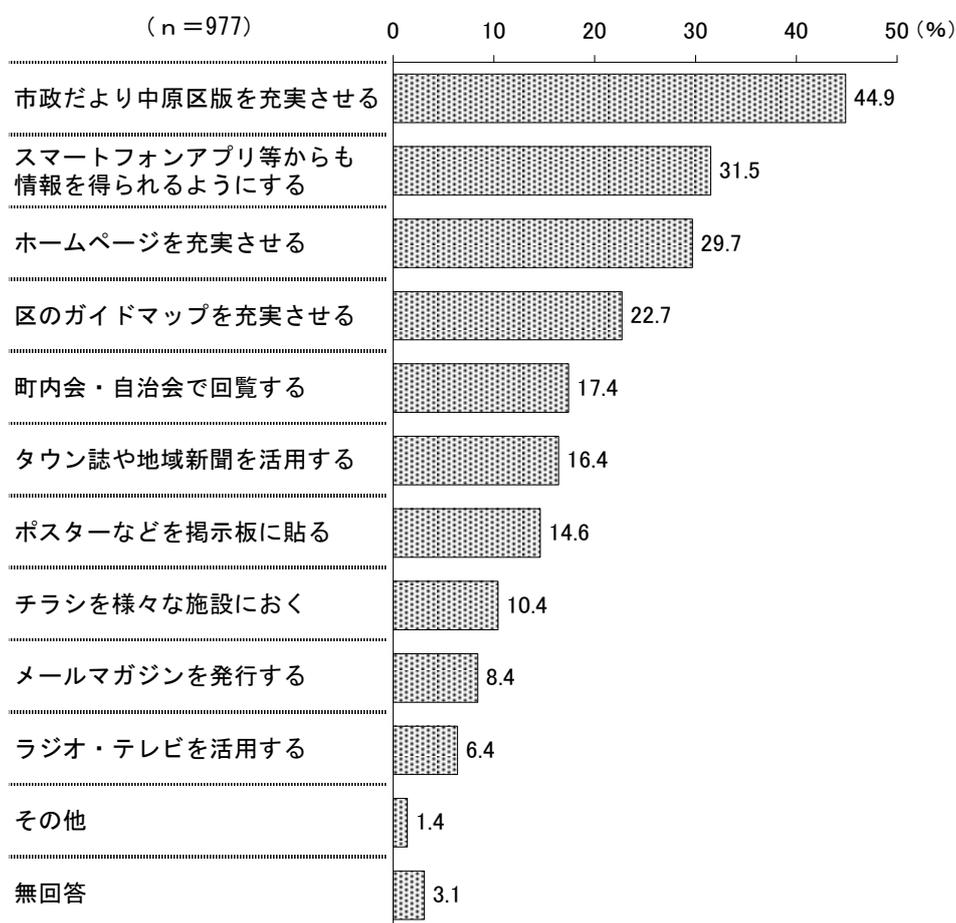
## (2) 充実してほしい行政・地域情報の提供方法

問10 行政情報や地域情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。

(〇は3つまで)

行政情報や地域情報を提供するためには、どのような手法がよいか聞いたところ、「市政だより中原区版を充実させる」(44.9%)が4割台半ばで最も高く、次いで「スマートフォンアプリ等からも情報を得られるようにする」(31.5%)、「ホームページを充実させる」(29.7%)、「区のガイドマップを充実させる」(22.7%)などの順となっている。(図表4-2-1)

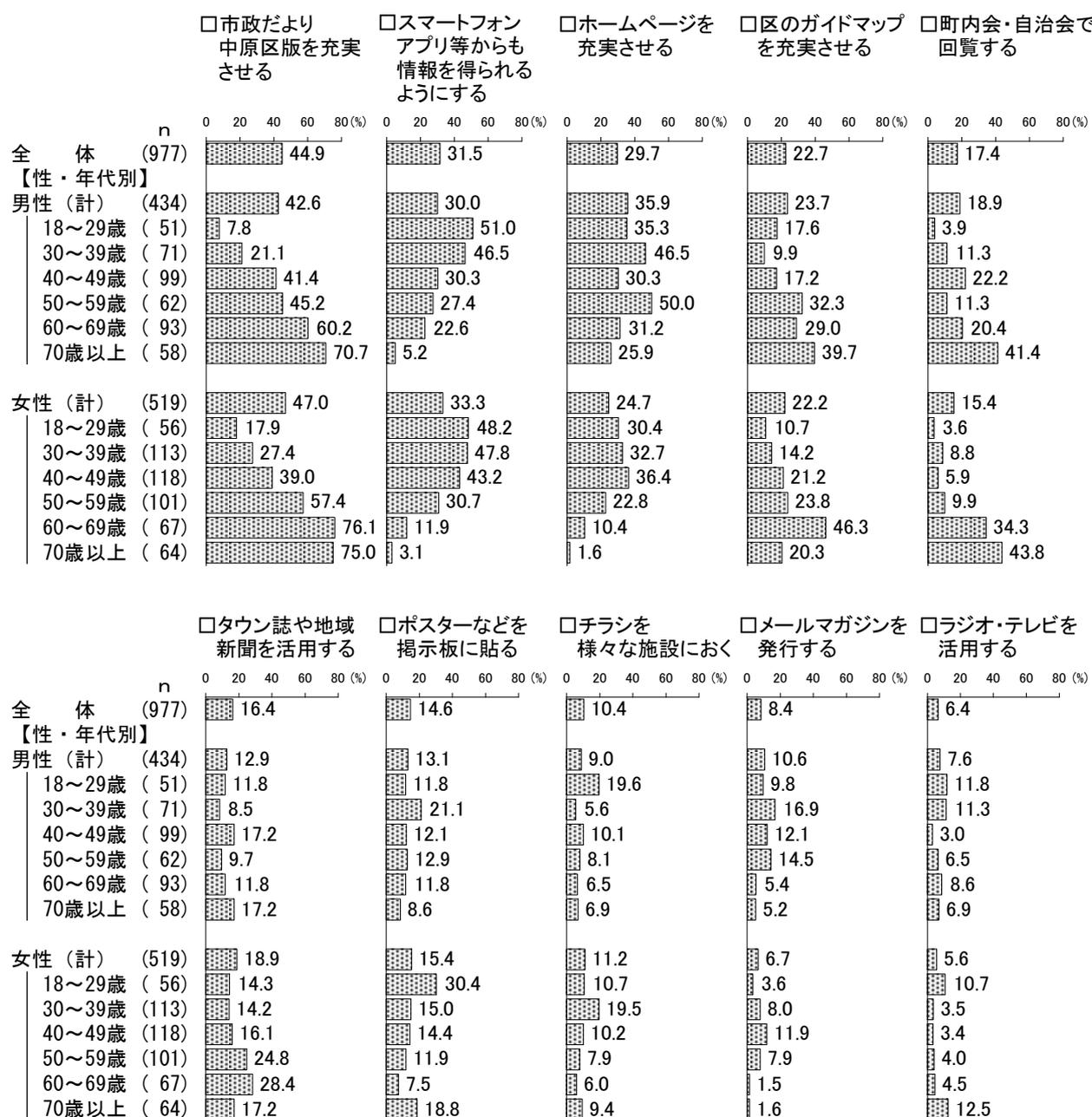
図表4-2-1 充実してほしい行政・地域情報の提供方法



性・年代別にみると、「市政だより中原区版を充実させる」は女性60～69歳（76.1%）と女性70歳以上（75.0%）がともに7割台半ばで高くなっている。「スマートフォンアプリ等からも情報を得られるようにする」は男性18～29歳（51.0%）が5割を超えて高くなっている。「ホームページを充実させる」は男性50～59歳（50.0%）が5割で高くなっている。「区のガイドマップを充実させる」は女性60～69歳（46.3%）が4割台半ばで高くなっている。「町内会・自治会で回覧する」は女性70歳以上（43.8%）と男性70歳以上（41.4%）がともに4割を超えて高くなっている。

(図表4-2-2)

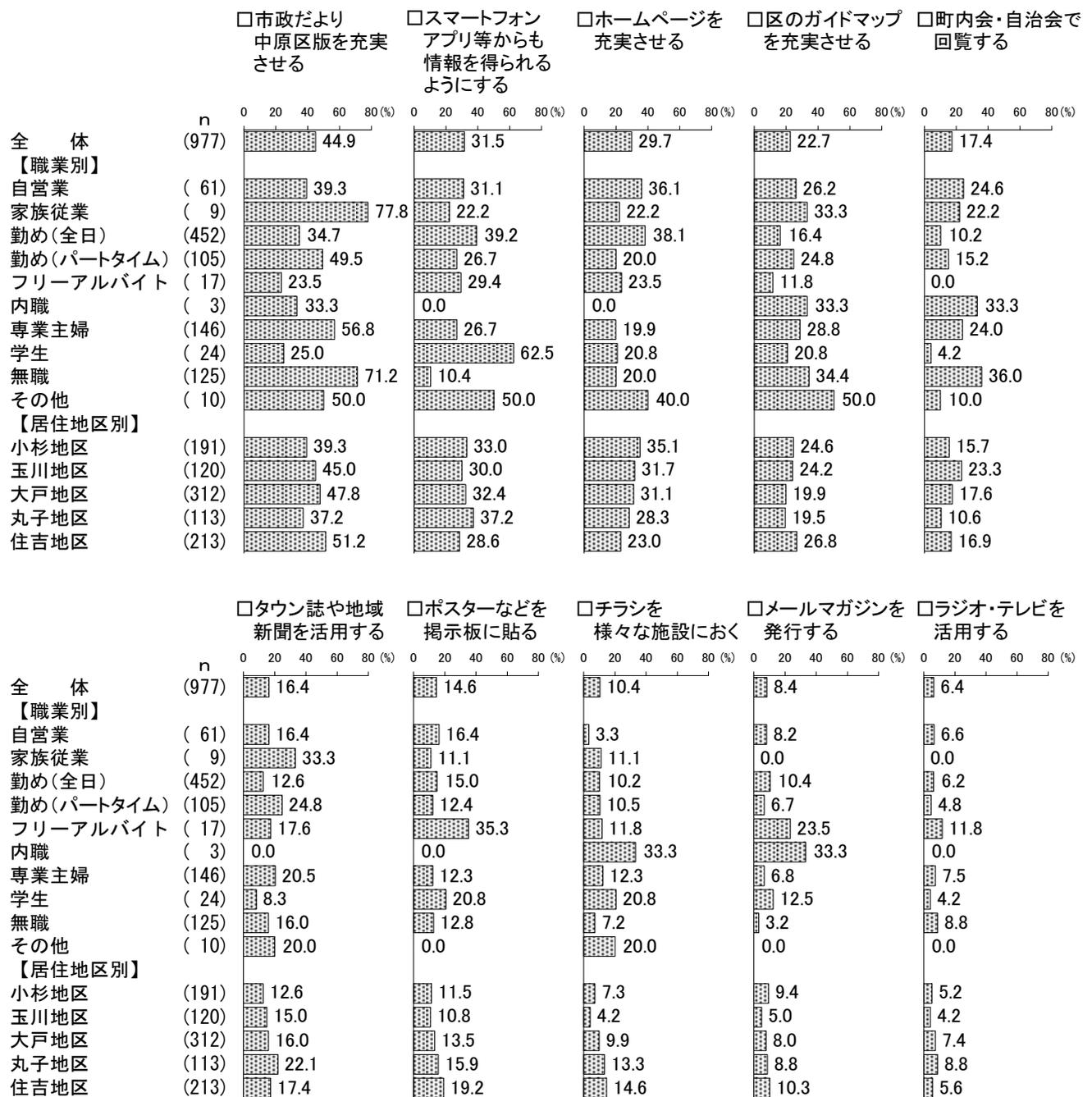
図表4-2-2 充実してほしい行政・地域情報の提供方法－性・年代別



職業別にみると、「市政だより中原区版を充実させる」は無職（71.2%）が7割を超えて高くなっている。「スマートフォンアプリ等からも情報を得られるようにする」は学生（62.5%）が6割を超えて高くなっている。「ホームページを充実させる」は勤め（全日）（38.1%）が4割近くで高くなっている。

居住地区別にみると、「市政だより中原区版を充実させる」は住吉地区（51.2%）が5割を超えて高くなっている。（図表4-2-3）

図表4-2-3 充実してほしい行政・地域情報の提供方法－職業別・居住地区別

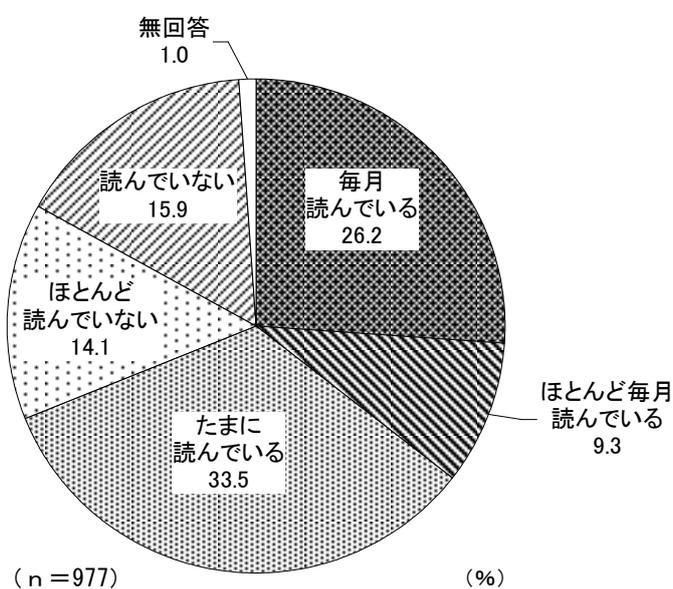


### (3) 「かわさき市政だより」 中原区版の閲覧状況

問11 現在、区の広報誌としては毎月1日発行の「かわさき市政だより」の中に中原区版(2ページ)がありますが、中原区版はお読みになっていますか。(○は1つだけ)

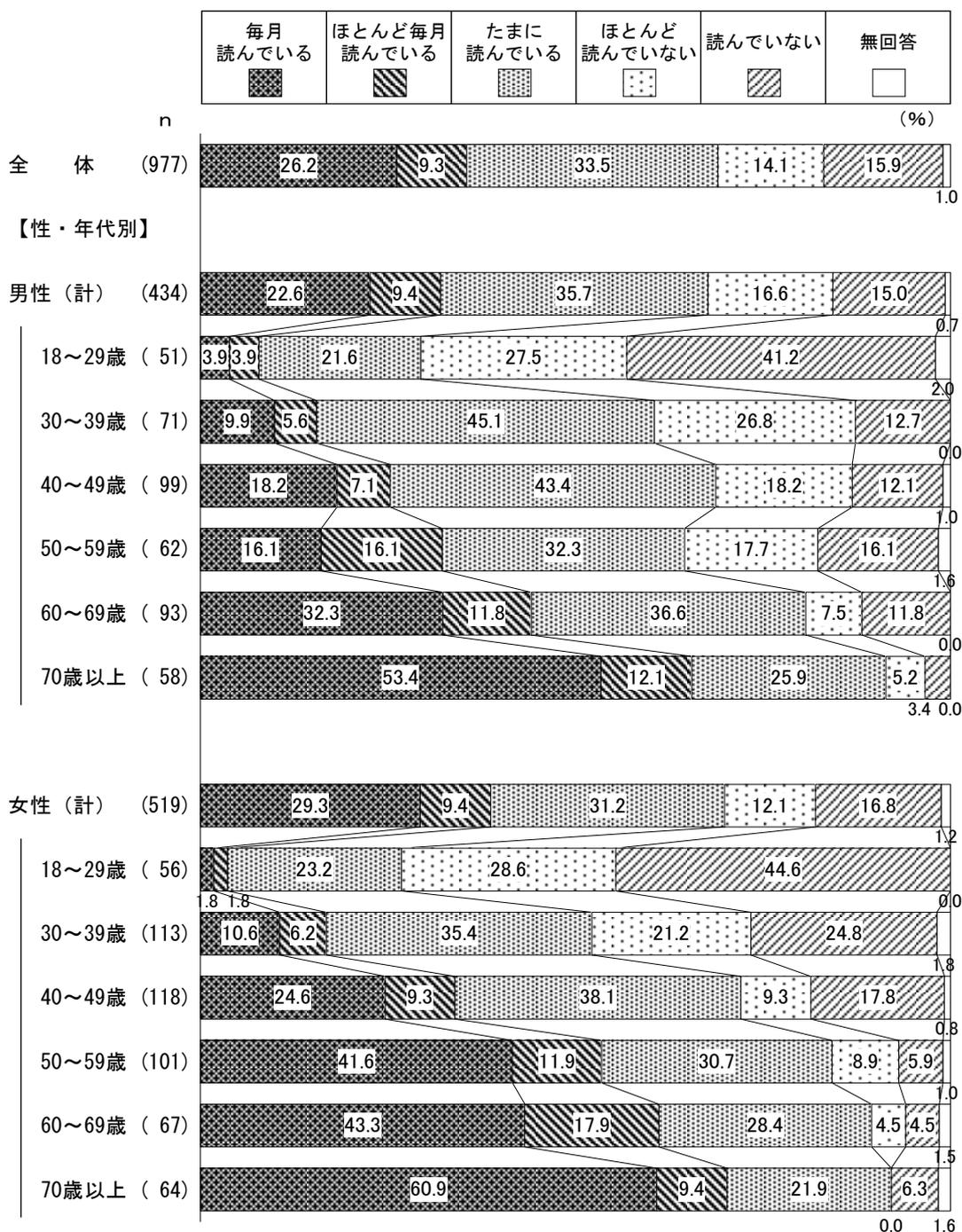
「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況を聞いたところ、「毎月読んでいる」(26.2%)が2割台半ばとなっている。「ほとんど毎月読んでいる」(9.3%)は約1割、「たまに読んでいる」(33.5%)は3割を超えており、「ほとんど読んでいない」(14.1%)と「読んでいない」(15.9%)はともに1割台半ばとなっている。(図表4-3-1)

図表4-3-1 「かわさき市政だより」 中原区版の閲覧状況



性・年代別にみると、「毎月読んでいる」は女性70歳以上(60.9%)が約6割、男性70歳以上(53.4%)が5割を超えて高くなっている。「読んでいない」は女性18～29歳(44.6%)と男性18～29歳(41.2%)がともに4割台で高くなっている。(図表4-3-2)

図表4-3-2 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況－性・年代別

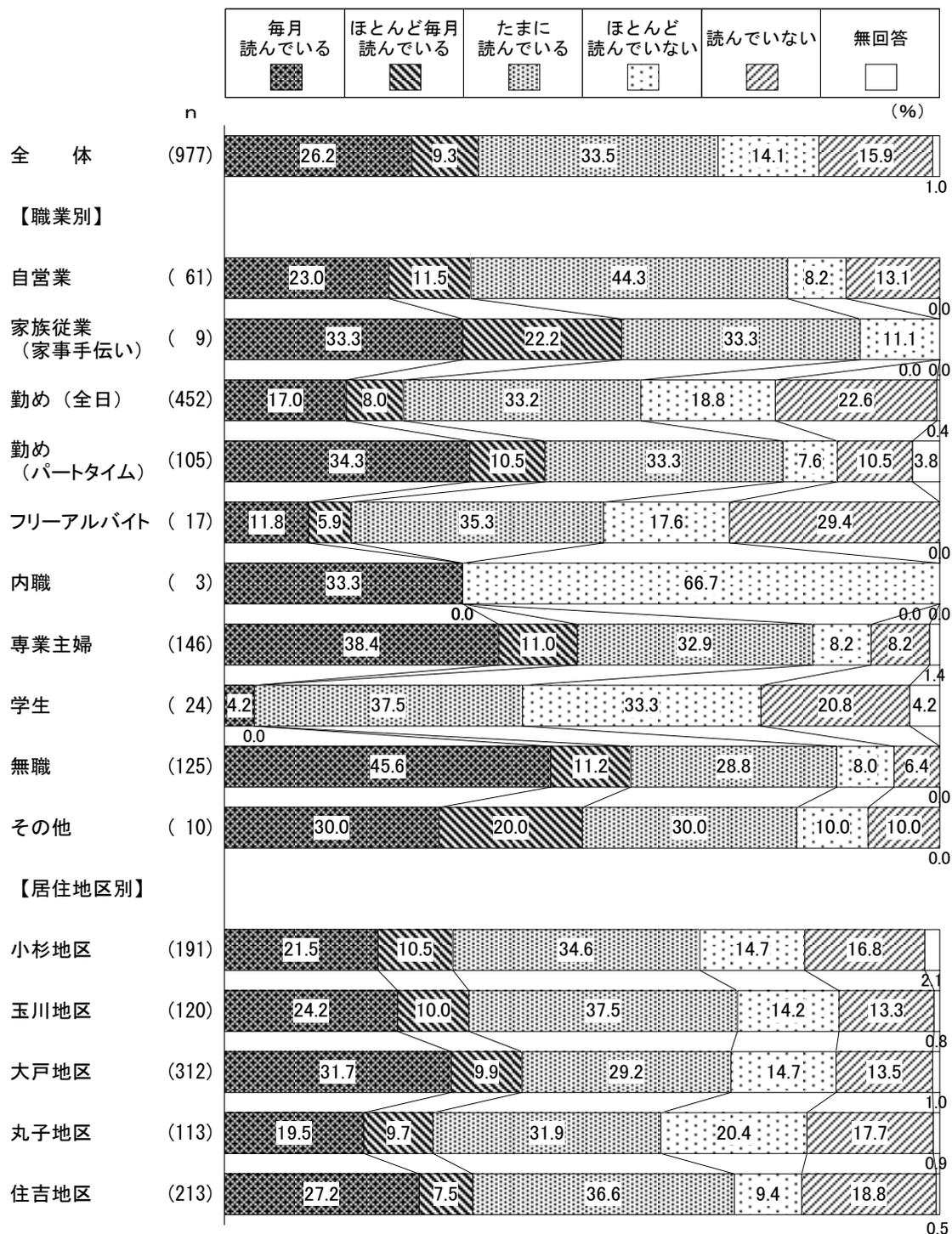


職業別にみると、「毎月読んでいる」は無職（45.6%）が4割台半ば、専業主婦（38.4%）が4割近くで高くなっている。

居住地区別にみると、「毎月読んでいる」は大戸地区（31.7%）が3割を超えて高くなっている。

（図表4-3-3）

図表4-3-3 「かわさき市政だより」中原区版の閲覧状況－職業別・居住地区別

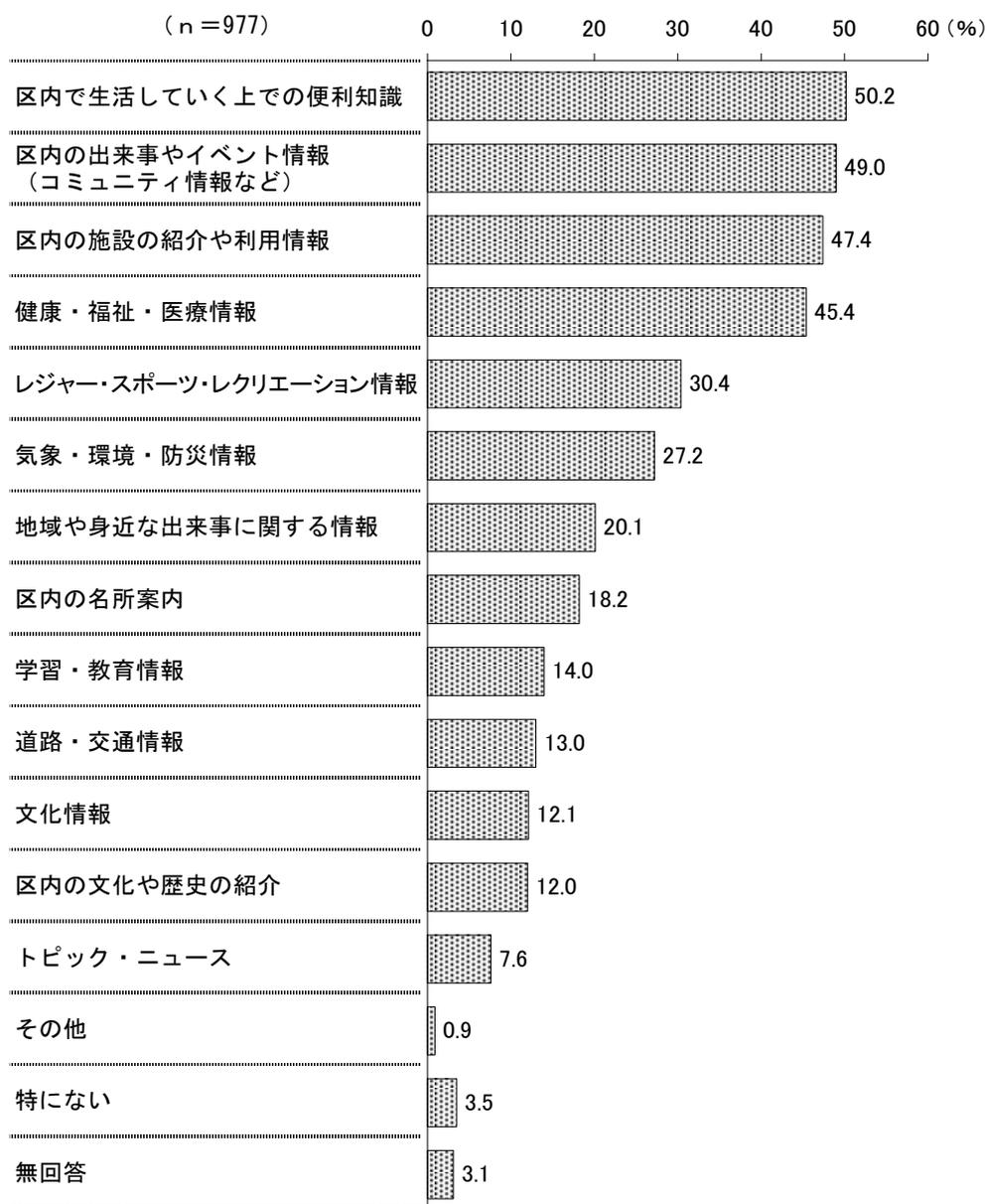


#### (4) 充実してほしい行政・地域情報の種類

問12 今後、区の広報を区民の皆さんの情報源として活かしていくには、どんな内容に重点をおいていくのが良いと思いますか。(〇はいくつでも)

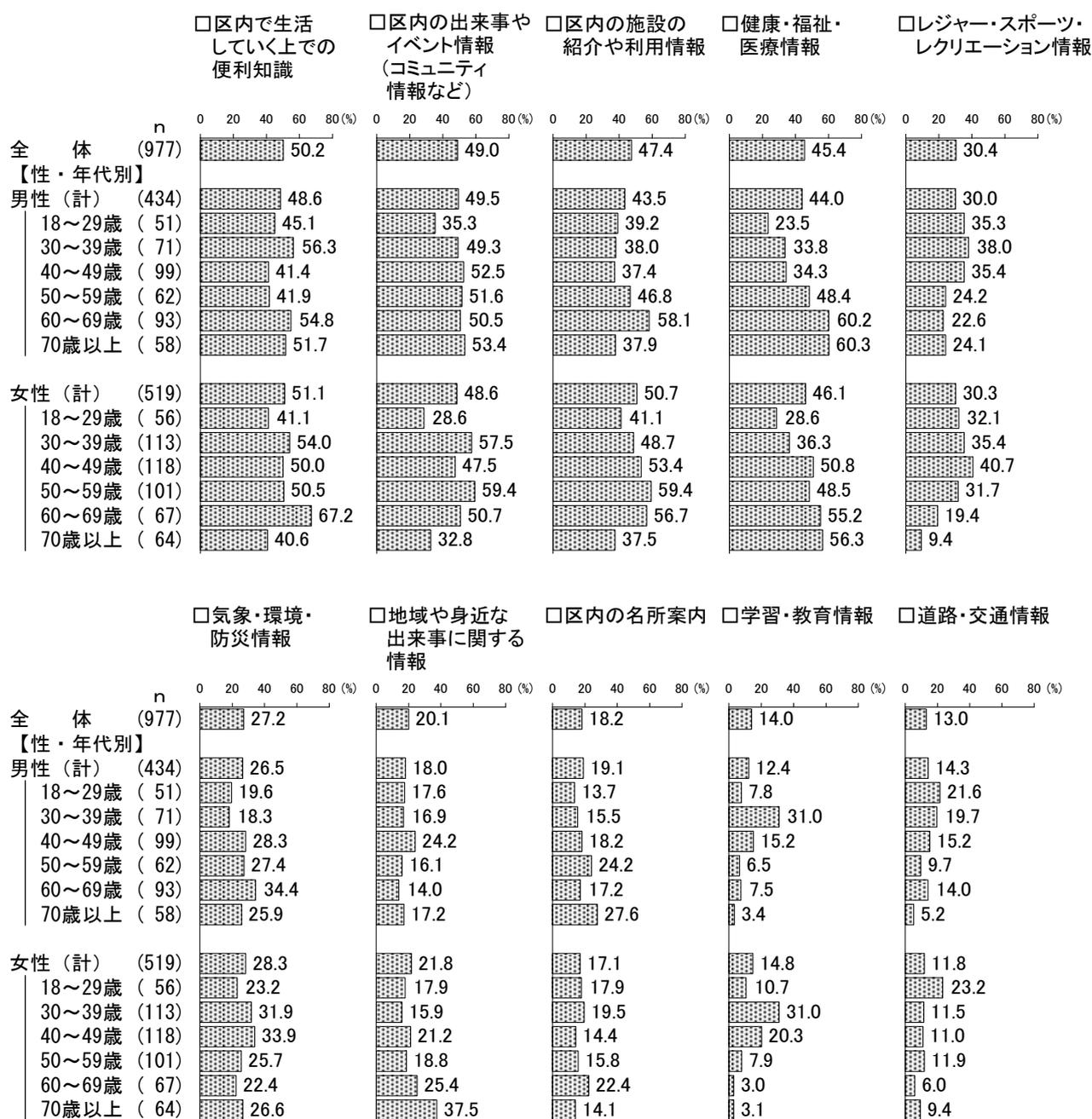
今後、区の広報を区民の情報源として活かしていくには、どんな内容に重点をおいていくのが良いと思うか聞いたところ、「区内で生活していく上での便利知識」(50.2%)が約5割で最も高く、次いで「区内の出来事やイベント情報(コミュニティ情報など)」(49.0%)、「区内の施設の紹介や利用情報」(47.4%)、「健康・福祉・医療情報」(45.4%)、「レジャー・スポーツ・レクリエーション情報」(30.4%)などの順となっている。(図表4-4-1)

図表4-4-1 充実してほしい行政・地域情報の種類



性・年代別にみると、「区内で生活していく上での便利知識」は女性60～69歳（67.2%）が7割近くで高くなっている。「区内の出来事やイベント情報（コミュニティ情報など）」は女性50～59歳（59.4%）が約6割で高くなっている。「区内の施設の紹介や利用情報」は女性50～59歳（59.4%）が約6割で高くなっている。「健康・福祉・医療情報」は男性70歳以上（60.3%）と男性60～69歳（60.2%）がともに約6割で高くなっている。「レジャー・スポーツ・レクリエーション情報」は女性40～49歳（40.7%）が約4割で高くなっている。（図表4-4-2）

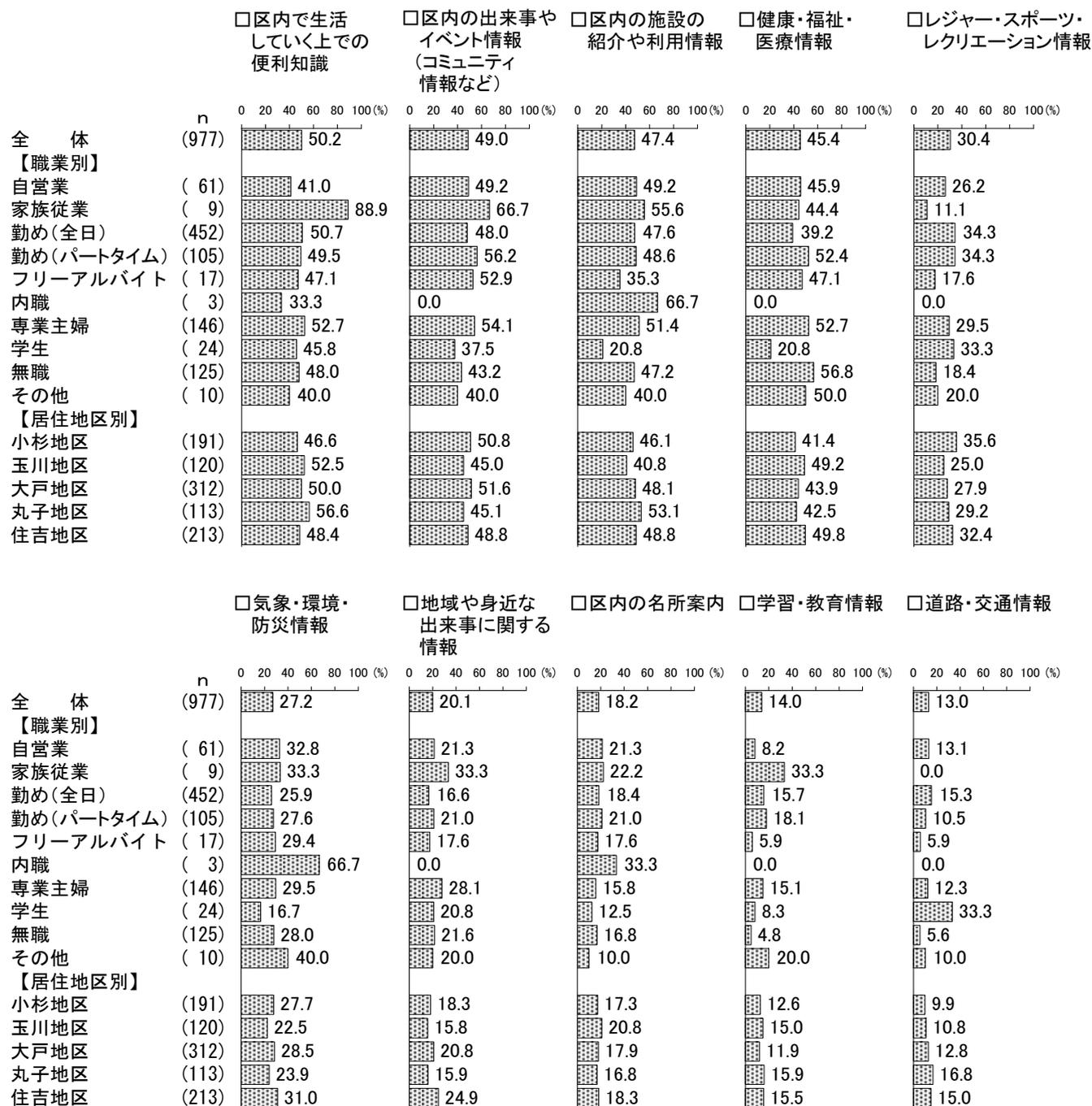
図表4-4-2 充実してほしい行政・地域情報の種類－性・年代別（上位10項目）



職業別にみると、「健康・福祉・医療情報」は無職（56.8%）が6割近くで高くなっている。

居住地区別にみると、「区内で生活していく上での便利知識」は丸子地区（56.6%）が6割近くで高くなっている。「区内の施設の紹介や利用情報」は丸子地区（53.1%）が5割を超えて高くなっている。（図表4-4-3）

図表4-4-3 充実してほしい行政・地域情報の種類－職業別・居住地区別（上位10項目）



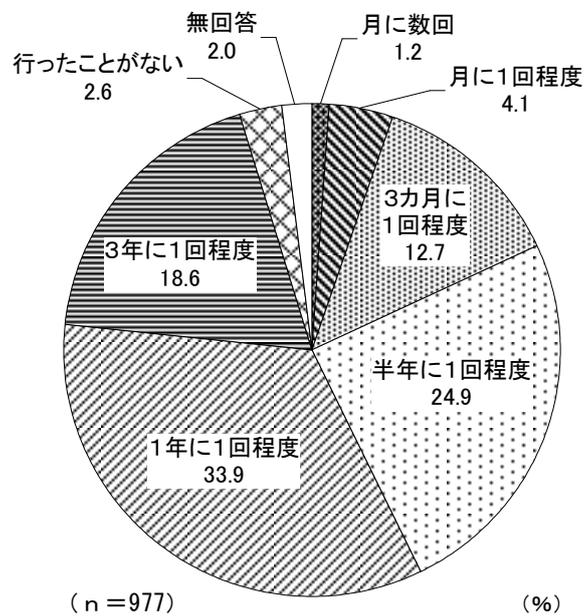
## 5. 中原区役所の環境

### (1) 中原区役所の利用頻度

問13 中原区役所をどの位の頻度で利用しますか。(〇は1つだけ)

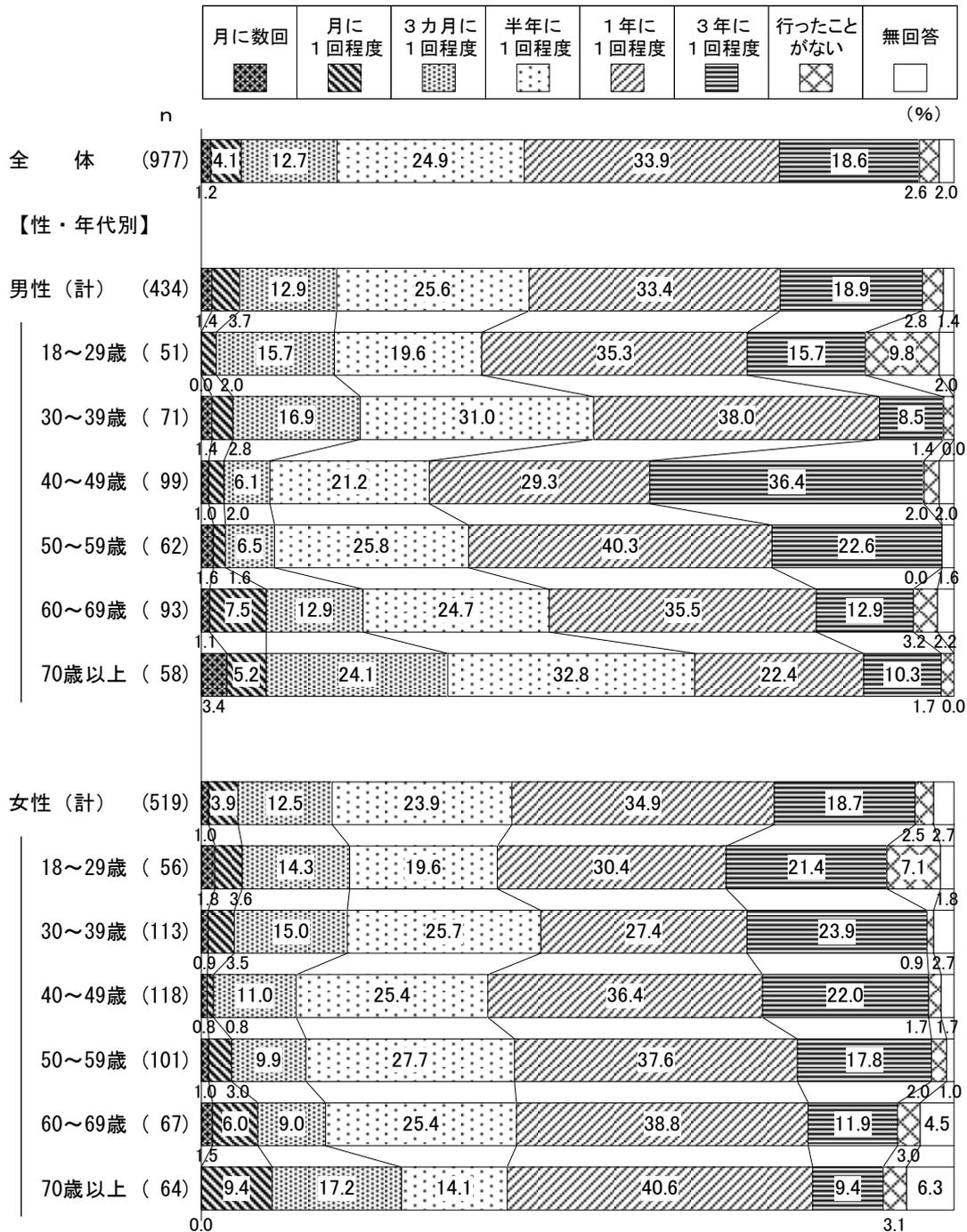
中原区役所の利用頻度を聞いたところ、「1年に1回程度」(33.9%)が3割を超えて最も高く、次いで「半年に1回程度」(24.9%)、「3年に1回程度」(18.6%)、「3カ月に1回程度」(12.7%)などの順となっている。(図表5-1-1)

図表5-1-1 中原区役所の利用頻度



性・年代別にみると、「3カ月に1回程度」は男性70歳以上（24.1%）が2割台半ばで高くなっている。「半年に1回程度」は男性70歳以上（32.8%）と男性30～39歳（31.0%）がともに3割を超えて高くなっている。（図表5-1-2）

図表5-1-2 中原区役所の利用頻度－性・年代別

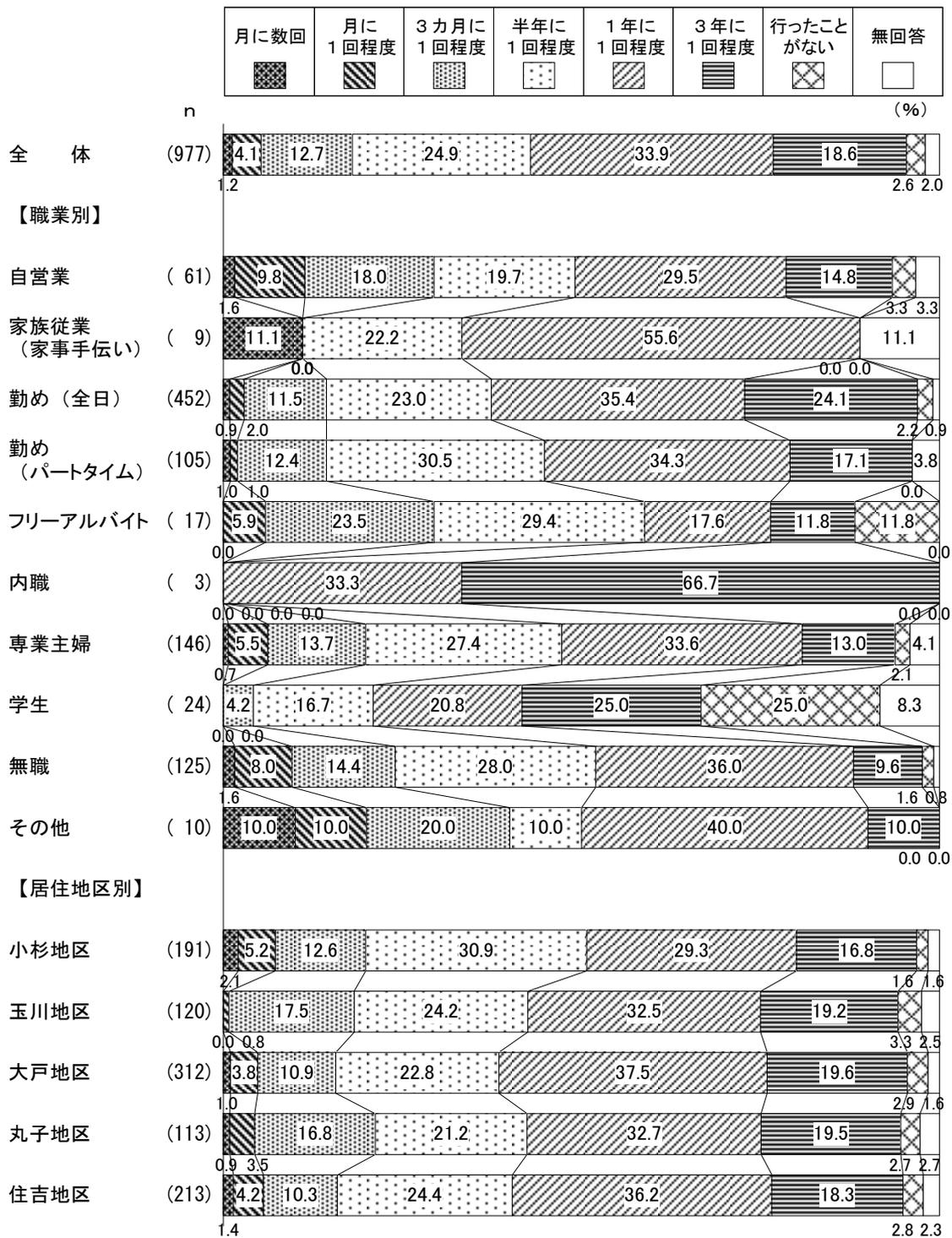


職業別にみると、「3カ月に1回程度」はフリーアルバイト（23.5%）が2割を超えて高くなっている。

居住地区別にみると、「3カ月に1回程度」は玉川地区（17.5%）と丸子地区（16.8%）がともに2割近くとなっている。「半年に1回程度」は小杉地区（30.9%）が約3割で高くなっている。

（図表5-1-3）

図表5-1-3 中原区役所の利用頻度－職業別・居住地区別



## (2) 中原区役所の環境・設備の満足度

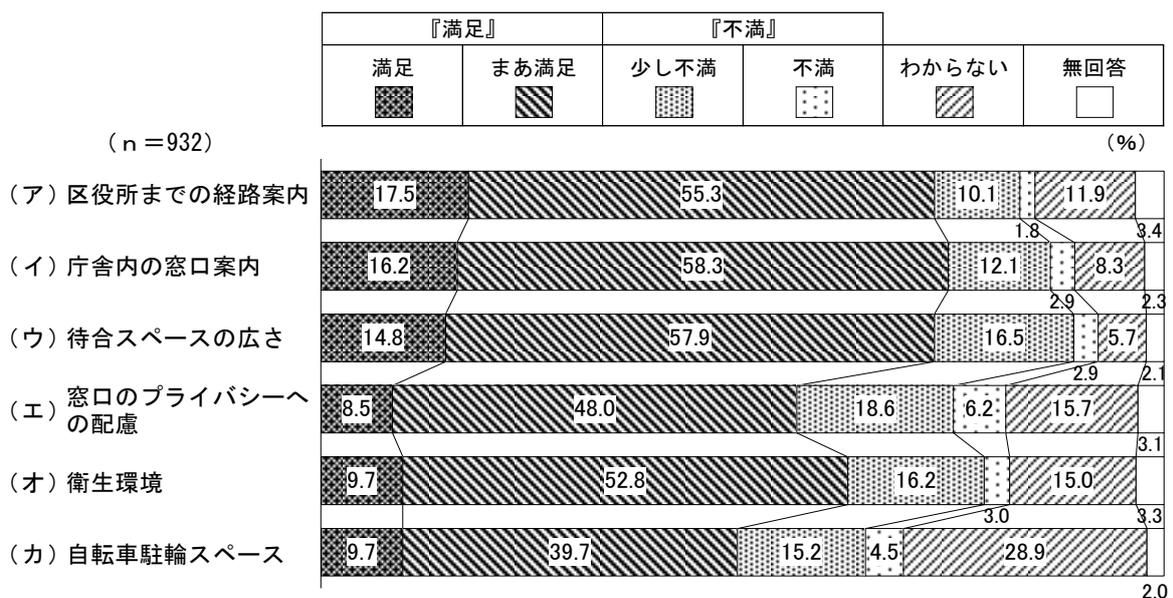
(問13で、「行ったことがない」以外と回答した方に)

問13-1 中原区役所庁舎についてお伺いします。次にあげる(ア)から(カ)のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。  
(○はそれぞれ1つ)

中原区役所の利用頻度で「行ったことがない」以外と回答した方(932人)に、中原区役所の環境・設備について6項目に分けて満足度を聞いたところ、「満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』は(イ)庁舎内の窓口案内(74.5%)が7割台半ばで最も高く、次いで(ア)区役所までの経路案内(72.8%)、(ウ)待合スペースの広さ(72.7%)などの順となっている。

一方、「少し不満」と「不満」の2つを合わせた『不満』は(エ)窓口のプライバシーへの配慮(24.8%)が2割台半ばで最も高く、次いで(カ)自転車駐輪スペース(19.7%)、(ウ)待合スペースの広さ(19.4%)、(オ)衛生環境(19.2%)などの順となっている。(図表5-2-1)

図表5-2-1 中原区役所の環境・設備の満足度



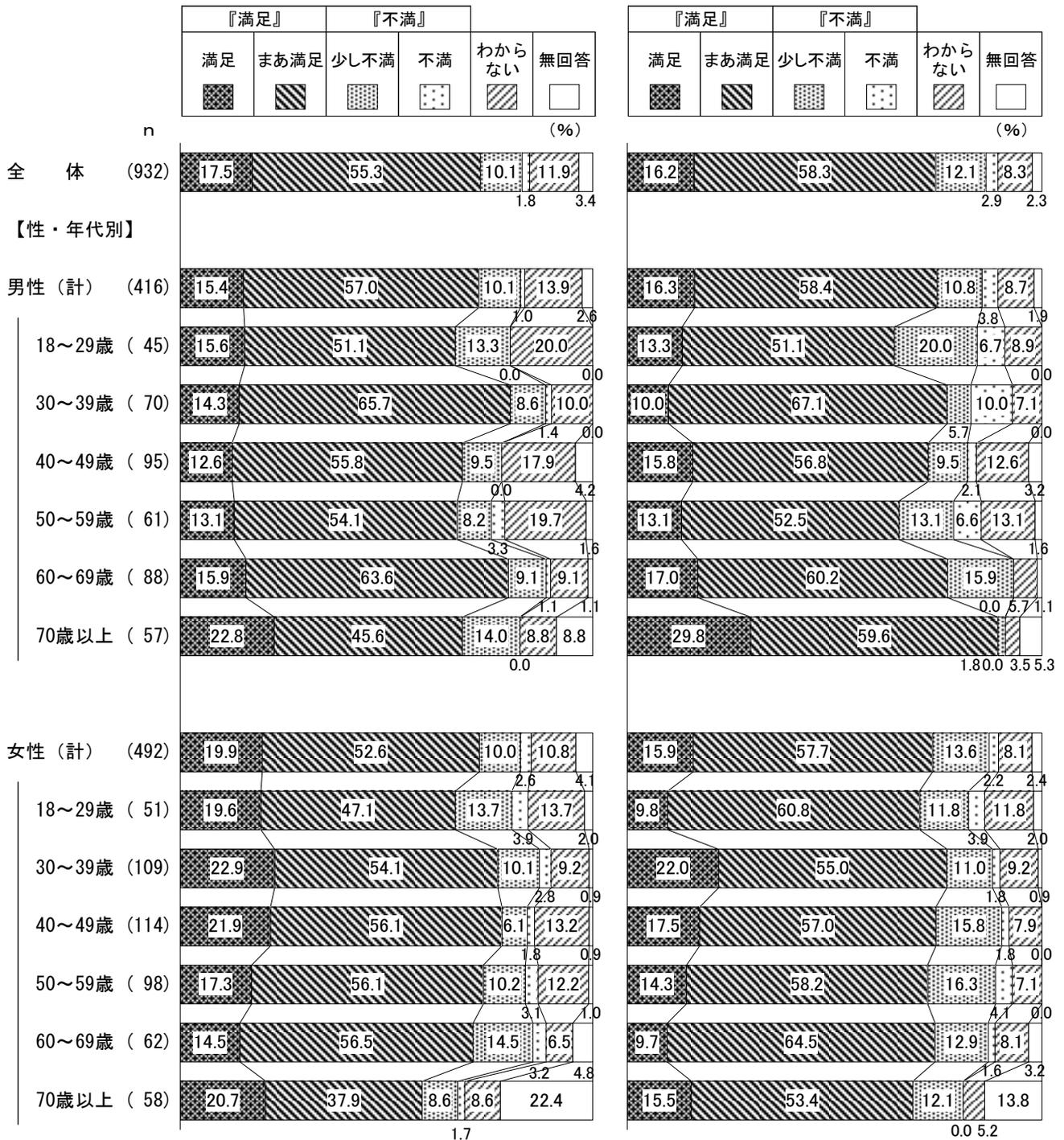
(ア) 区役所までの経路案内について性・年代別にみると、『満足』は男性30～39歳（80.0%）と男性60～69歳（79.5%）がともに約8割で高くなっている。

(イ) 庁舎内の窓口案内について性・年代別にみると、『満足』は男性70歳以上（89.4%）が約9割で高くなっている。（図表5-2-2）

図表5-2-2 中原区役所の環境・設備の満足度一性・年代別

(ア) 区役所までの経路案内

(イ) 庁舎内の窓口案内



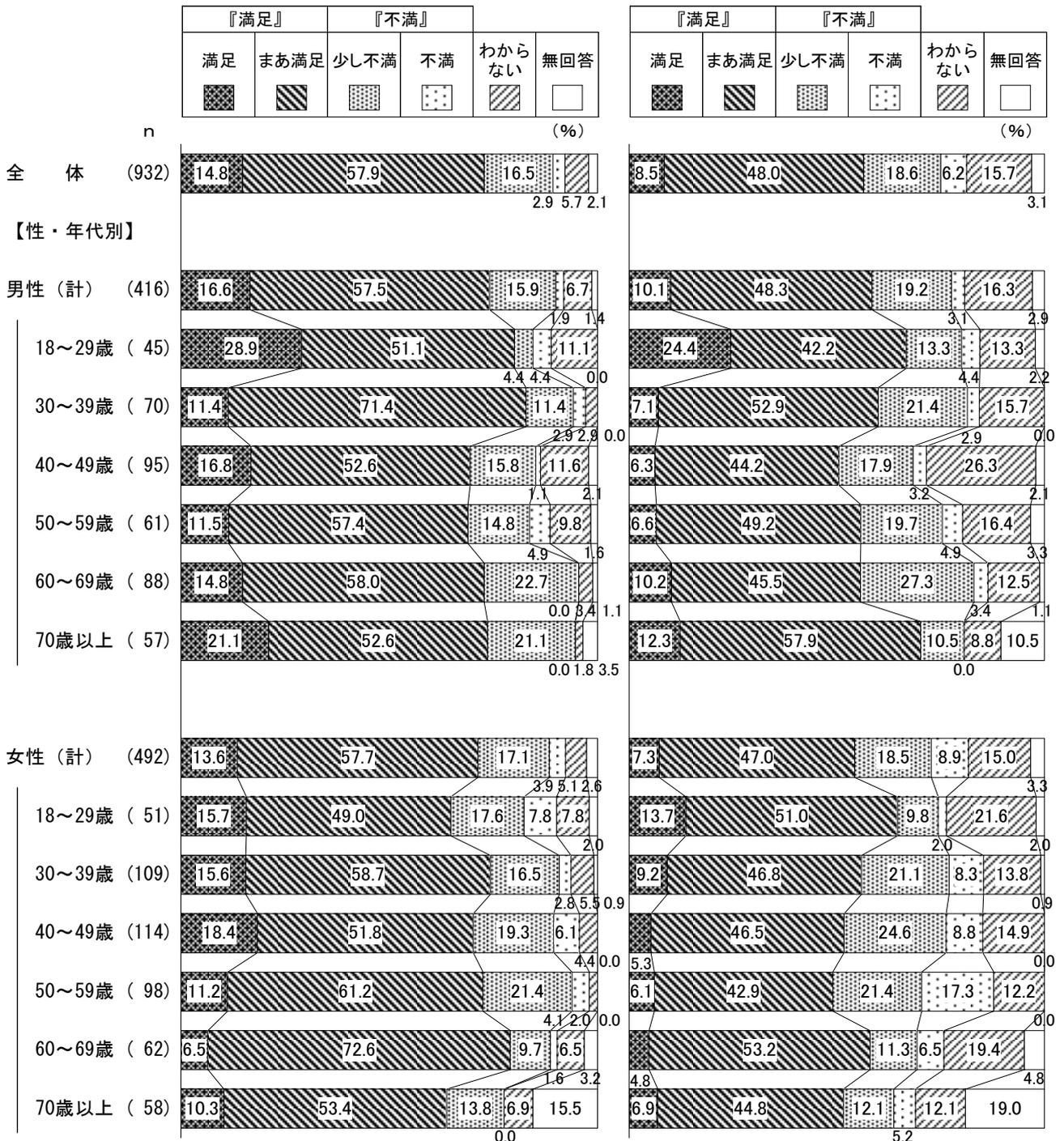
(ウ) 待合スペースの広さについて性・年代別にみると、『満足』は男性30～39歳（82.8%）が8割を超えて高くなっている。

(エ) 窓口のプライバシーへの配慮について性・年代別にみると、『満足』は男性70歳以上（70.2%）が約7割で高くなっている。一方、『不満』は女性50～59歳（38.7%）が4割近くで高くなっている。（図表5-2-3）

図表5-2-3 中原区役所の環境・設備の満足度一性・年代別

(ウ) 待合スペースの広さ

(エ) 窓口のプライバシーへの配慮



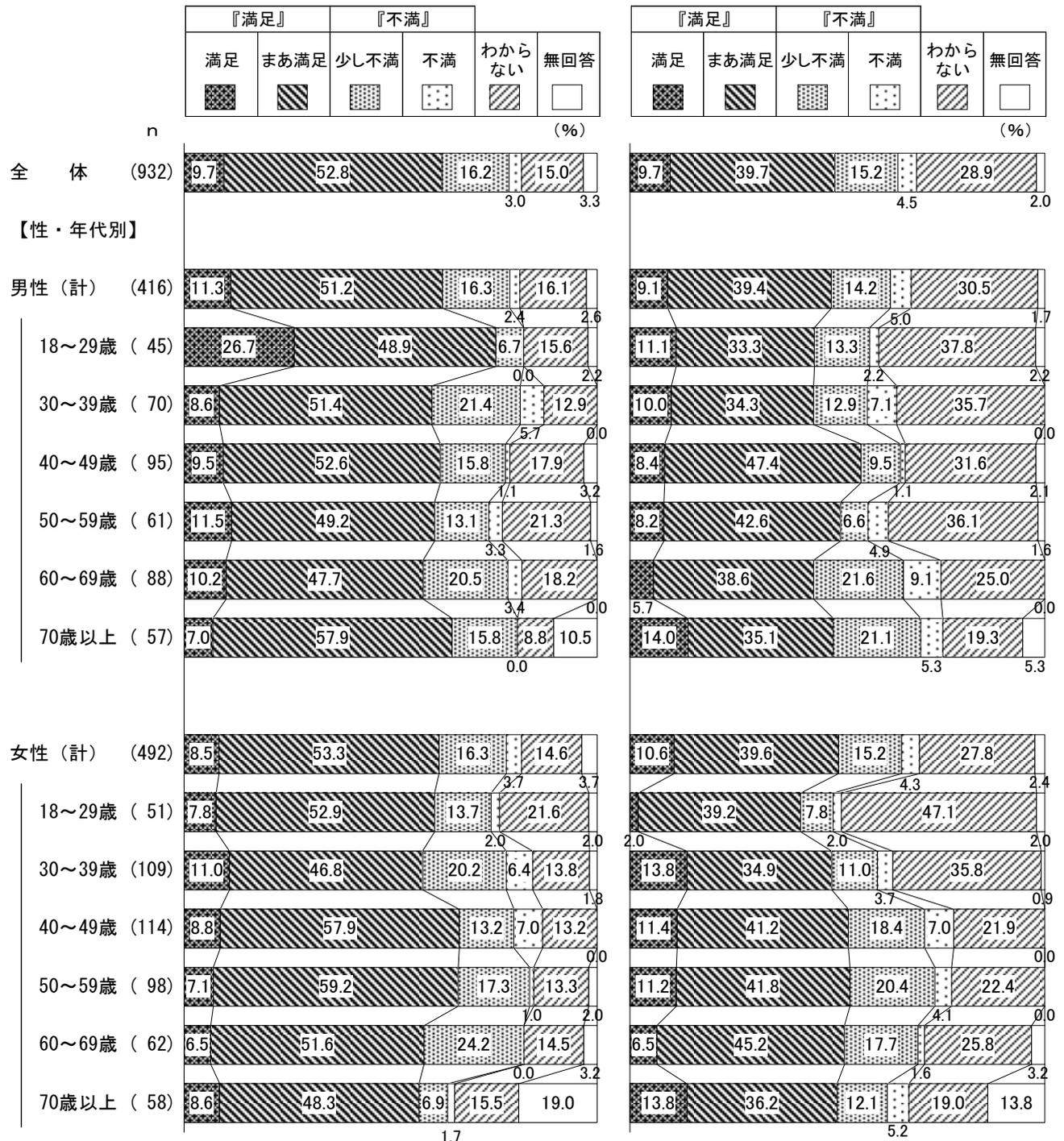
(オ) 衛生環境について性・年代別にみると、『満足』は男性18～29歳（75.6%）が7割台半ばで高くなっている。

(カ) 自転車駐輪スペースについて性・年代別にみると、『満足』は男性40～49歳（55.8%）が5割台半ばで高くなっている。一方、『不満』は男性60～69歳（30.7%）が約3割で高くなっている。（図表5-2-4）

図表5-2-4 中原区役所の環境・設備の満足度一性・年代別

(オ) 衛生環境

(カ) 自転車駐輪スペース



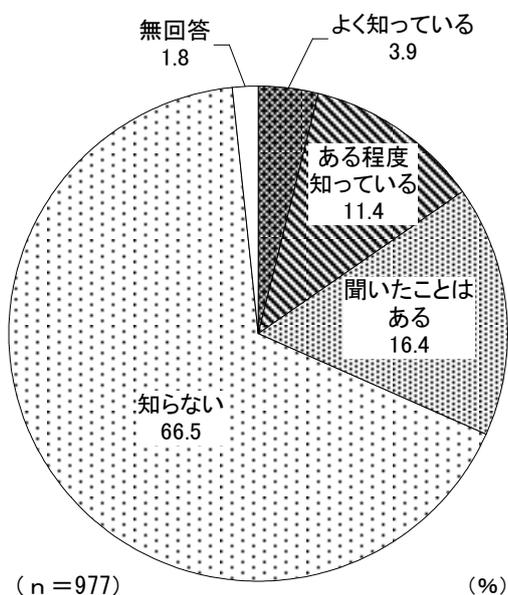
## 6. 地域包括ケアシステム

### (1) 「地域包括ケアシステム」の認知度

問14 医療、介護、介護予防、住まい、生活支援などが、地域において一体的・包括的に提供される体制づくりである「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(○は1つだけ)

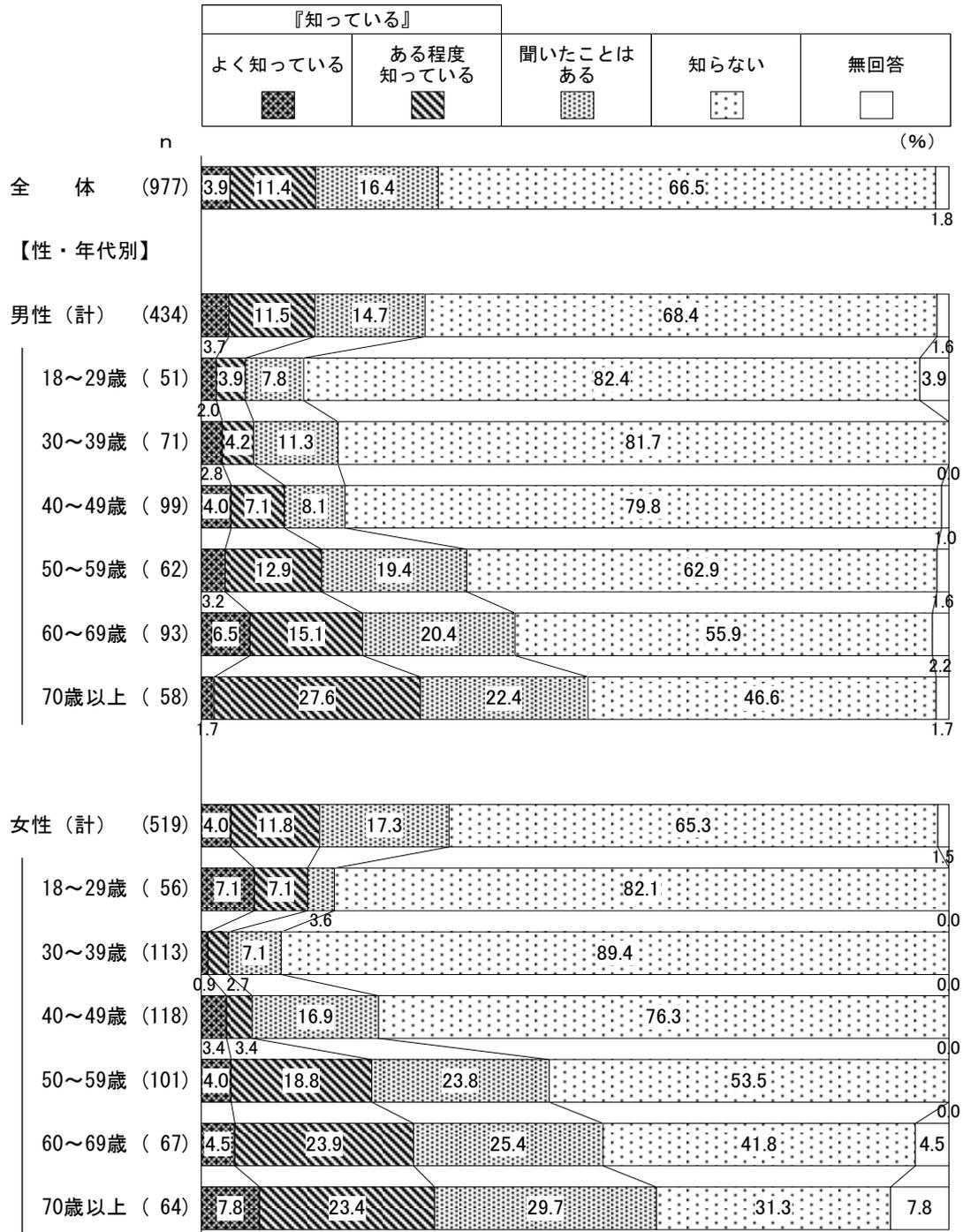
「地域包括ケアシステム」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(3.9%)と「ある程度知っている」(11.4%)の2つを合わせた『知っている』(15.3%)が1割台半ばとなっている。「聞いたことはある」(16.4%)は1割台半ばで、「知らない」(66.5%)が7割近くで高くなっている。(図表6-1-1)

図表6-1-1 「地域包括ケアシステム」の認知度



性・年代別にみると、『知っている』は女性70歳以上（31.2%）が3割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は女性30～39歳（89.4%）が約9割で高くなっている。（図表6－1－2）

図表6－1－2 「地域包括ケアシステム」の認知度－性・年代別



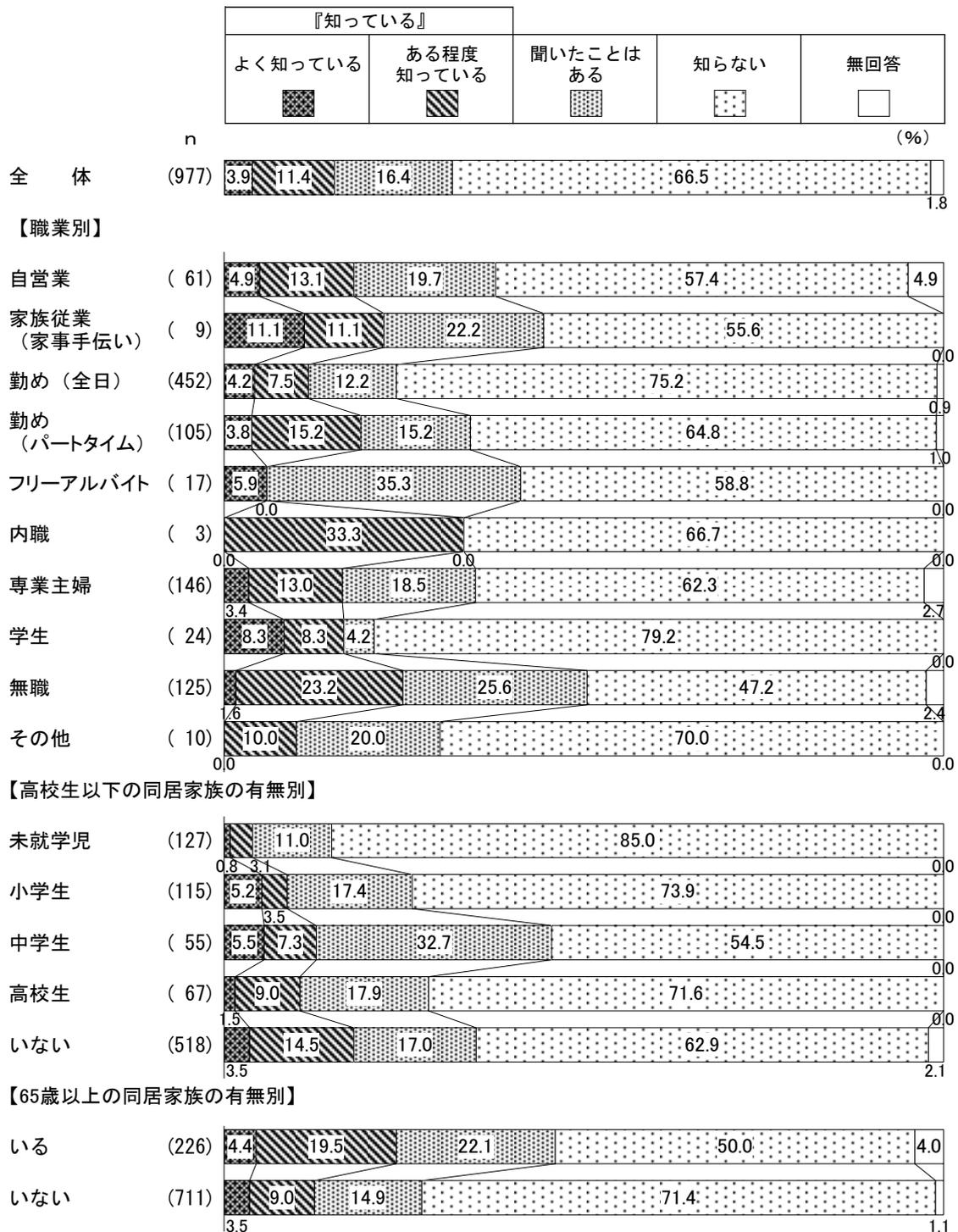
職業別にみると、『知っている』は無職（24.8%）が2割台半ばで高くなっている。一方、「知らない」は学生（79.2%）が約8割、勤め（全日）（75.2%）が7割台半ばで高くなっている。

高校生以下の同居家族の有無別にみると、『知っている』は高校生以下の同居家族がいない人（18.0%）が2割近くとなっている。

65歳以上の同居家族の有無別にみると、『知っている』は65歳以上の同居家族がいる人（23.9%）が2割を超えて高くなっている。（図表6-1-3）

図表6-1-3 「地域包括ケアシステムの認知度」

－職業別・高校生以下の同居家族の有無別・65歳以上の同居家族の有無別



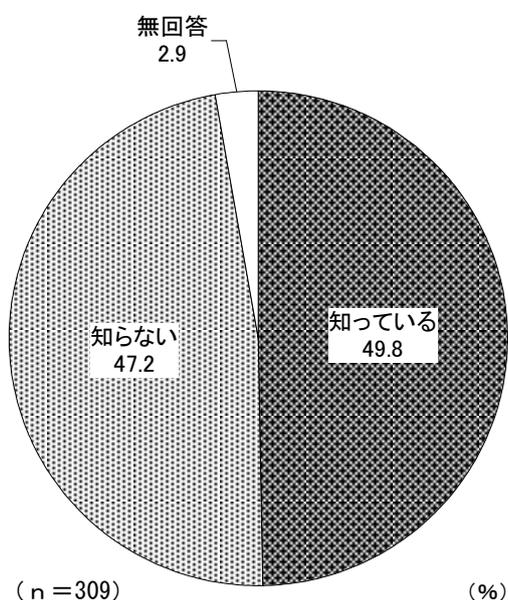
## (2) 「地域包括ケアシステム」がすべての住民を対象としていることの認知度

(問14で、「よく知っている」、「ある程度知っている」、「聞いたことはある」と回答した方に)

問14-1 川崎市の地域包括ケアシステムは子どもから高齢者、障害者などすべての住民を対象としていることを知っていますか。(○は1つだけ)

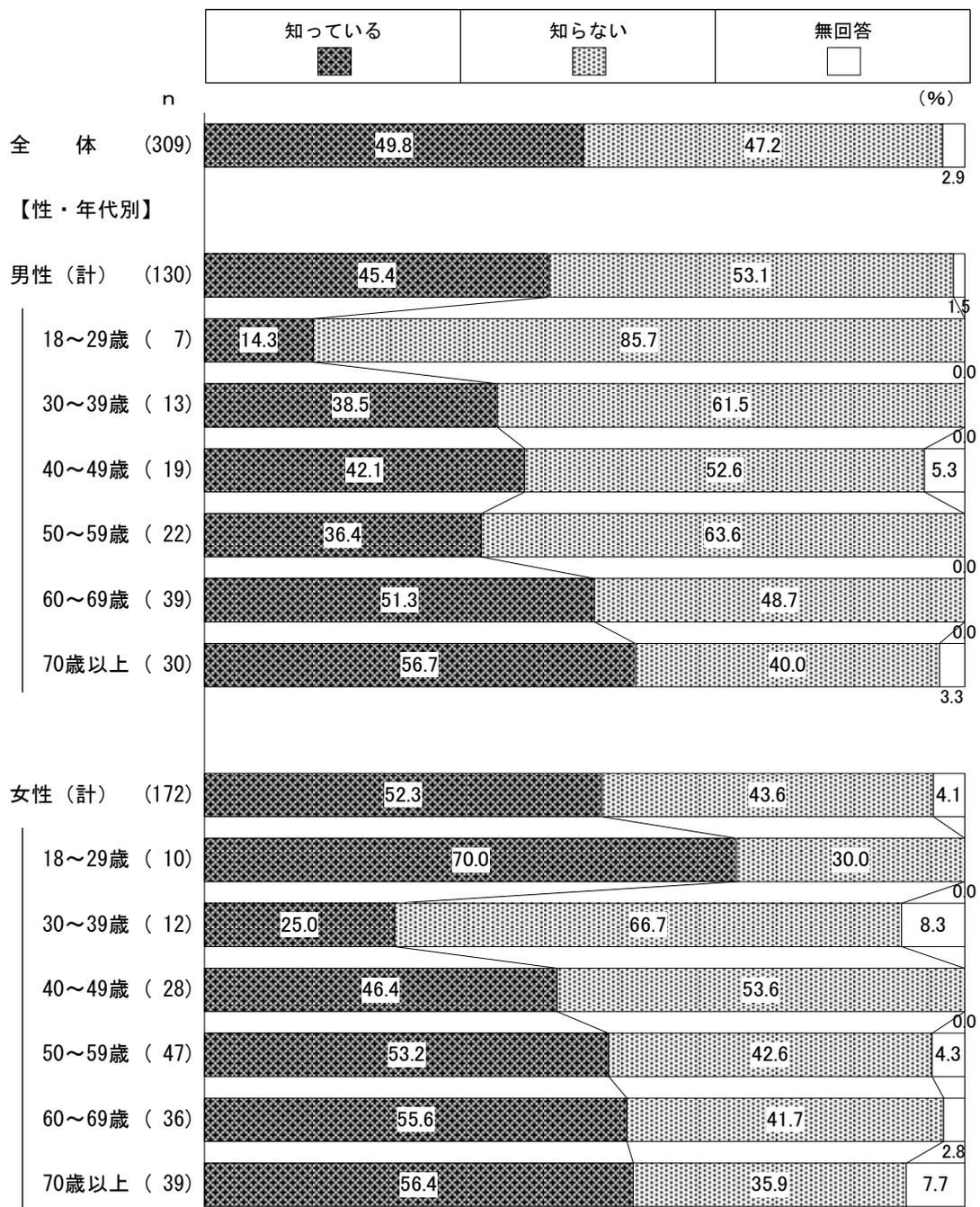
「地域包括ケアシステム」を「よく知っている」、「ある程度知っている」、「聞いたことはある」と回答した方(309人)に、川崎市の地域包括ケアシステムは子どもから高齢者、障害者などすべての住民を対象としていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(49.8%)が約5割となっている。一方、「知らない」(47.2%)は5割近くとなっている。(図表6-2-1)

図表6-2-1 「地域包括ケアシステム」がすべての住民を対象としていることの認知度



性・年代別にみると、「知っている」は女性18～29歳（70.0%）が7割で高く、男性の60～69歳以上の年代と女性の50～59歳以上の年代でいずれも5割台となっている。（図表6－2－2）

図表6－2－2 「地域包括ケアシステム」がすべての住民を対象としていることの認知度－性・年代別

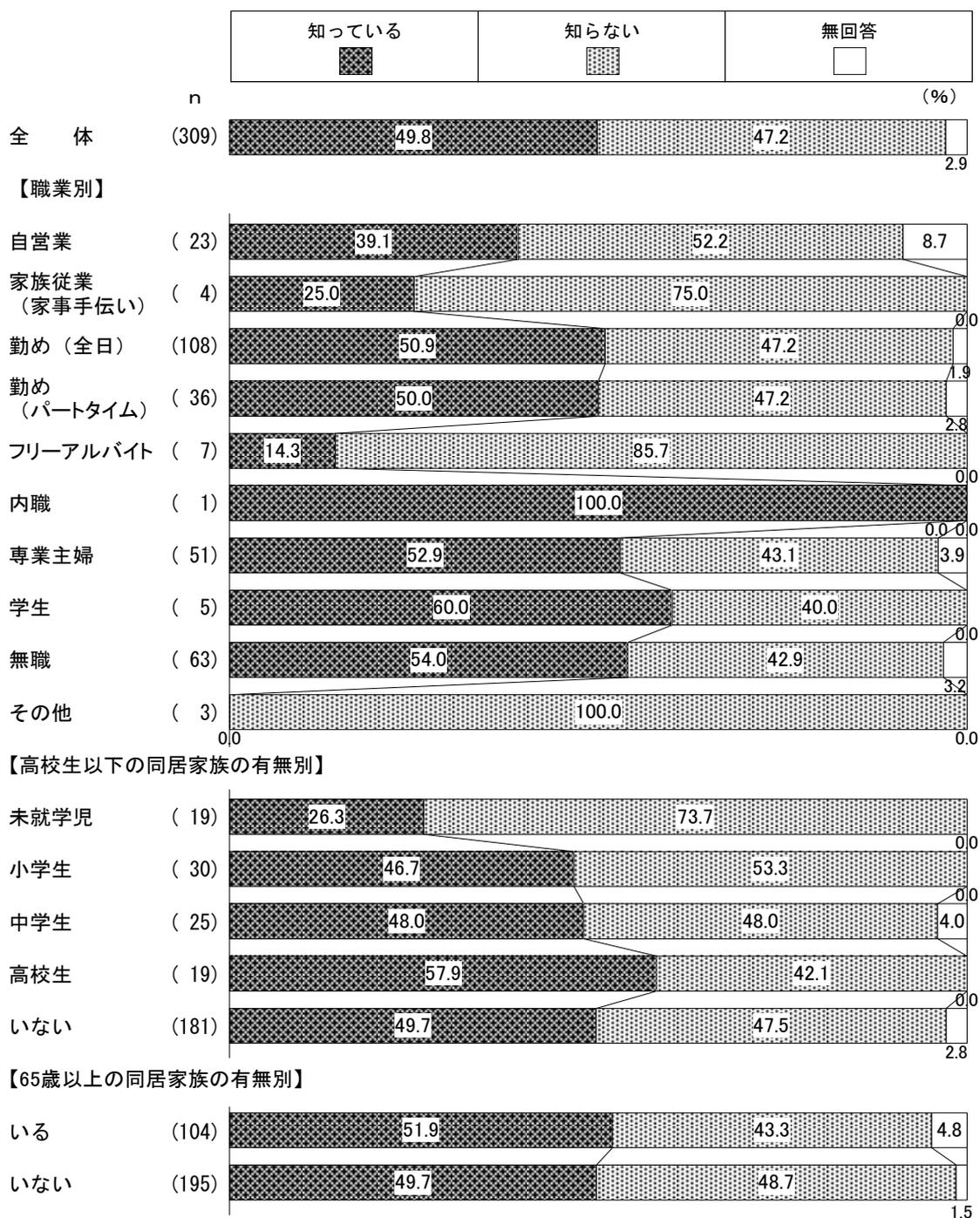


職業別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

高校生以下の同居家族の有無別にみると、「知っている」は高校生と同居している人（57.9%）が6割近くで高くなっている。

65歳以上の同居家族の有無別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6-2-3）

図表6-2-3 「地域包括ケアシステム」がすべての住民を対象としていることの認知度  
 一職業別・高校生以下の同居家族の有無別・65歳以上の同居家族の有無別



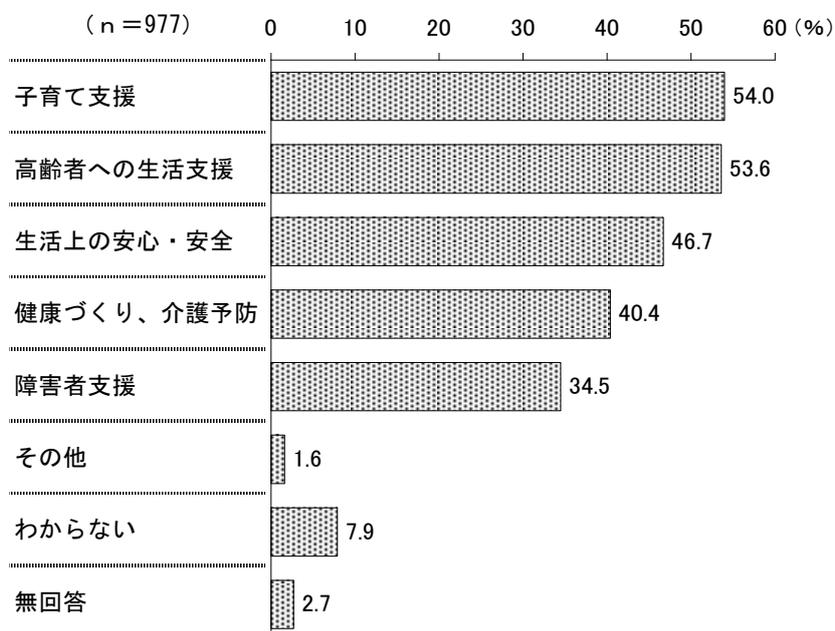
### (3) 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと

問15 地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものは何ですか。

(〇はいくつでも)

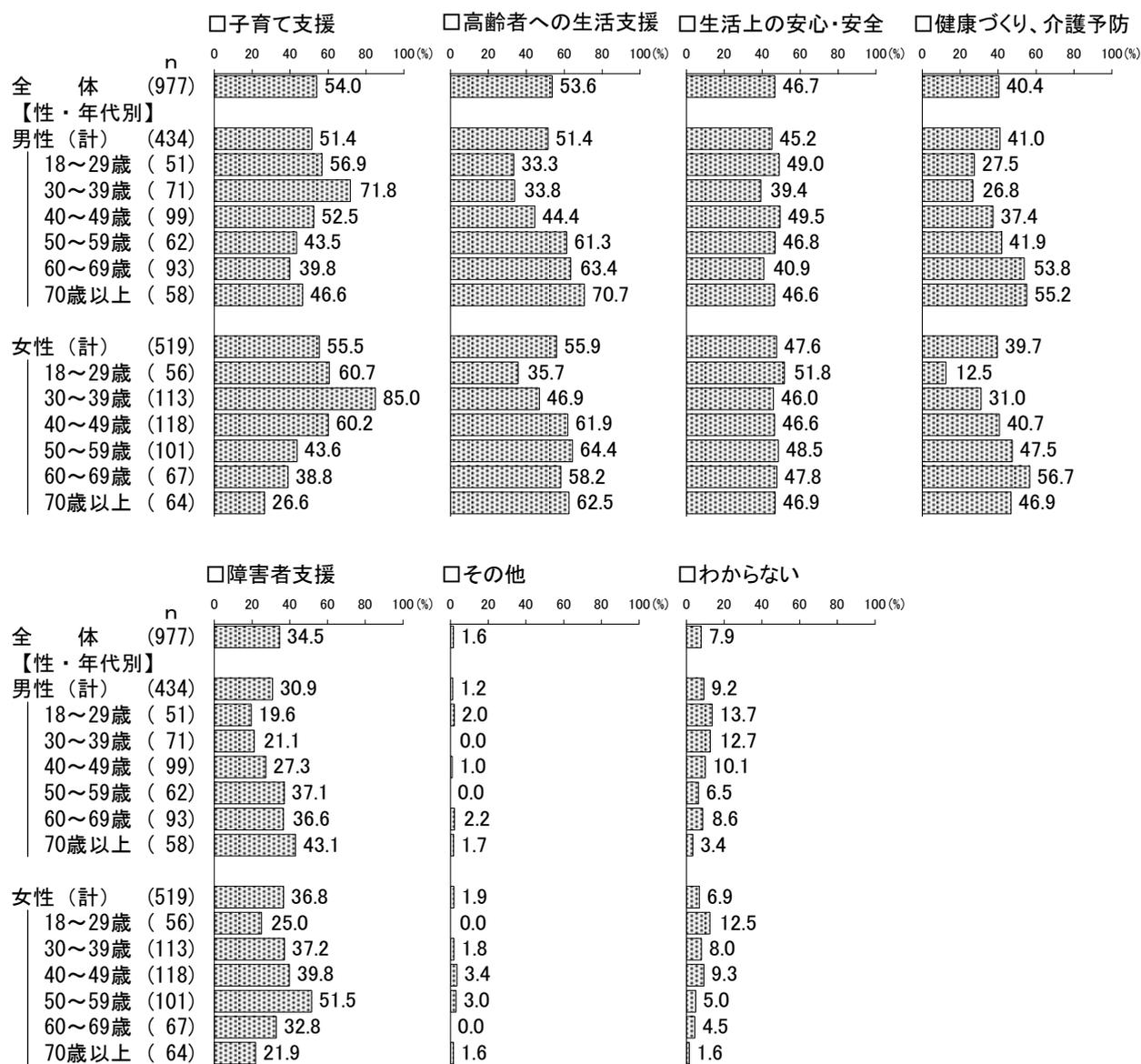
地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものを聞いたところ、「子育て支援」(54.0%)と「高齢者への生活支援」(53.6%)がともに5割台で高く、次いで「生活上の安心・安全」(46.7%)、「健康づくり、介護予防」(40.4%)、「障害者支援」(34.5%)などの順となっている。(図表6-3-1)

図表6-3-1 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと



性・年代別にみると、「子育て支援」は女性30～39歳（85.0%）が8割台半ば、男性30～39歳（71.8%）が7割を超えて高くなっている。「高齢者への生活支援」は男性70歳以上（70.7%）が約7割で高くなっている。「健康づくり、介護予防」は女性60～69歳（56.7%）が6割近くで高くなっている。「障害者支援」は女性50～59歳（51.5%）が5割を超えて高くなっている。（図表6-3-2）

図表6-3-2 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと一性・年代別



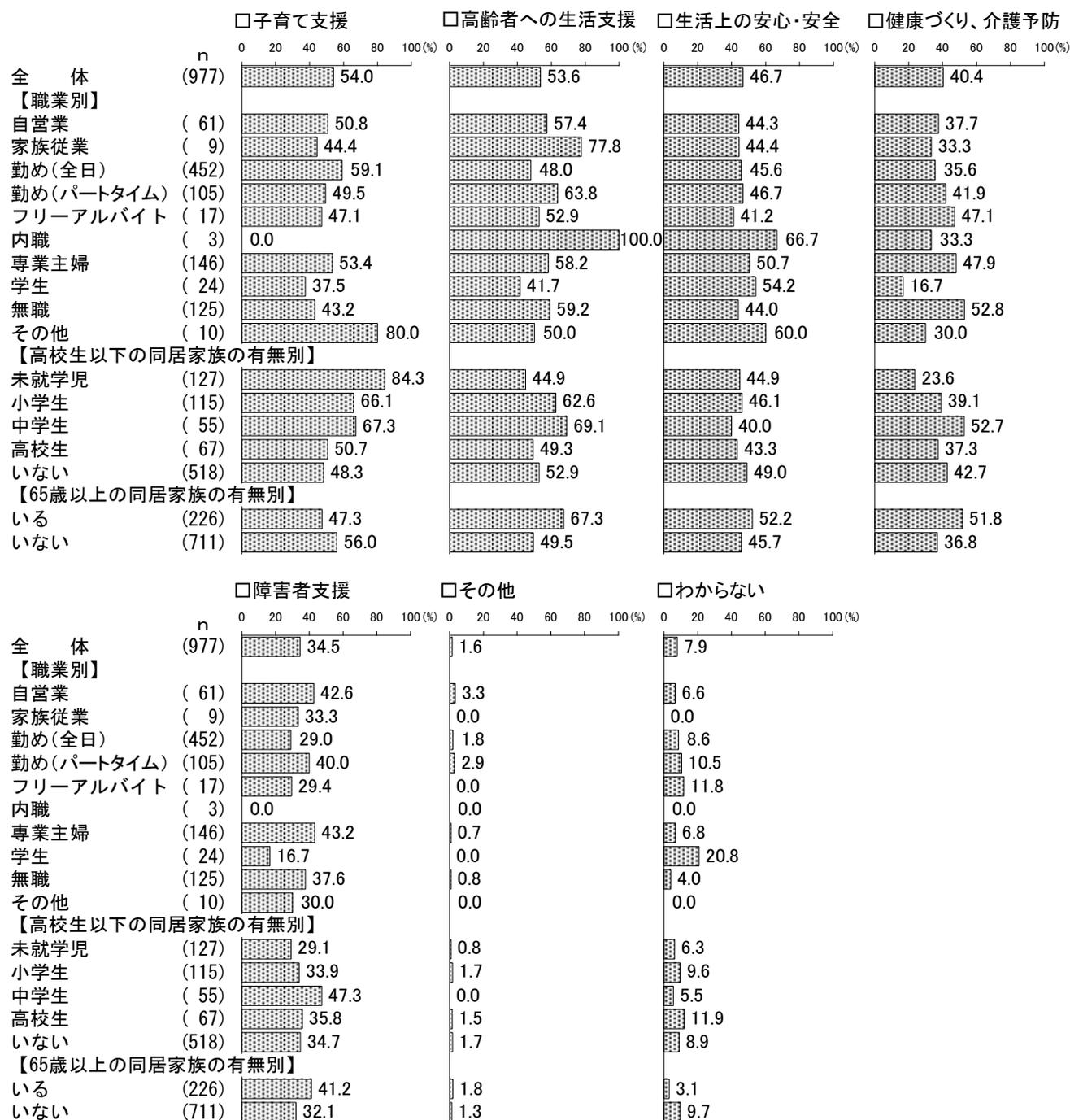
職業別にみると、「子育て支援」は勤め（全日）（59.1%）が約6割で高くなっている。「高齢者への生活支援」は勤め（パートタイム）（63.8%）が6割を超えて高くなっている。「健康づくり、介護予防」は無職（52.8%）が5割を超えて高くなっている。

高校生以下の同居家族の有無別にみると、「子育て支援」は未就学児と同居している人（84.3%）が8割台半ばで高くなっている。「高齢者への生活支援」は中学生と同居している人（69.1%）が約7割で高くなっている。

65歳以上の同居家族の有無別にみると、「高齢者への生活支援」は65歳以上の同居家族がいる人（67.3%）が7割近くで高くなっている。「健康づくり、介護予防」は65歳以上の同居家族がいる人（51.8%）が5割を超えて高くなっている。（図表6-3-3）

図表6-3-3 「地域包括ケアシステム」で取り組むべきこと

－職業別・高校生以下の同居家族の有無別・65歳以上の同居家族の有無別



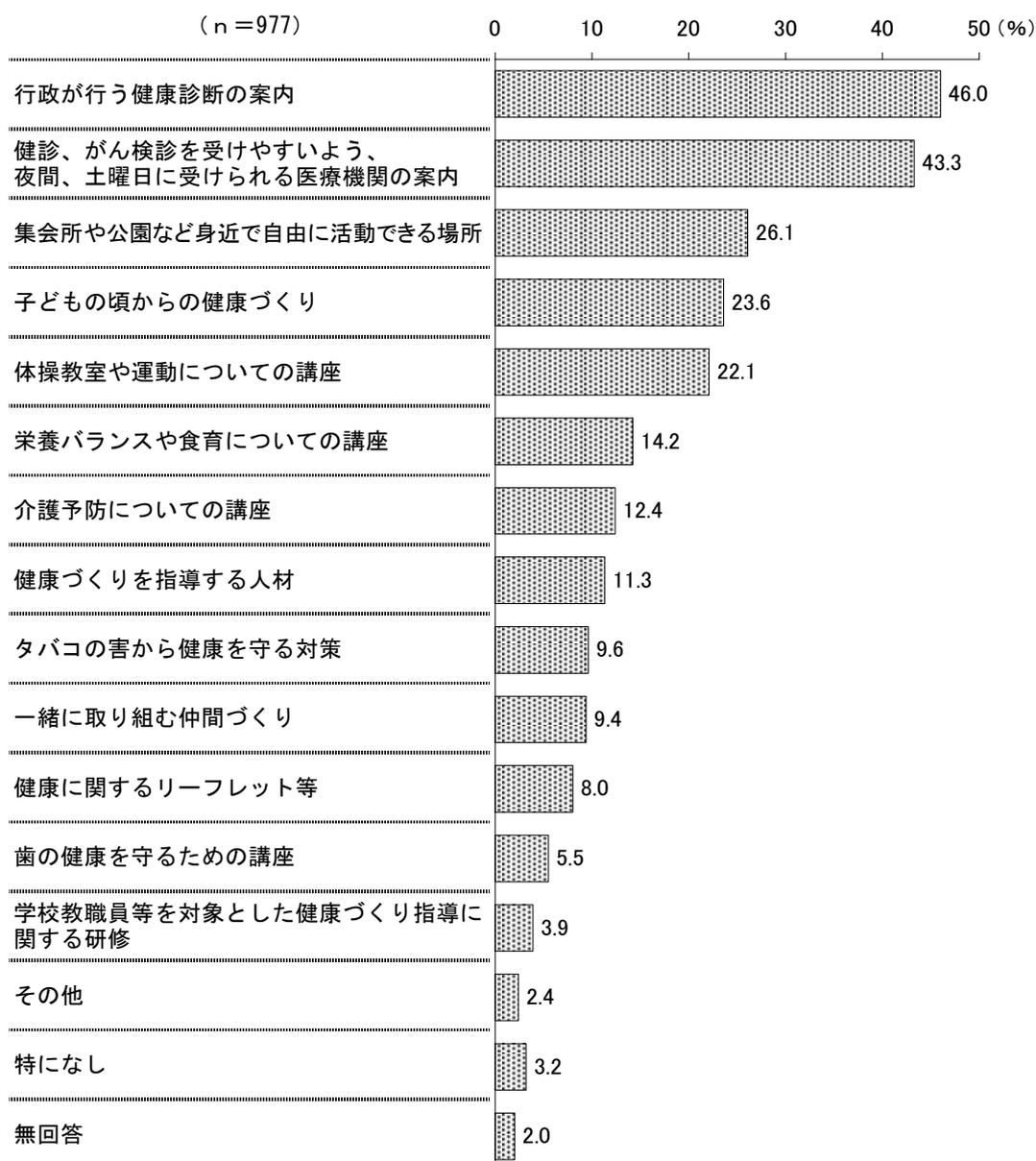
## 7. 健康づくり支援

### (1) 健康づくりを推進するための区の取り組み

問16 区民の皆さんの健康づくりを推進していくためには、どのようなものを充実したほうがよいと思いますか。(〇は3つまで)

区民の健康づくりを推進していくためには、どのようなものを充実したほうがよいか聞いたところ、「行政が行う健康診断の案内」(46.0%)が4割台半ばで最も高く、次いで「健診、がん検診を受けやすいよう、夜間、土曜日に受けられる医療機関の案内」(43.3%)、「集会所や公園など身近で自由に活動できる場所」(26.1%)、「子どもの頃からの健康づくり」(23.6%)、「体操教室や運動についての講座」(22.1%)などの順となっている。(図表7-1-1)

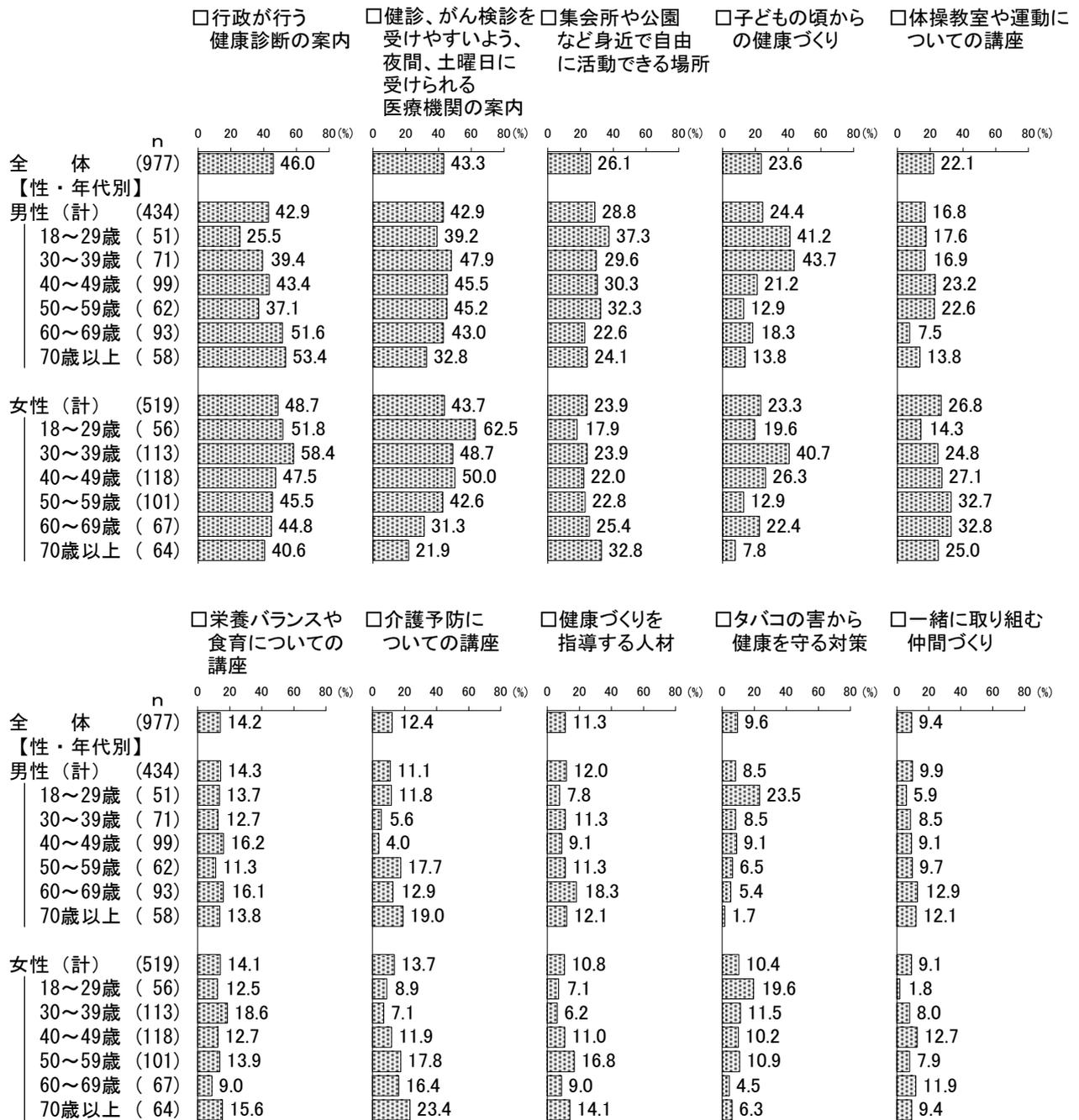
図表7-1-1 健康づくりを推進するための区の取り組み



性・年代別にみると、「行政が行う健康診断の案内」は女性30～39歳（58.4%）が6割近くで高くなっている。「健診、がん検診を受けやすいよう、夜間、土曜日に受けられる医療機関の案内」は女性18～29歳（62.5%）が6割を超えて高くなっている。「子どもの頃からの健康づくり」は男性30～39歳（43.7%）と男性18～29歳（41.2%）がともに4割を超えて高くなっている。

(図表7-1-2)

図表7-1-2 健康づくりを推進するための区の取り組み—性・年代別（上位10項目）

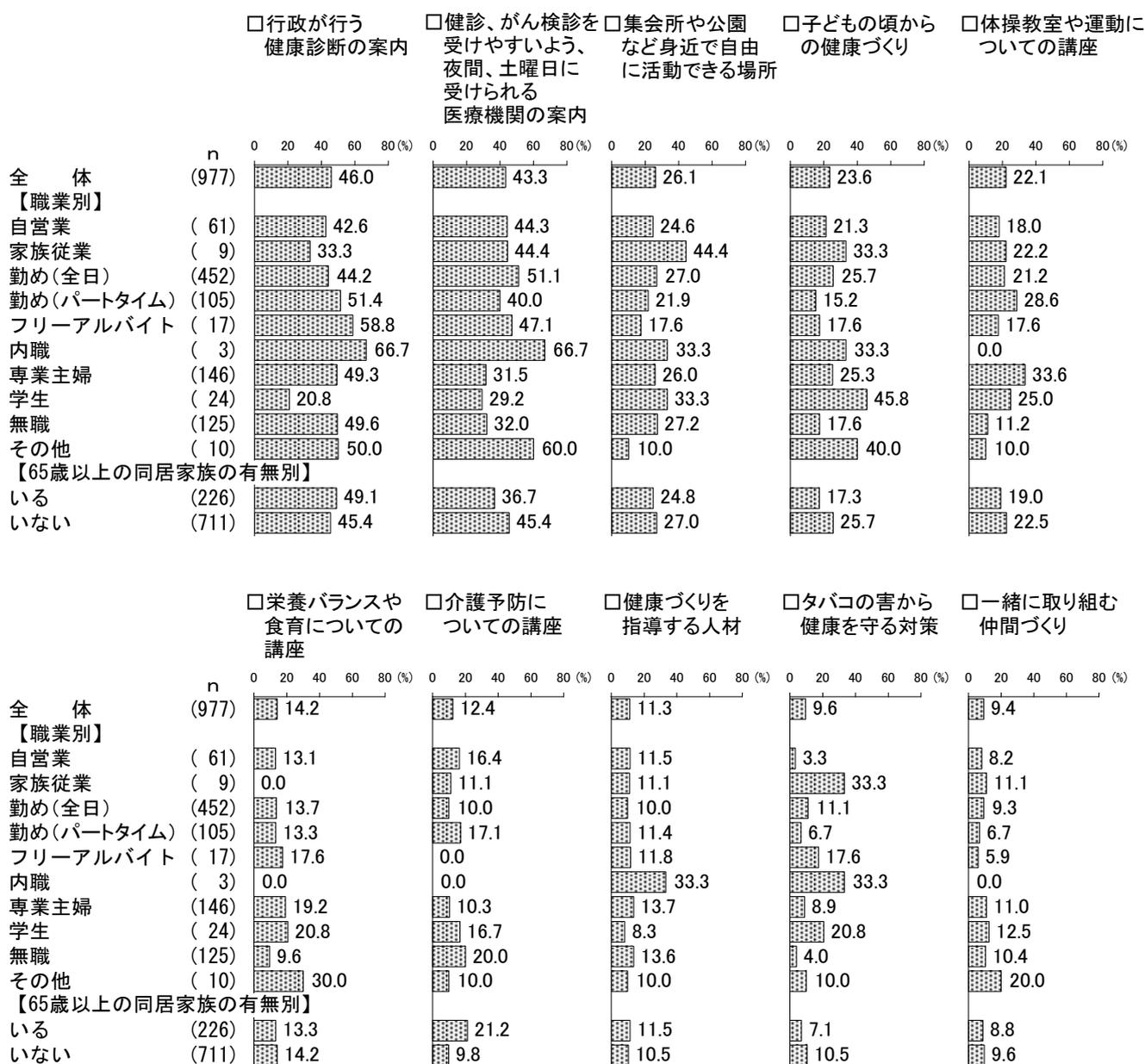


職業別にみると、「行政が行う健康診断の案内」はフリーアルバイト（58.8%）が6割近くで高くなっている。「子どもの頃からの健康づくり」は学生（45.8%）が4割台半ばで高くなっている。

65歳以上の同居家族の有無別にみると、「健診、がん検診を受けやすいよう、夜間、土曜日に受けられる医療機関の案内」は65歳以上の同居家族がいない人（45.4%）が4割台半ばで高くなっている。「子どもの頃からの健康づくり」は65歳以上の同居家族がいない人（25.7%）が2割台半ばで高くなっている。「介護予防についての講座」は65歳以上の同居家族がいる人（21.2%）が2割を超えて高くなっている。（図表7-1-3）

図表7-1-3 健康づくりを推進するための区の取り組み

—職業別・65歳以上の同居家族の有無別（上位10項目）



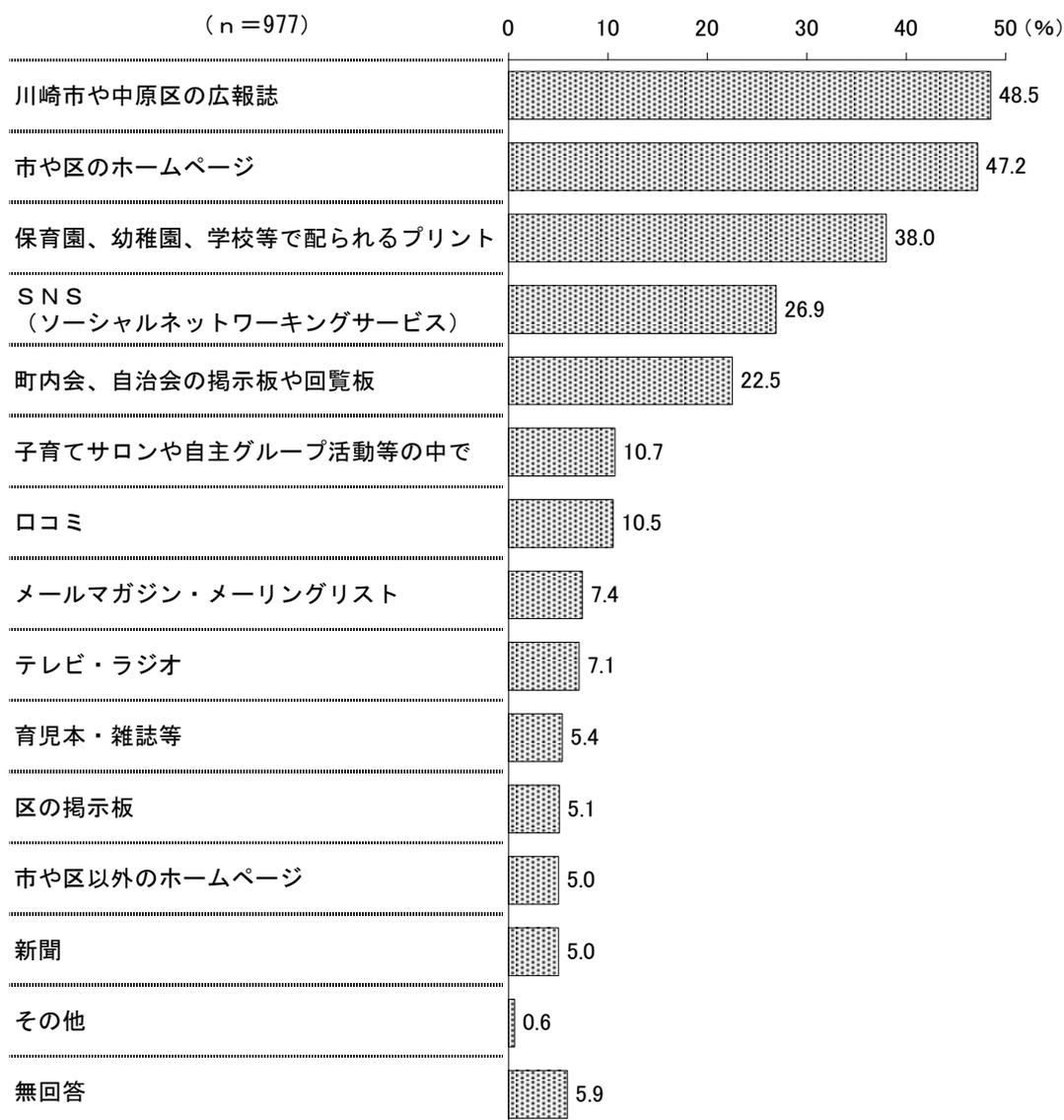
## 8. 子育て支援

### (1) 子育て支援の情報提供に有効だと思う方法

問17 子育てを支援するための情報発信として、どのような手法が有効であると思いますか。  
(〇は3つまで)

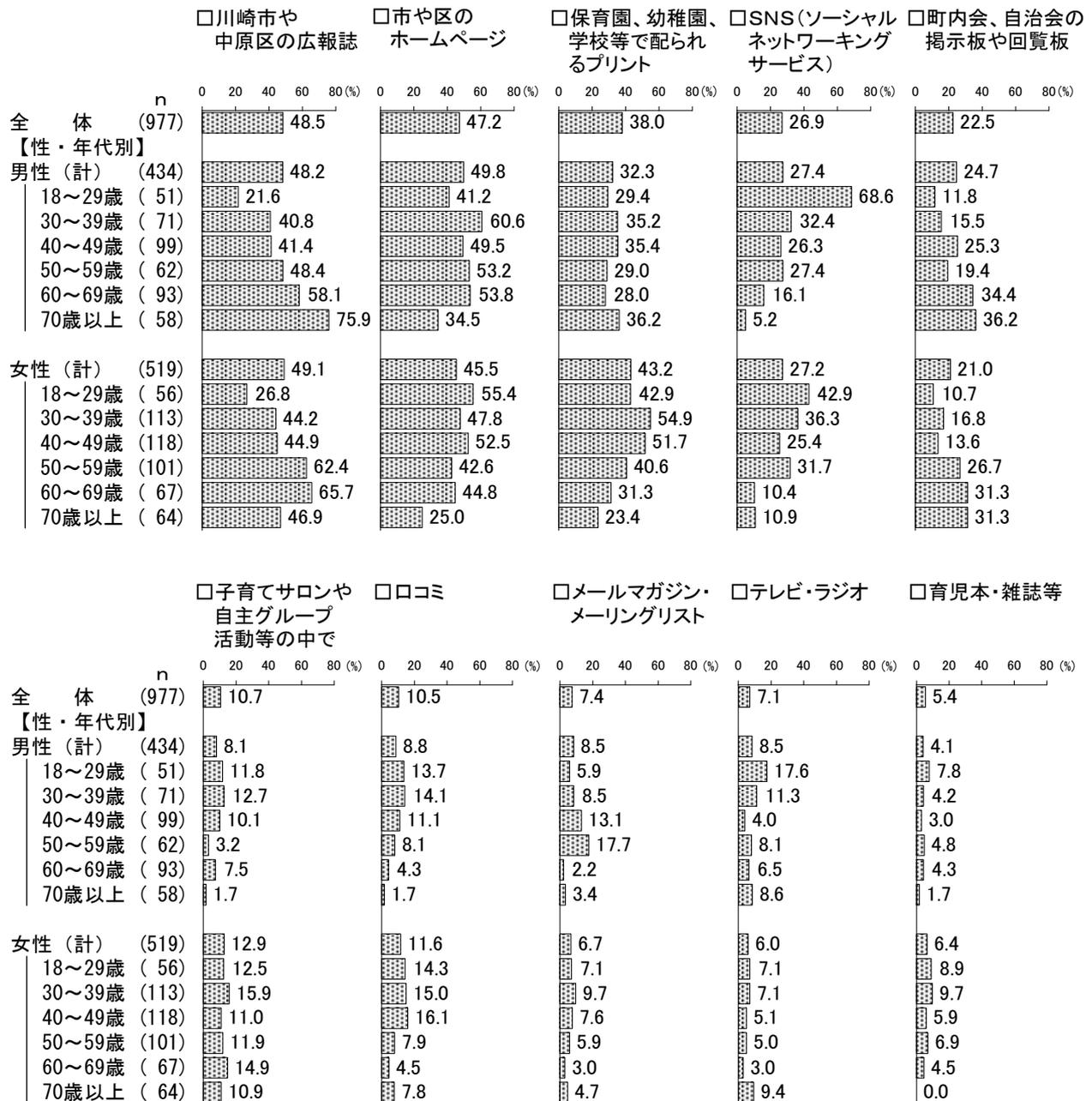
子育てを支援するための情報発信として、どのような手法が有効であると思うか聞いたところ、「川崎市や中原区の広報誌」(48.5%)と「市や区のホームページ」(47.2%)がともに5割近くで高く、次いで「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」(38.0%)、「SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)」(26.9%)、「町内会、自治会の掲示板や回覧板」(22.5%)などの順となっている。(図表8-1-1)

図表8-1-1 子育て支援の情報提供に有効だと思う方法



性・年代別にみると、「川崎市や中原区の広報誌」は男性70歳以上（75.9%）が7割台半ばで高くなっている。「市や区のホームページ」は男性30～39歳（60.6%）が約6割で高くなっている。「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」は女性30～39歳（54.9%）が5割台半ばで高くなっている。「SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」は男性18～29歳（68.6%）が7割近くで高くなっている。（図表8-1-2）

図表8-1-2 子育て支援の情報提供に有効だと思う方法一性・年代別（上位10項目）

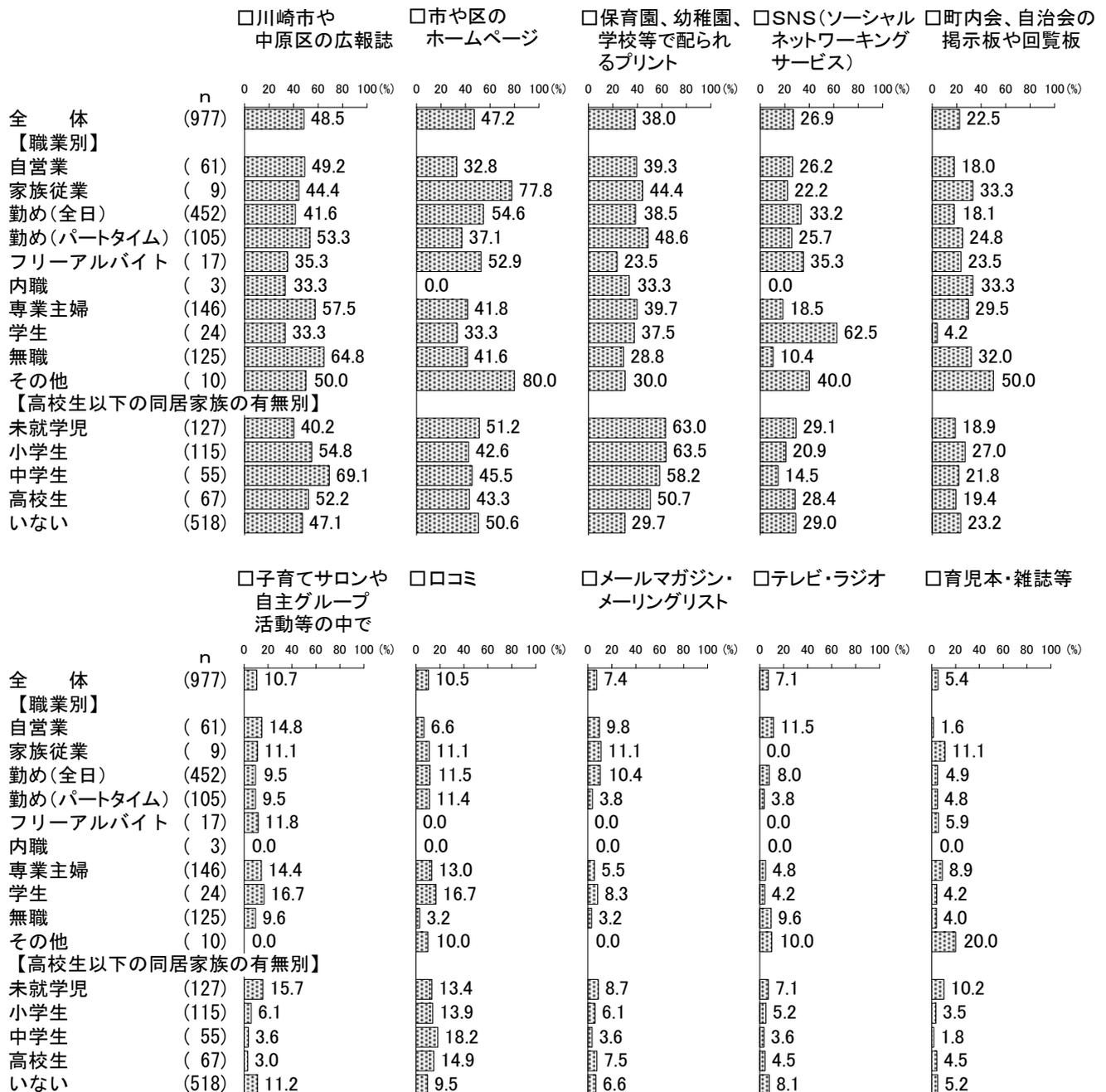


職業別にみると、「川崎市や中原区の広報誌」は無職（64.8%）が6割台半ばで高くなっている。「市や区のホームページ」は勤め（全日）（54.6%）が5割台半ばで高くなっている。「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」は勤め（パートタイム）（48.6%）が5割近くで高くなっている。「SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）」は学生（62.5%）が6割を超えて高くなっている。

高校生以下の同居家族の有無別にみると、「川崎市や中原区の広報誌」は中学生と同居している人（69.1%）が約7割で高くなっている。「保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント」は小学生と同居している人（63.5%）と未就学児と同居している人（63.0%）がともに6割を超えて高くなっている。（図表8-1-3）

図表8-1-3 子育て支援の情報提供に有効だと思う方法

－職業別・高校生以下の同居家族の有無別（上位10項目）

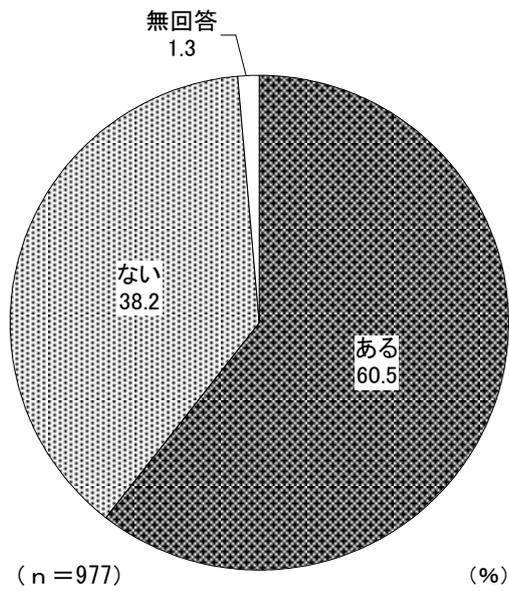


## (2) 子育ての経験の有無

問18 あなたは子育ての経験がありますか。(○は1つだけ)

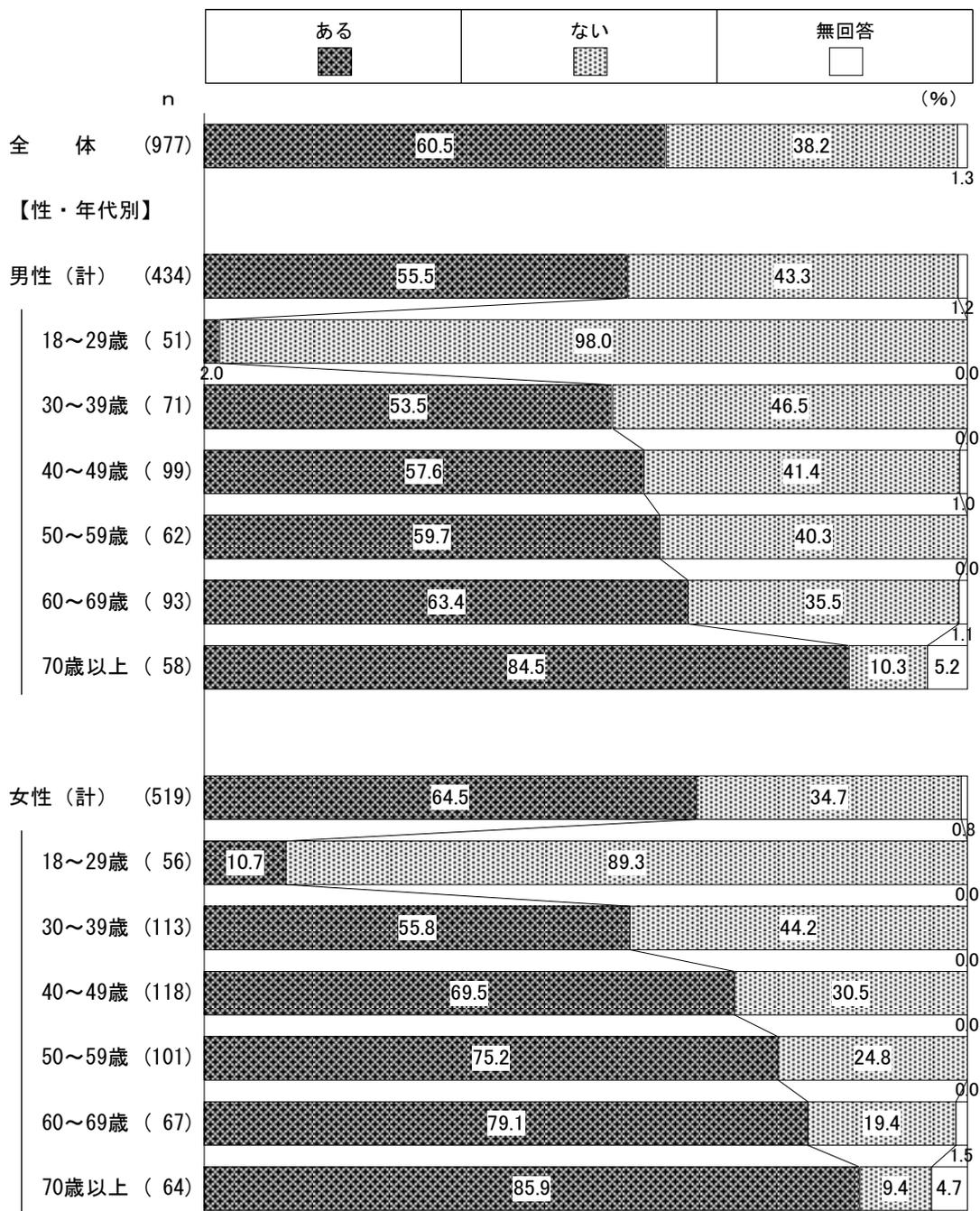
子育ての経験があるか聞いたところ、「ある」(60.5%)が約6割、「ない」(38.2%)が4割近くとなっている。(図表8-2-1)

図表8-2-1 子育ての経験の有無



性・年代別にみると、「ある」は女性70歳以上（85.9%）と男性70歳以上（84.5%）がともに8割台半ばで高くなっている。（図表8-2-2）

図表8-2-2 子育ての経験の有無－性・年代別



### (3) 利用したことがある子育て支援サービス

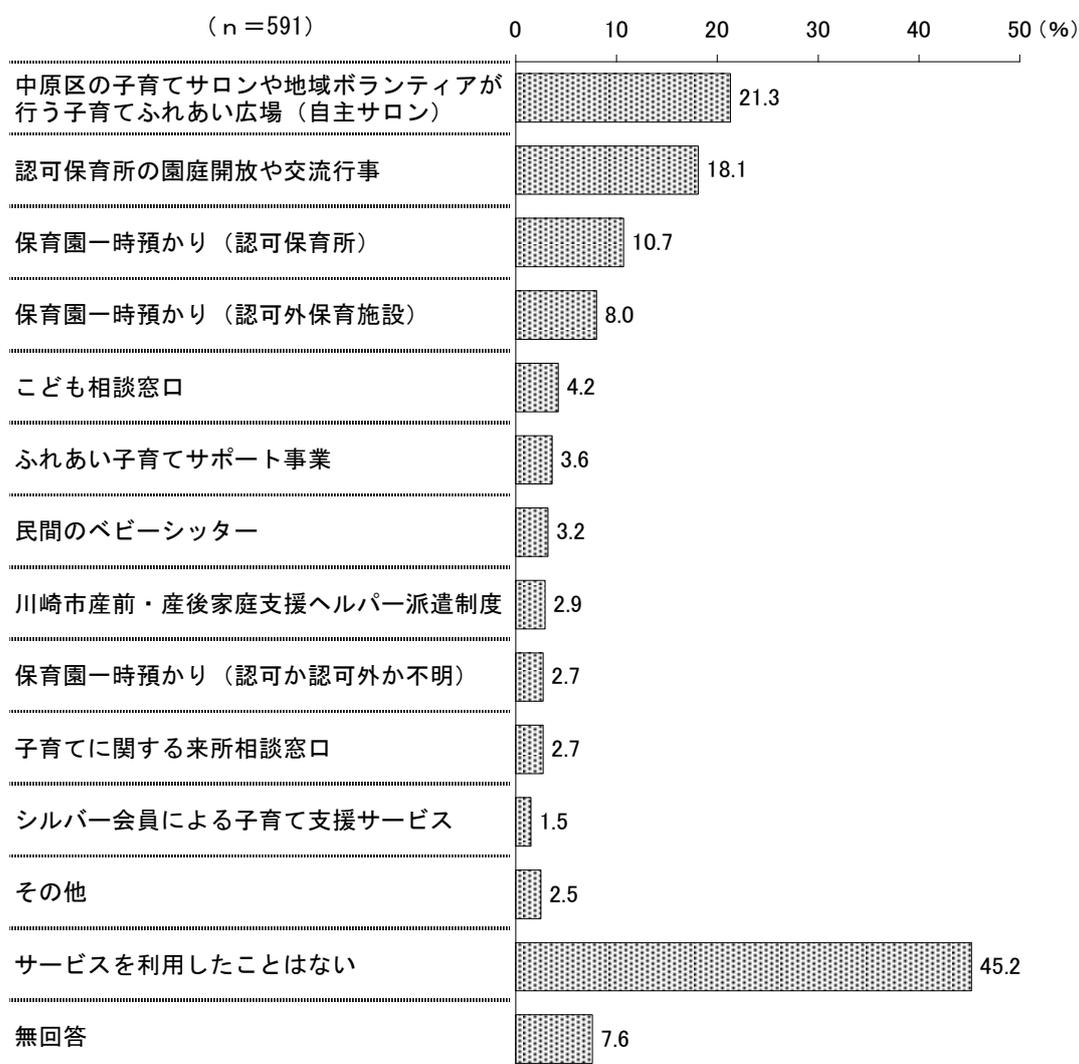
(問18で、「ある」と回答した方に)

問18-1 普段利用している、もしくは利用したことのあるサービスを教えてください。

(○はいくつでも)

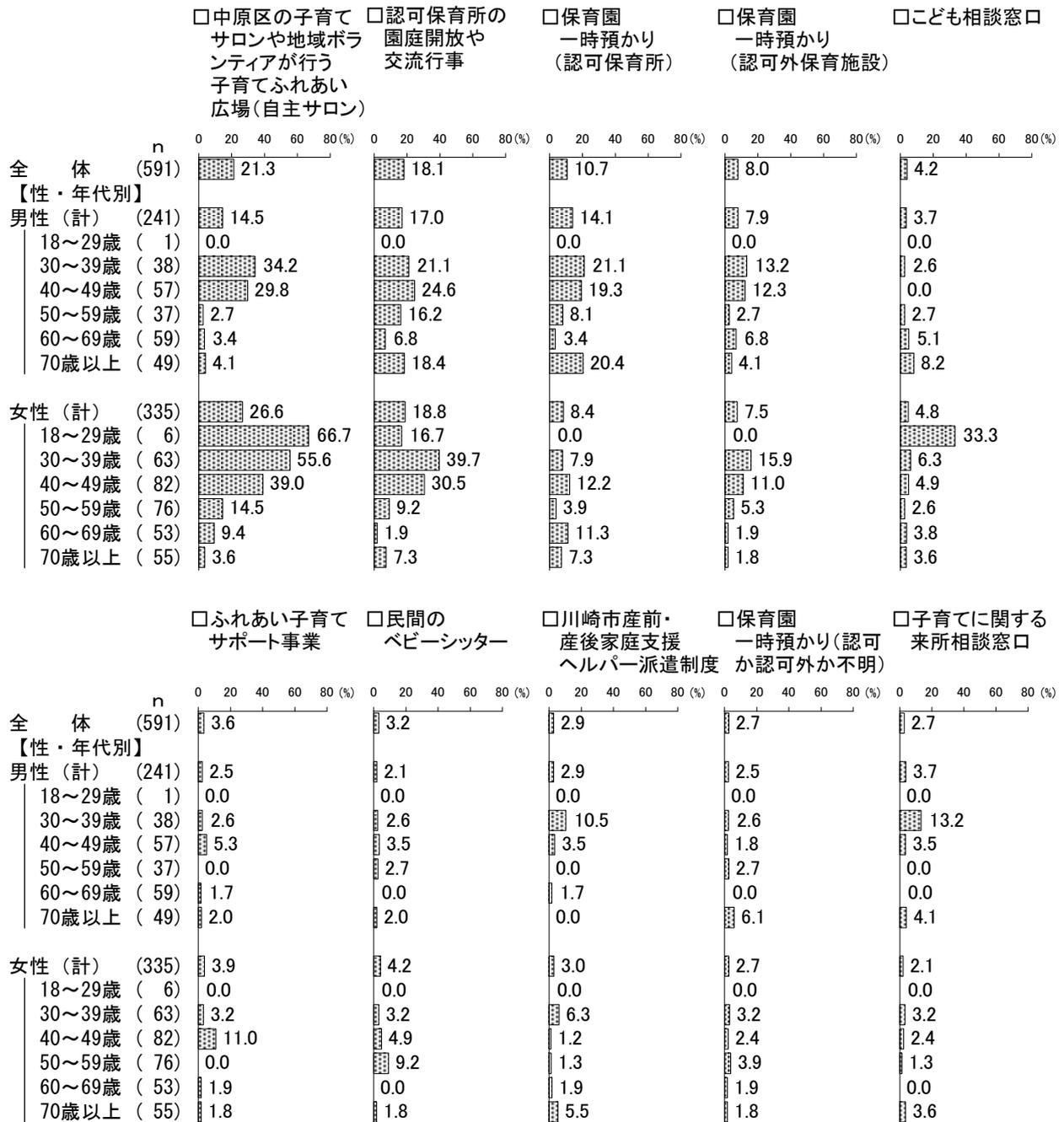
子育ての経験が「ある」と回答した方(591人)に、普段利用している、もしくは利用したことのあるサービスを聞いたところ、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場(自主サロン)」(21.3%)が2割を超えて最も高く、次いで「認可保育所の園庭開放や交流行事」(18.1%)、「保育園一時預かり(認可保育所)」(10.7%)、「保育園一時預かり(認可外保育施設)」(8.0%)などの順となっている。(図表8-3-1)

図表8-3-1 利用したことがある子育て支援サービス



性・年代別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は女性18～29歳（66.7%）が7割近く、女性30～39歳（55.6%）が5割台半ばで高くなっている。「認可保育所の園庭開放や交流行事」は女性30～39歳（39.7%）が約4割、女性40～49歳（30.5%）が約3割で高くなっている。（図表8-3-2）

図表8-3-2 利用したことがある子育て支援サービス－性・年代別（上位10項目）

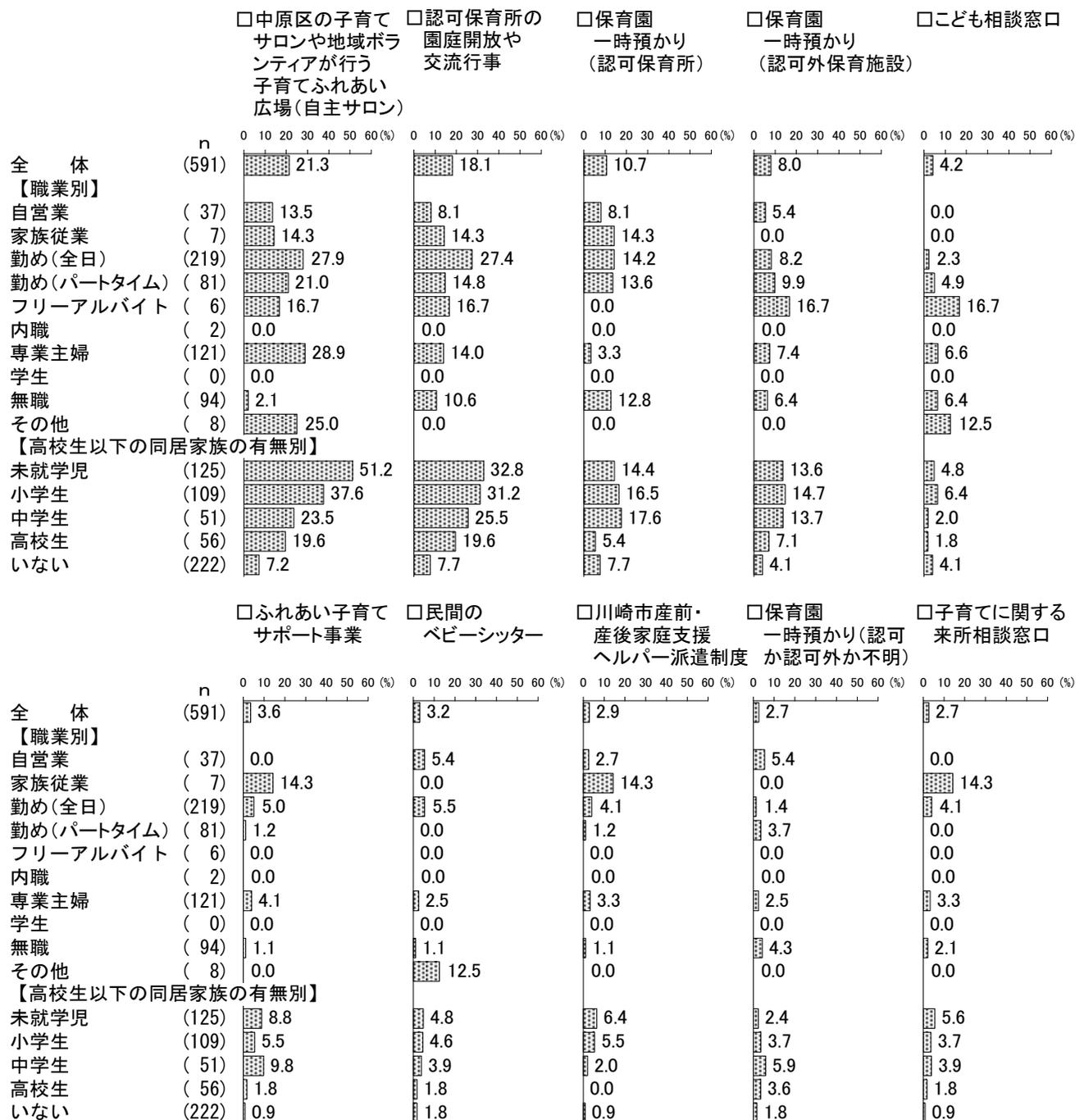


職業別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は専業主婦（28.9%）と勤め（全日）（27.9%）がともに3割近くで高くなっている。「認可保育所の園庭開放や交流行事」は勤め（全日）（27.4%）が約3割で高くなっている。

高校生以下の同居家族の有無別にみると、「中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場（自主サロン）」は未就学児と同居している人（51.2%）が5割を超え、小学生と同居している人（37.6%）が4割近くで高くなっている。「認可保育所の園庭開放や交流行事」は未就学児と同居している人（32.8%）と小学生と同居している人（31.2%）がともに3割を超えて高くなっている。（図表8-3-3）

図表8-3-3 利用したことがある子育て支援サービス

－職業別・高校生以下の同居家族の有無別（上位10項目）



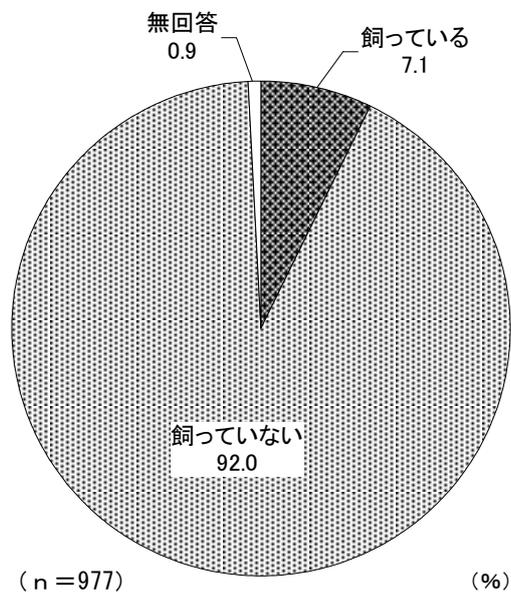
## 9. 動物の適正飼育

### (1) 犬の飼育状況

問19 あなたは現在犬を飼っていますか。(○は1つだけ)

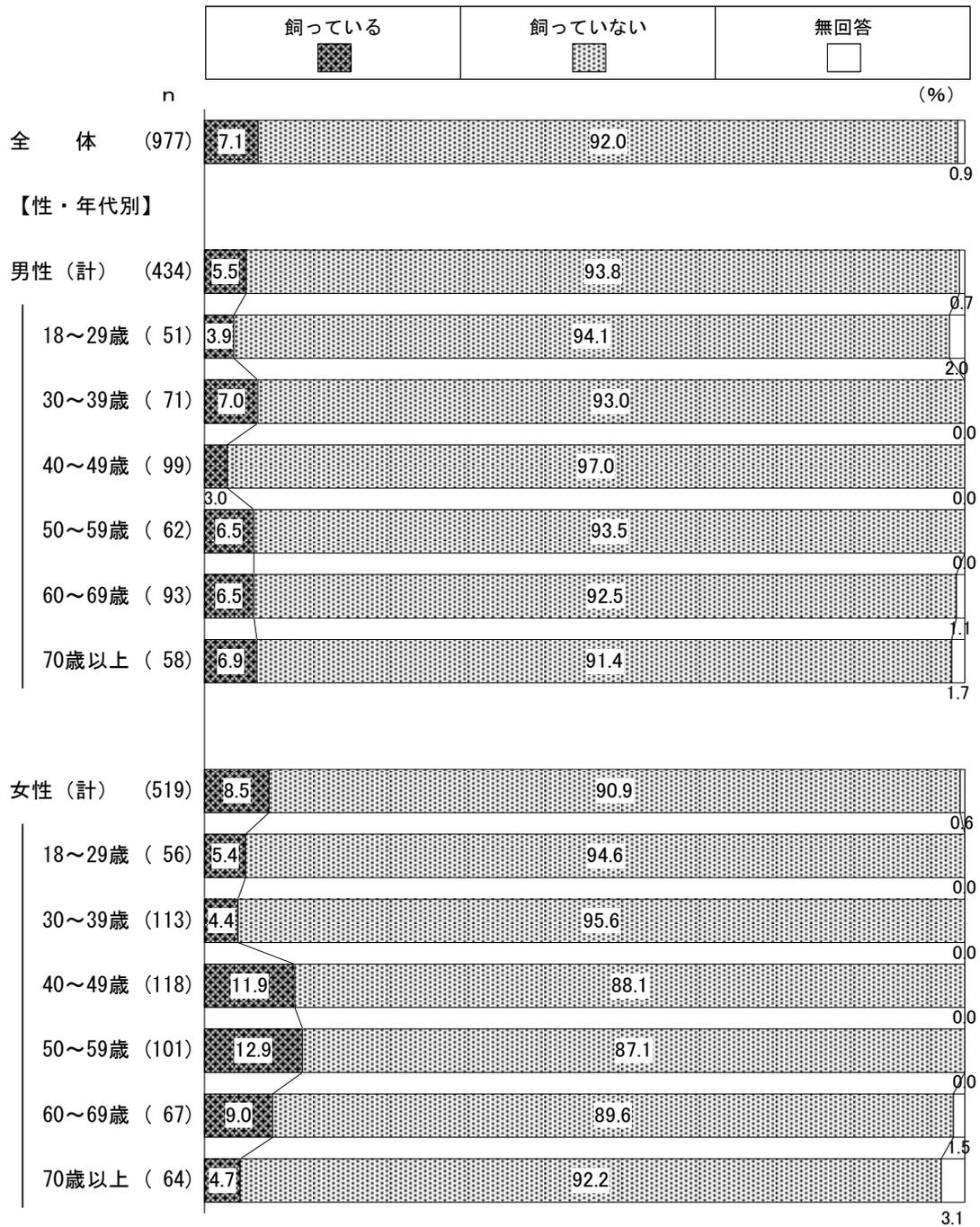
現在犬を飼っているか聞いたところ、「飼っている」が7.1%で、「飼っていない」(92.0%)が9割を超えている。(図表9-1-1)

図表9-1-1 犬の飼育状況



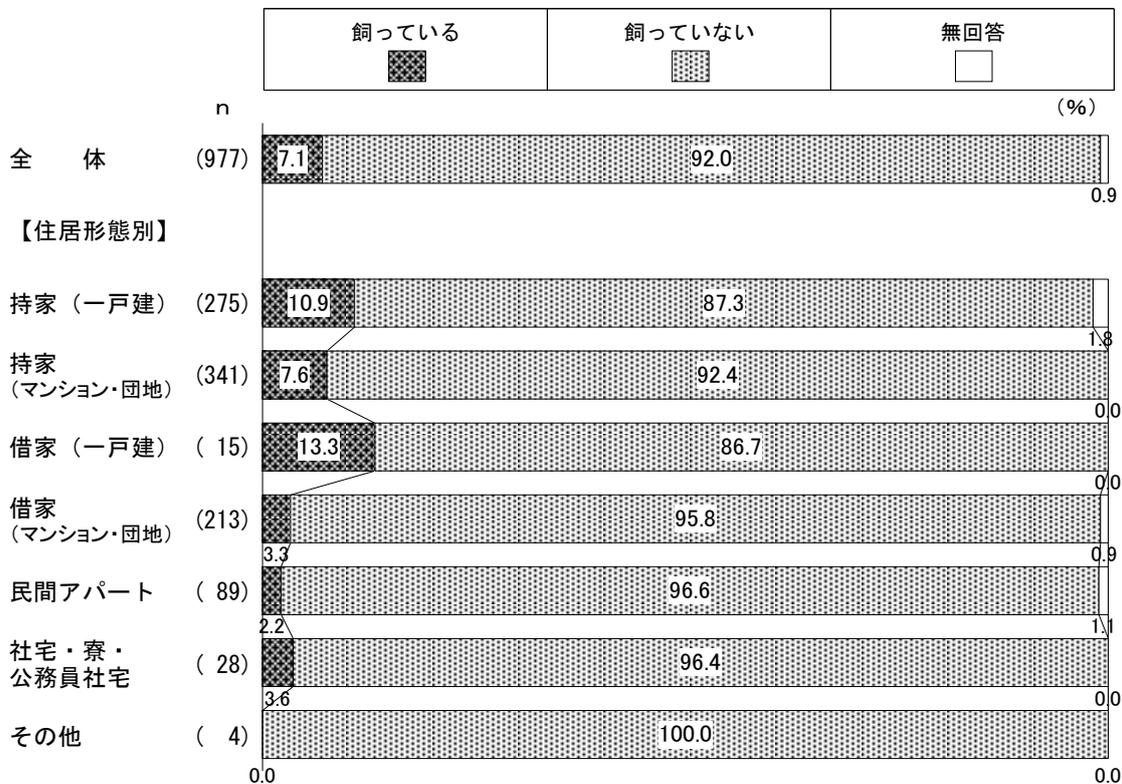
性・年代別にみると、「飼っている」は女性50～59歳（12.9%）と女性40～49歳（11.9%）がともに1割を超えている。（図表9－1－2）

図表9－1－2 犬の飼育状況－性・年代別



住居形態別にみると、「飼っている」は借家（一戸建）（13.3%）と持家（一戸建）（10.9%）がともに1割台となっている。（図表9-1-3）

図表9-1-3 犬の飼育状況－住居形態別



## (2) 飼い犬の登録義務の認知度・登録状況

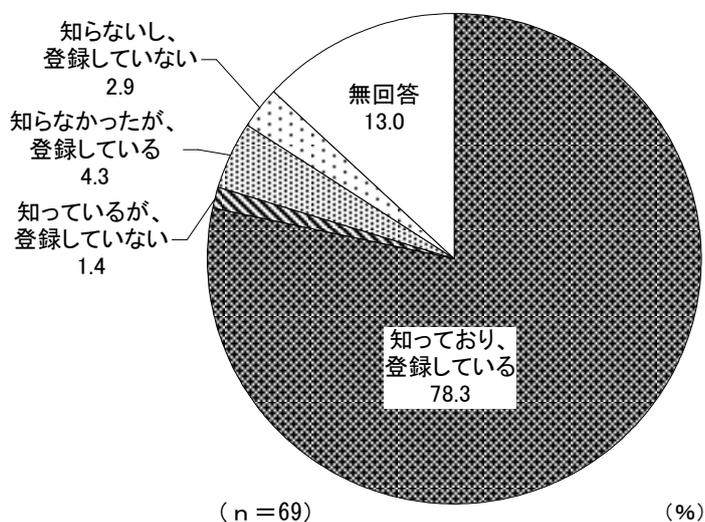
(問19で、「飼っている」と回答した方に)

問19-1 犬の飼い主には、現在居住している市町村に飼い犬の登録をすることが法律で義務付けられていることを知っていますか。また、登録していますか。(○は1つだけ)

現在犬を「飼っている」と回答した方(69人)に、犬の飼い主には、現在居住している市町村に飼い犬の登録をすることが法律で義務付けられていることを知っているか、また登録しているか聞いたところ、「知っており、登録している」(78.3%)が8割近くで高くなっている。

(図表9-2-1)

図表9-2-1 飼い犬の登録義務の認知度・登録状況



### (3) 年1回の狂犬病予防注射接種義務の認知度・接種状況

(問19で、「飼っている」と回答した方に)

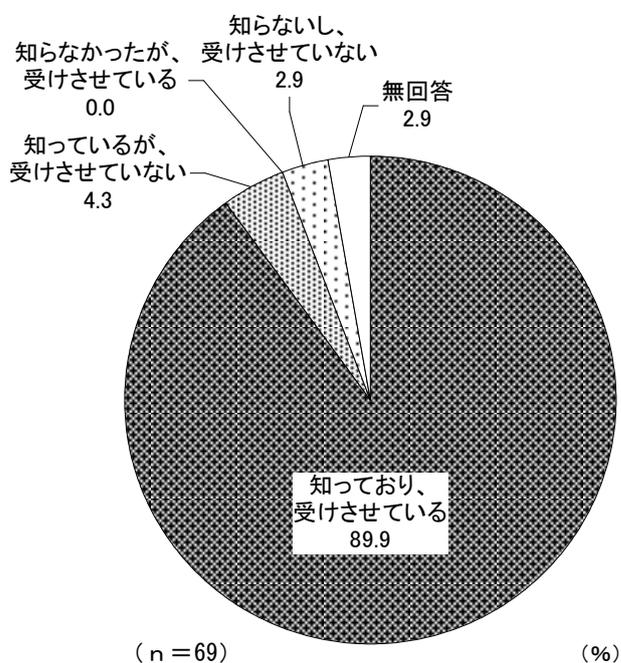
問19-2 犬の飼い主には、飼い犬に年1回の狂犬病予防注射を受けさせることが法律で義務付けられていることを知っていますか。また、予防接種を受けさせていますか。

(○は1つだけ)

現在犬を「飼っている」と回答した方(69人)に、犬の飼い主には、飼い犬に年1回の狂犬病予防注射を受けさせることが法律で義務付けられていることを知っているか、また予防接種を受けさせているか聞いたところ、「知っており、受けさせている」(89.9%)が約9割で高くなっている。

(図表9-3-1)

図表9-3-1 年1回の狂犬病予防注射接種義務の認知度・接種状況

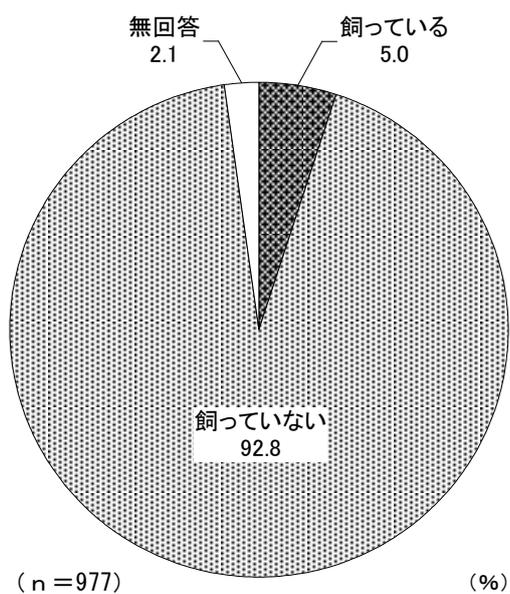


#### (4) 猫の飼育状況

問20 あなたは現在猫を飼っていますか。(○は1つだけ)

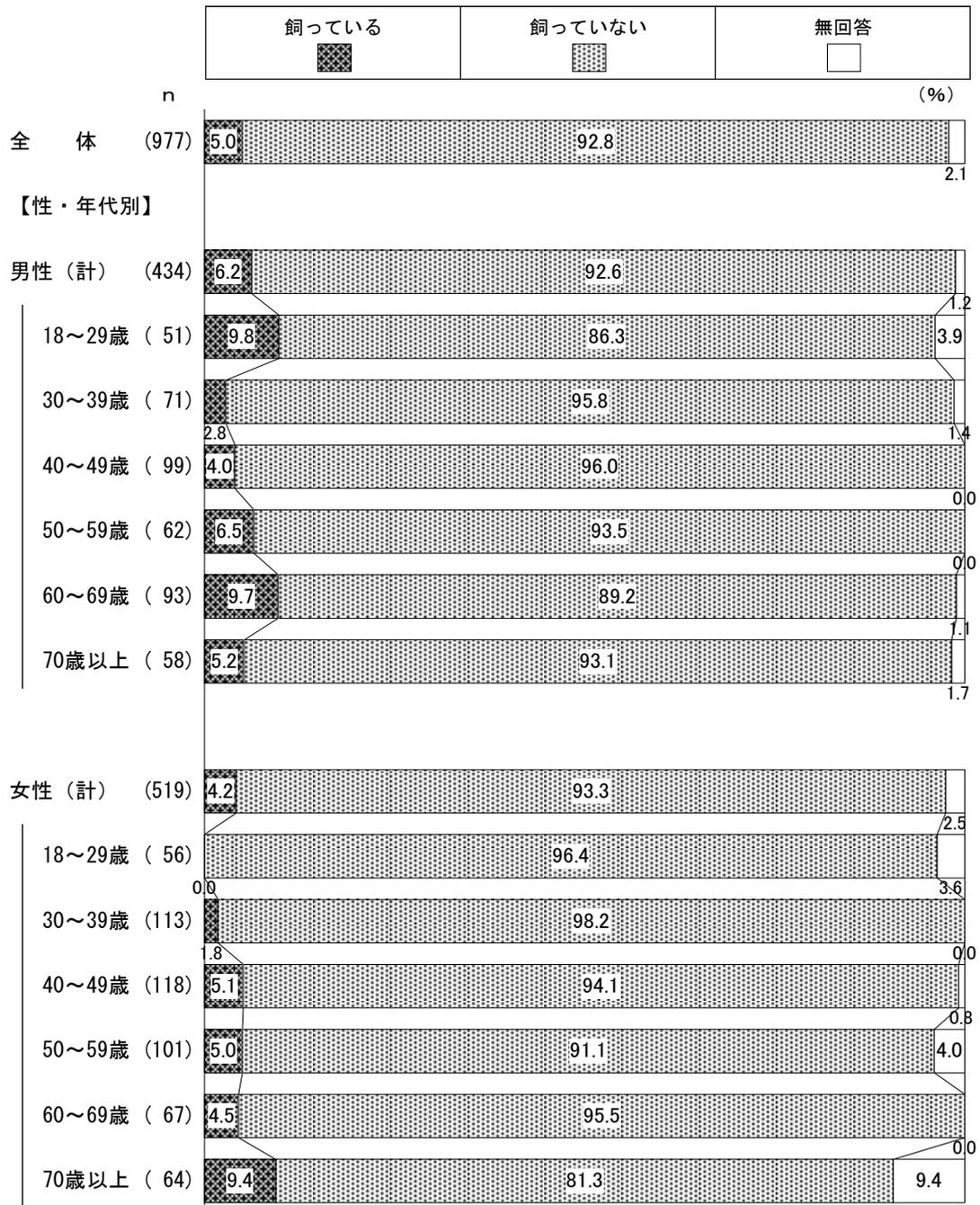
現在猫を飼っているか聞いたところ、「飼っている」が5.0%で、「飼っていない」(92.8%)が9割を超えている。(図表9-4-1)

図表9-4-1 猫の飼育状況



性・年代別にみると、「飼っている」は男性18～29歳（9.8%）と男性60～69歳（9.7%）がともに約1割となっている。（図表9-4-2）

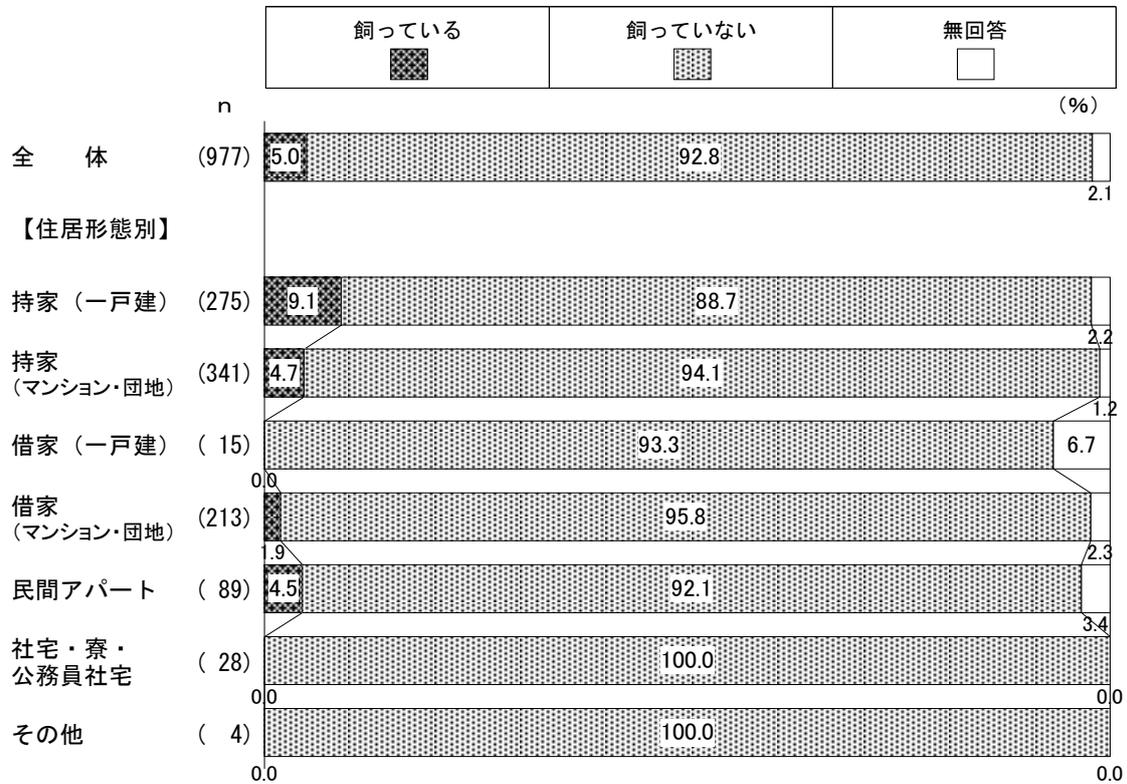
図表9-4-2 猫の飼育状況－性・年代別



住居形態別にみると、「飼っている」は持家（一戸建）（9.1%）が約1割となっている。

（図表9-4-3）

図表9-4-3 猫の飼育状況－住居形態別



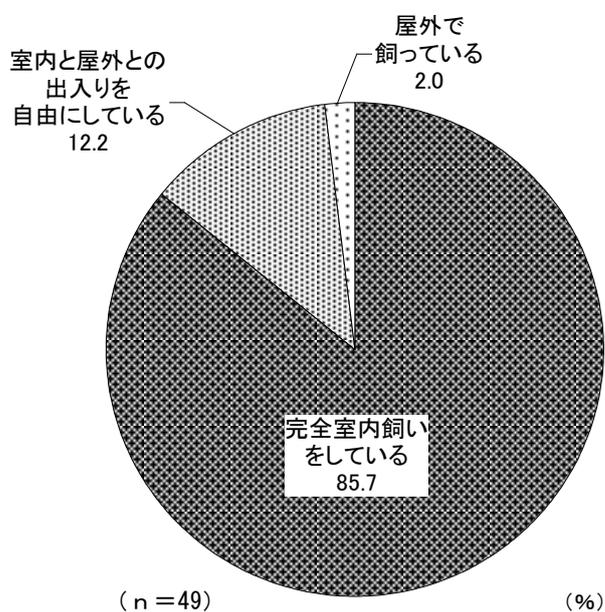
## (5) 飼い猫の室内飼いの実施状況

(問20で、「飼っている」と回答した方に)

問20-1 本市では、猫の交通事故や迷子、猫同士の感染症等を防止するために、猫の完全室内飼いを推奨していますが、飼い猫を室内飼っていますか。(〇は1つだけ)

現在猫を「飼っている」と回答した方(49人)に、飼い猫を室内飼っているか聞いたところ、「完全室内飼いをしている」(85.7%)が8割台半ばで高くなっている。一方、「室内と屋外との出入りを自由にしてている」(12.2%)は1割を超えている。(図表9-5-1)

図表9-5-1 飼い猫の室内飼いの実施状況



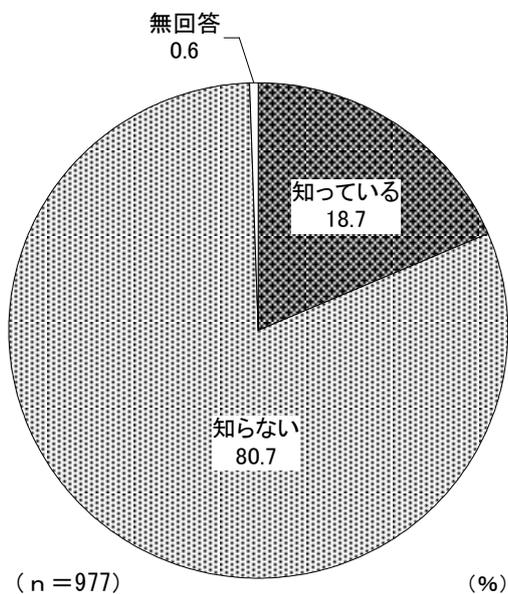
## 10. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

### (1) 区内の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があることの認知度

問21 川崎市では英国を相手国にホストタウンとしての取り組みを進めています。中原区では、等々力陸上競技場等の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があるということを知っていますか。(○は1つだけ)

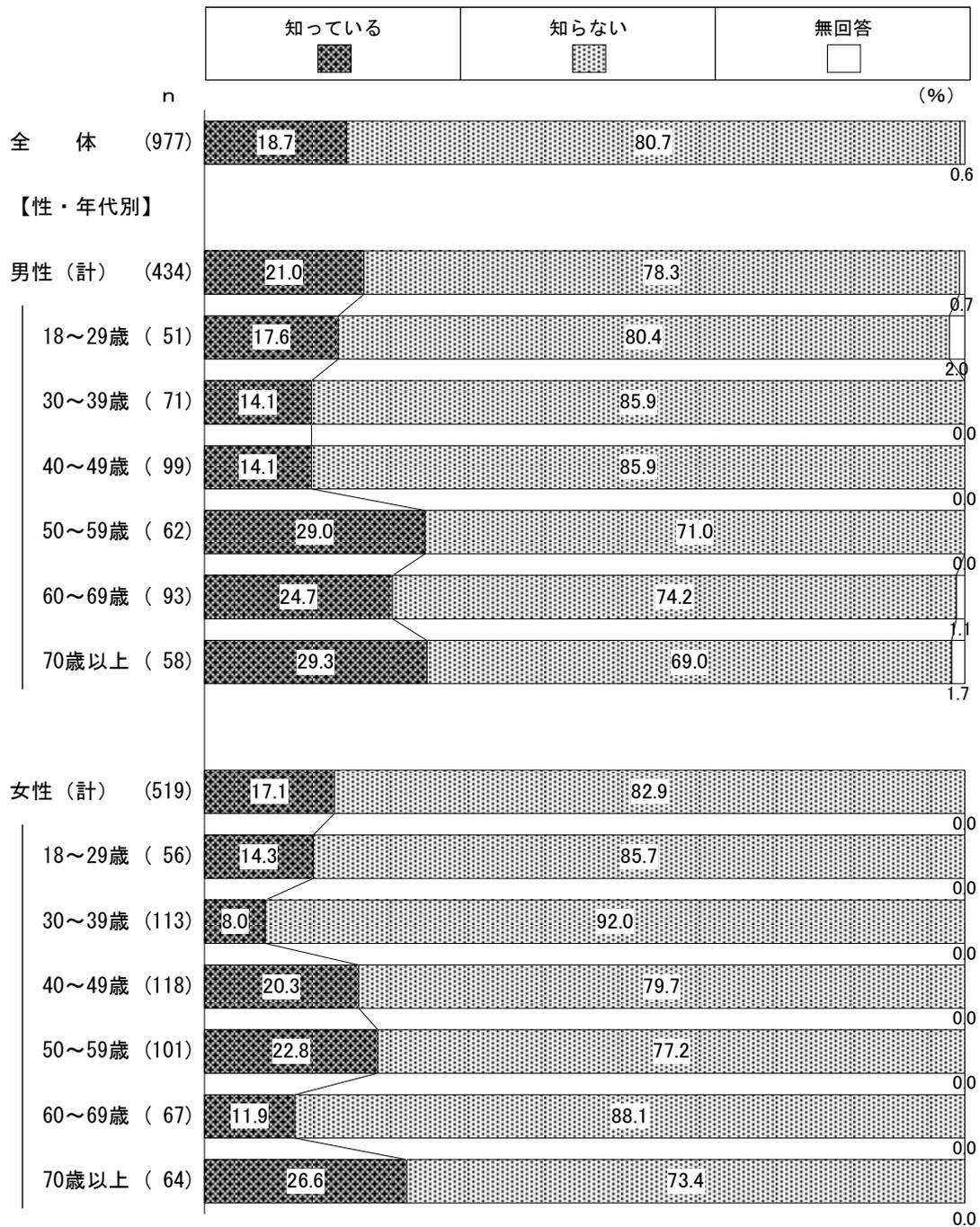
中原区では、等々力陸上競技場等の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があることを知っているか聞いたところ、「知っている」(18.7%)が2割近くとなっている。一方、「知らない」(80.7%)は8割を超えている。(図表10-1-1)

図表10-1-1 区内の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があることの認知度



性・年代別にみると、「知っている」は男性70歳以上（29.3%）と男性50～59歳（29.0%）がともに約3割で高くなっている。（図表10-1-2）

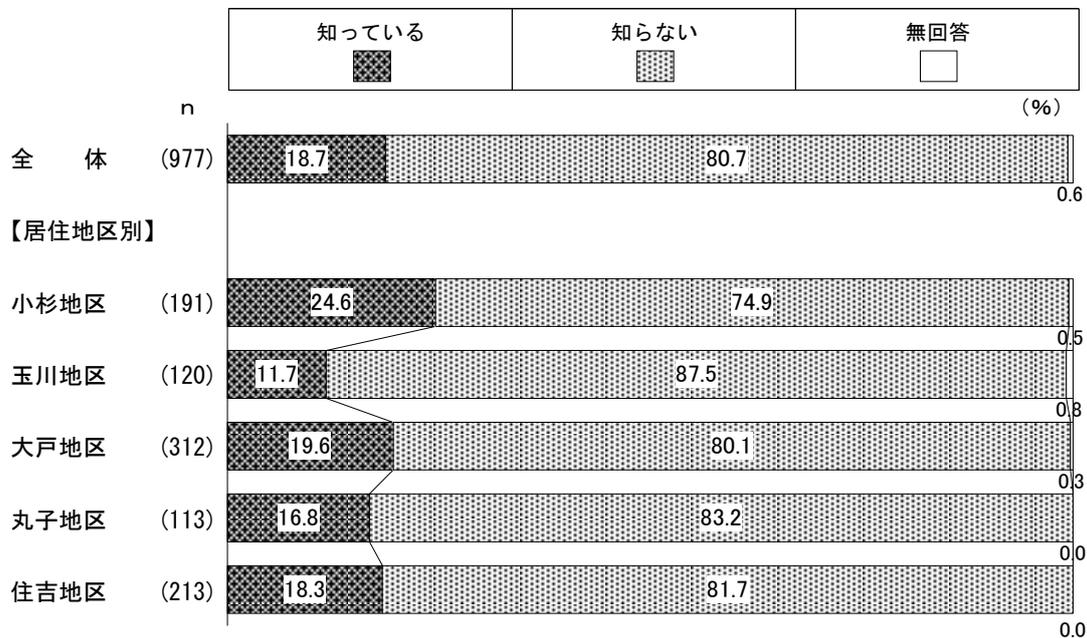
図表10-1-2 区内の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があることの認知度  
—性・年代別



居住地区別にみると、「知っている」は小杉地区（24.6%）が2割台半ばで高くなっている。

（図表10-1-3）

図表10-1-3 区内の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があることの認知度  
-居住地区別-

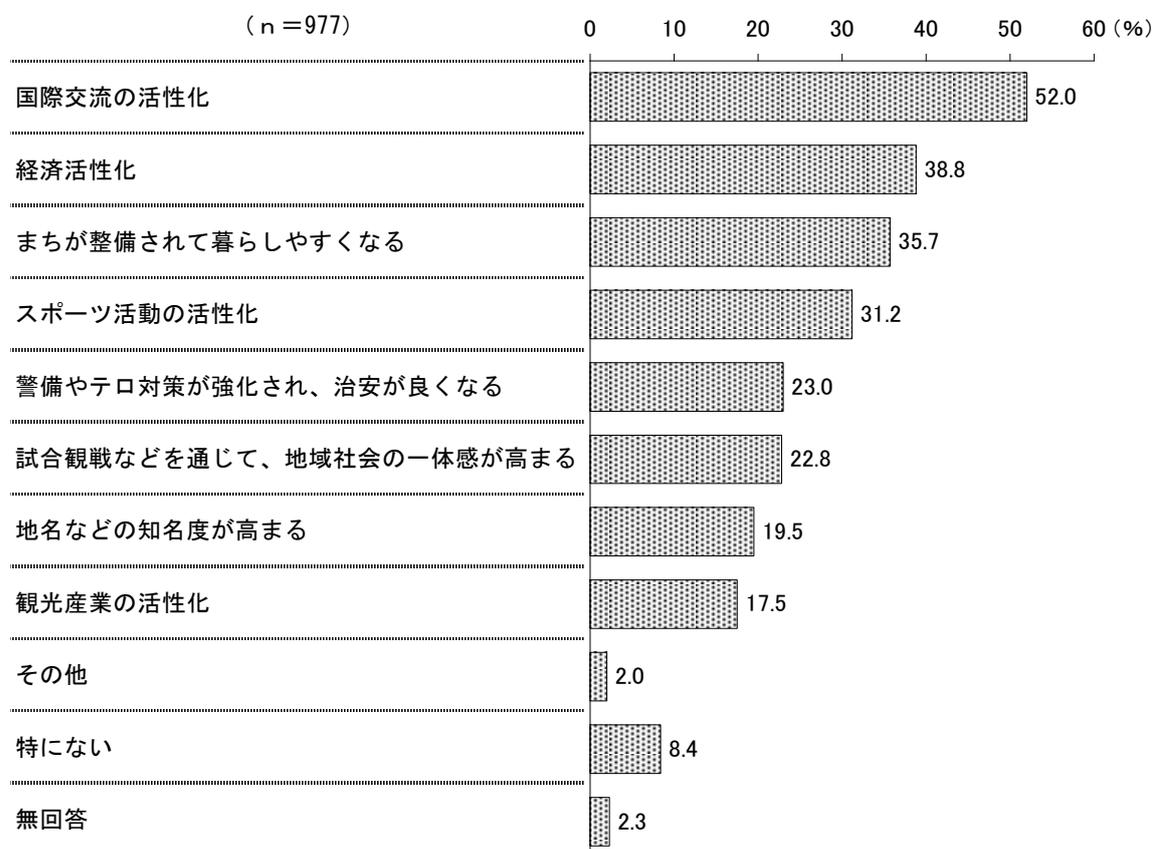


## (2) ホストタウンとしての取り組みが地域に与える影響として期待すること

問22 川崎市がホストタウンとしての取り組みを進めることが地域に与える影響として、期待することは何ですか。(〇はいくつでも)

川崎市がホストタウンとしての取り組みを進めることが地域に与える影響として、期待することは何か聞いたところ、「国際交流の活性化」(52.0%)が5割を超えて最も高く、次いで「経済活性化」(38.8%)、「まちが整備されて暮らしやすくなる」(35.7%)、「スポーツ活動の活性化」(31.2%)、「警備やテロ対策が強化され、治安が良くなる」(23.0%)、「試合観戦などを通じて、地域社会の一体感が高まる」(22.8%)などの順となっている。(図表10-2-1)

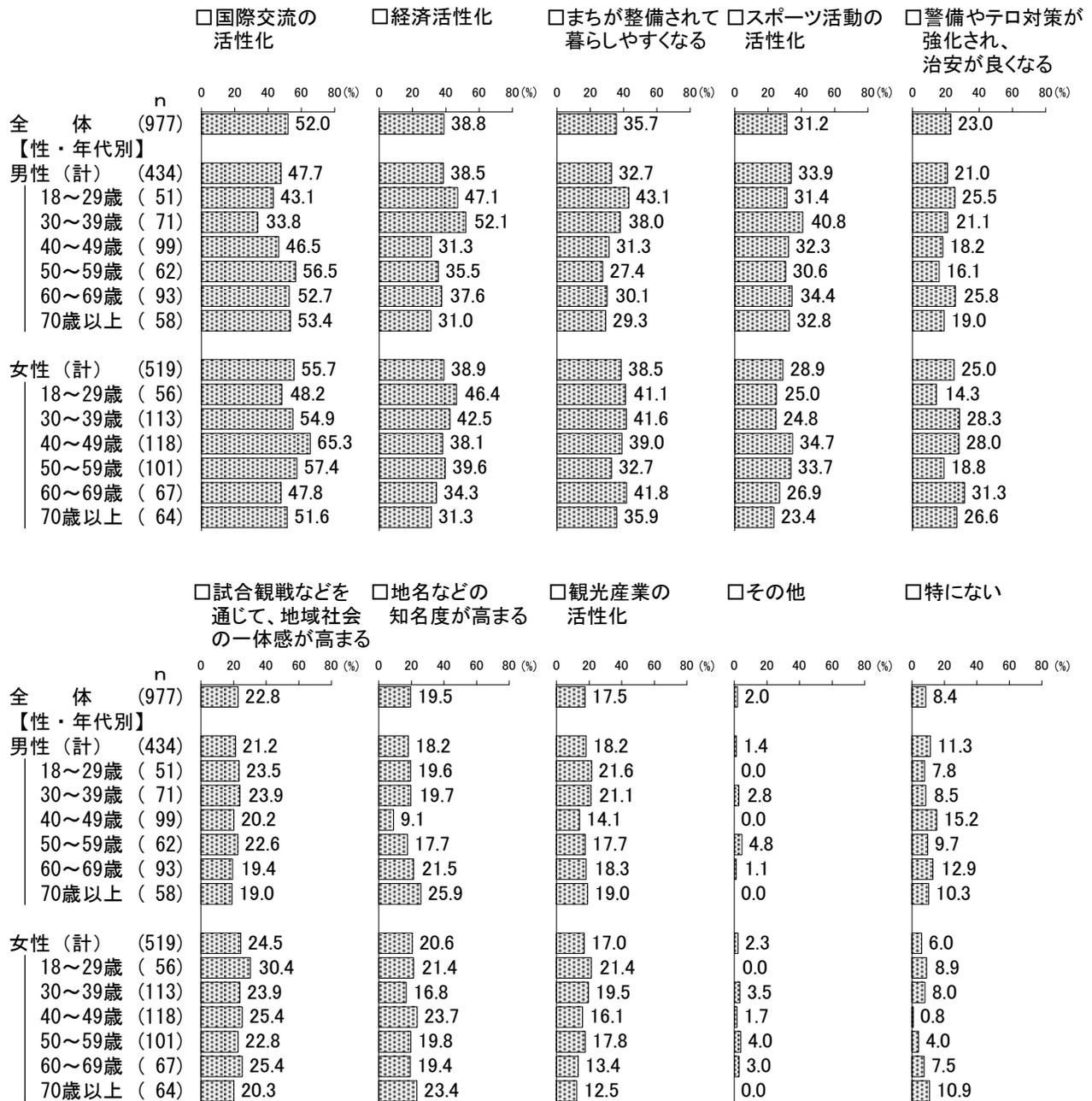
図表10-2-1 ホストタウンとしての取り組みが地域に与える影響として期待すること



性・年代別にみると、「国際交流の活性化」は女性40～49歳（65.3%）が6割台半ばで高くなっている。「経済活性化」は男性30～39歳（52.1%）が5割を超えて高くなっている。

(図表10-2-2)

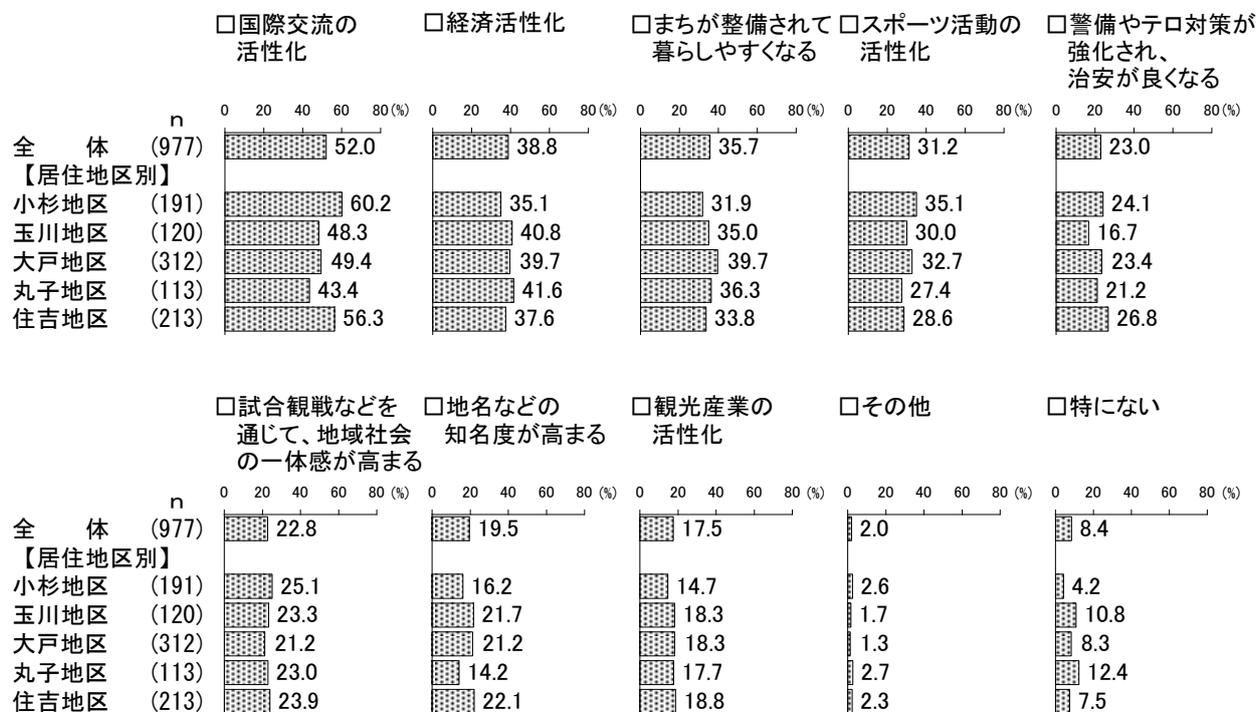
図表10-2-2 ホスタウンとしての取り組みが地域に与える影響として期待すること一性・年代別



居住地区別にみると、「国際交流の活性化」は小杉地区（60.2%）が約6割で高くなっている。

（図表10－2－3）

図表10－2－3 ホスタウンとしての取り組みが地域に与える影響として期待すること－居住地区別



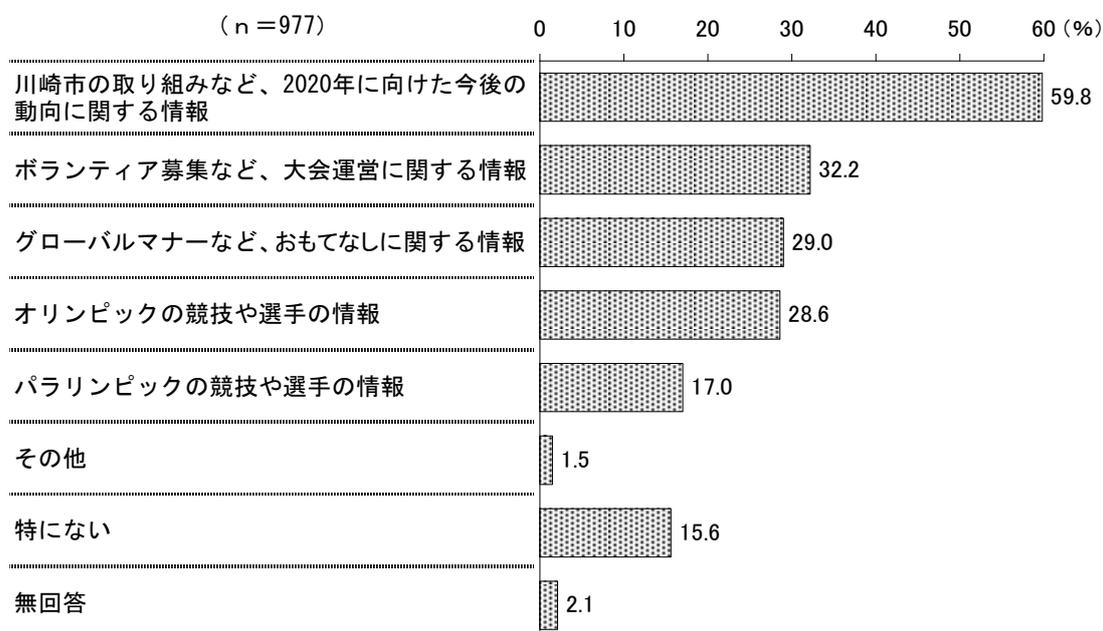
### (3) 東京大会の開催について今後知りたいこと

問23 東京大会の開催について、今後どのような情報を知りたいと思いますか。

(○はいくつでも)

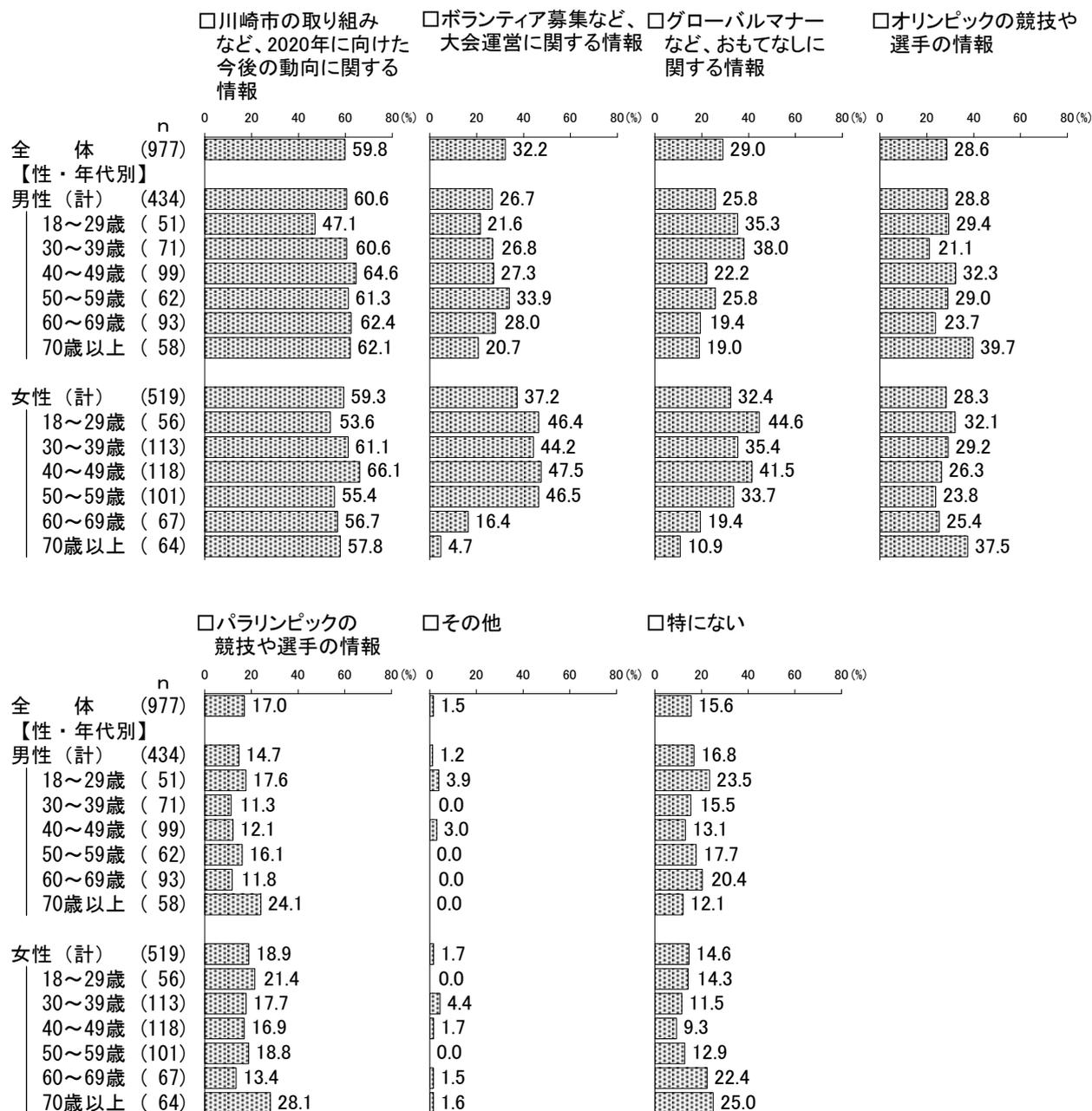
東京大会の開催について、今後どのような情報を知りたいか聞いたところ、「川崎市の取り組みなど、2020年に向けた今後の動向に関する情報」(59.8%)が約6割で最も高く、次いで「ボランティア募集など、大会運営に関する情報」(32.2%)、「グローバルマナーなど、おもてなしに関する情報」(29.0%)、「オリンピックの競技や選手の情報」(28.6%)、「パラリンピックの競技や選手の情報」(17.0%)などの順となっている。(図表10-3-1)

図表10-3-1 東京大会の開催について今後知りたいこと



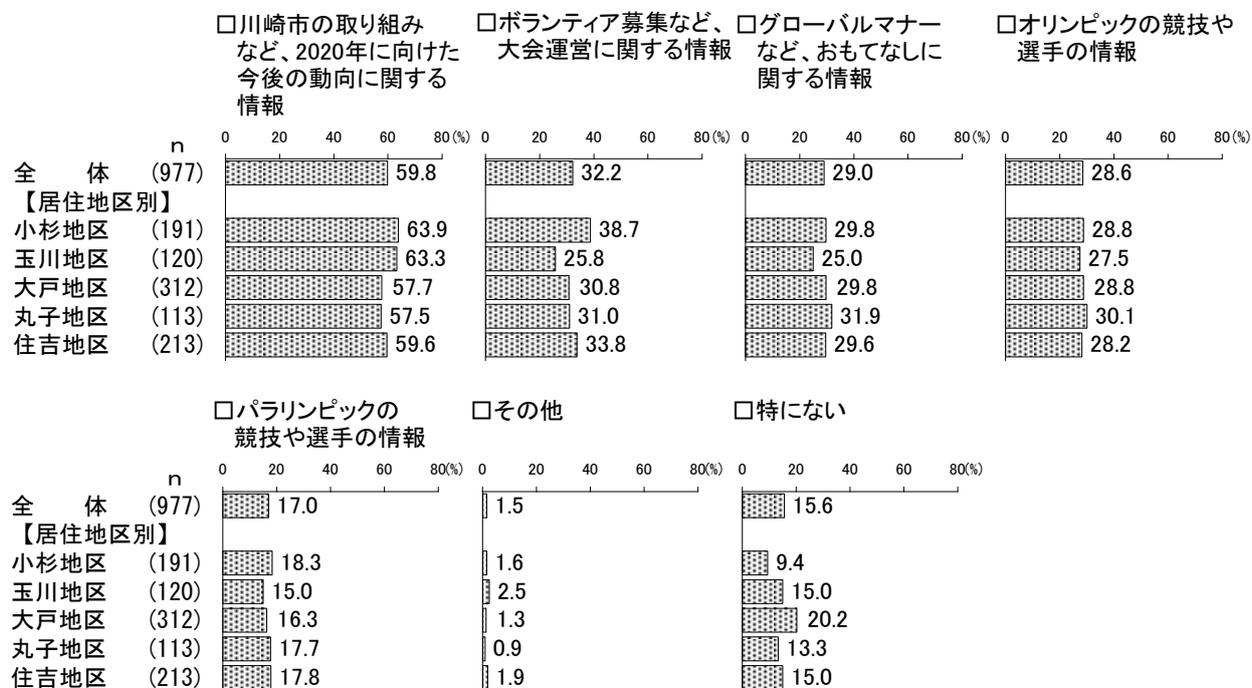
性・年代別にみると、「ボランティア募集など、大会運営に関する情報」は女性の18～29歳から50～59歳の年代がいずれも4割台で高くなっている。「グローバルマナーなど、おもてなしに関する情報」は女性18～29歳（44.6%）が4割台半ばで高くなっている。「オリンピックの競技や選手の情報」は男性70歳以上（39.7%）が約4割で高くなっている。「パラリンピックの競技や選手の情報」は女性70歳以上（28.1%）が3割近くで高くなっている。（図表10-3-2）

図表10-3-2 東京大会の開催について今後知りたいこと－性・年代別



居住地区別にみると、「ボランティア募集など、大会運営に関する情報」は小杉地区（38.7%）が4割近くで高くなっている。（図表10-3-3）

図表10-3-3 東京大会の開催について今後知りたいこと－居住地区別



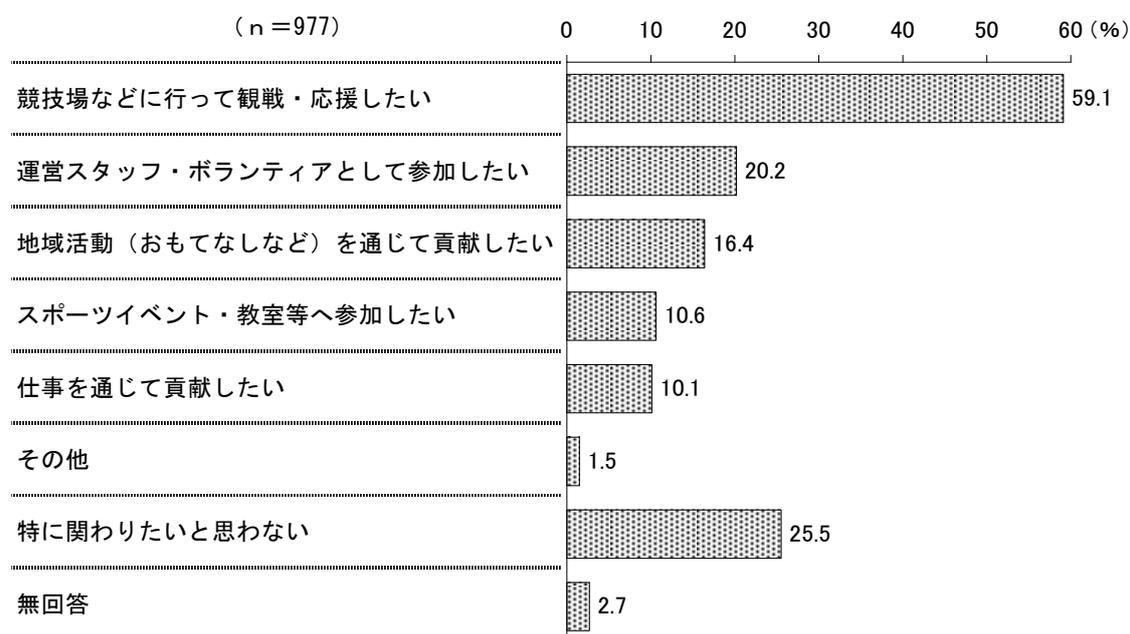
#### (4) 東京大会に対しての関わり方

問24 東京大会に対して、どのような形で参加したいですか。(〇はいくつでも)

東京大会に対して、どのような形で参加したいか聞いたところ、「競技場などに行って観戦・応援したい」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「運営スタッフ・ボランティアとして参加したい」(20.2%)、「地域活動(おもてなしなど)を通じて貢献したい」(16.4%)、「スポーツイベント・教室等へ参加したい」(10.6%)、「仕事を通じて貢献したい」(10.1%)などの順となっている。

(図表10-4-1)

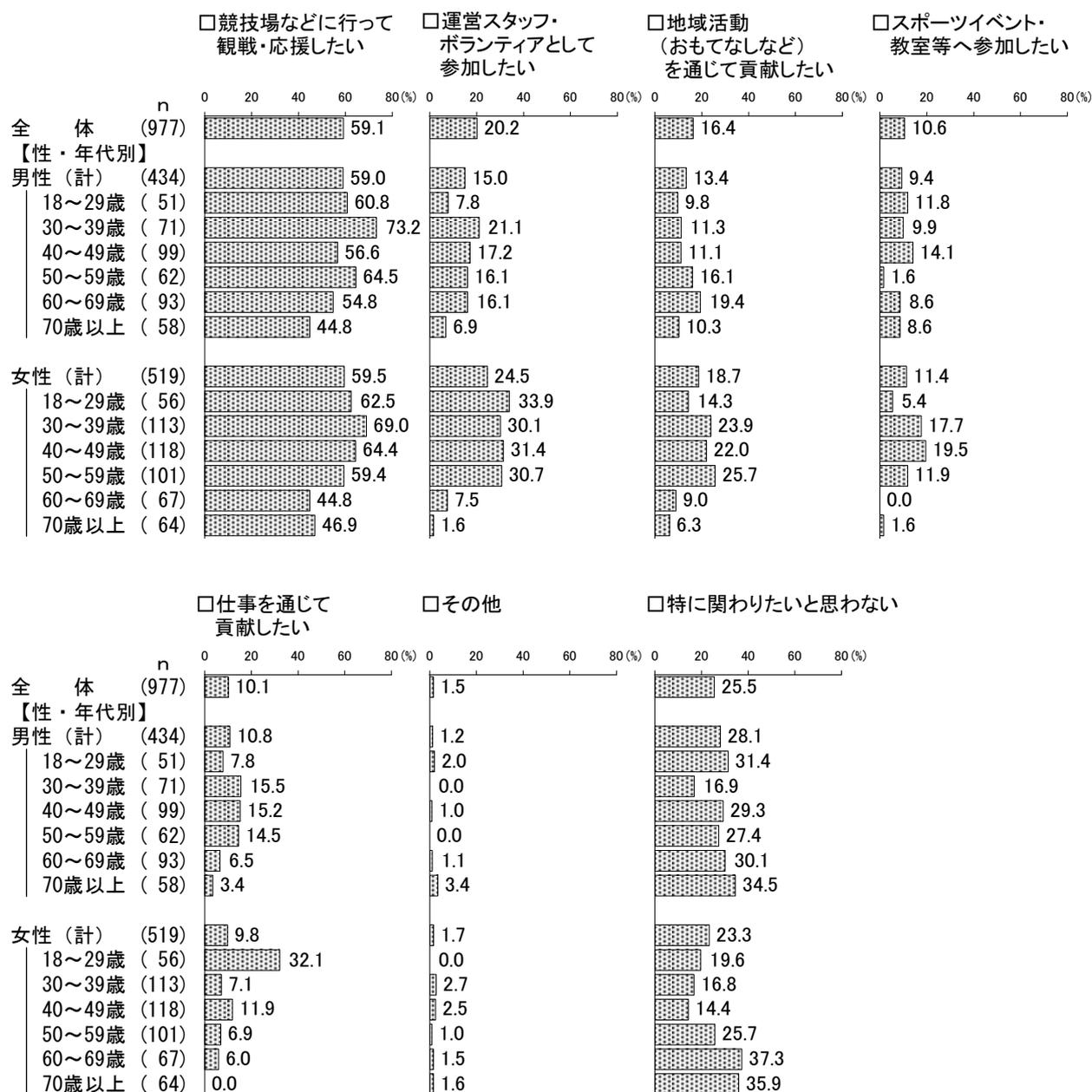
図表10-4-1 東京大会に対しての関わり方



性・年代別にみると、「競技場などに行って観戦・応援したい」は男性30～39歳（73.2%）が7割を超え、女性30～39歳（69.0%）が約7割で高くなっている。「運営スタッフ・ボランティアとして参加したい」は女性の18～29歳から50～59歳の年代がいずれも3割台で高くなっている。「仕事を通じて貢献したい」は女性18～29歳（32.1%）が3割を超えて高くなっている。

(図表10-4-2)

図表10-4-2 東京大会に対しての関わり方—性・年代別



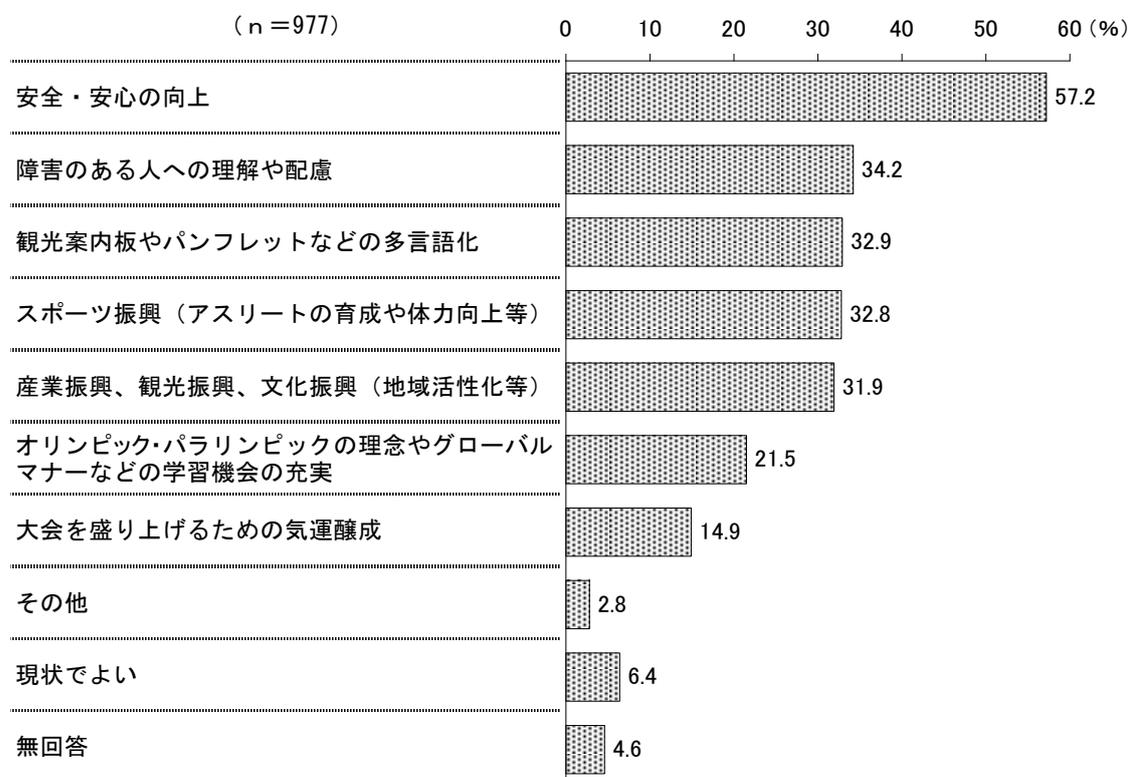
## (5) 東京大会に向けて力を入れていくべき分野

問25 東京大会に向けて、どのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。

(○はいくつでも)

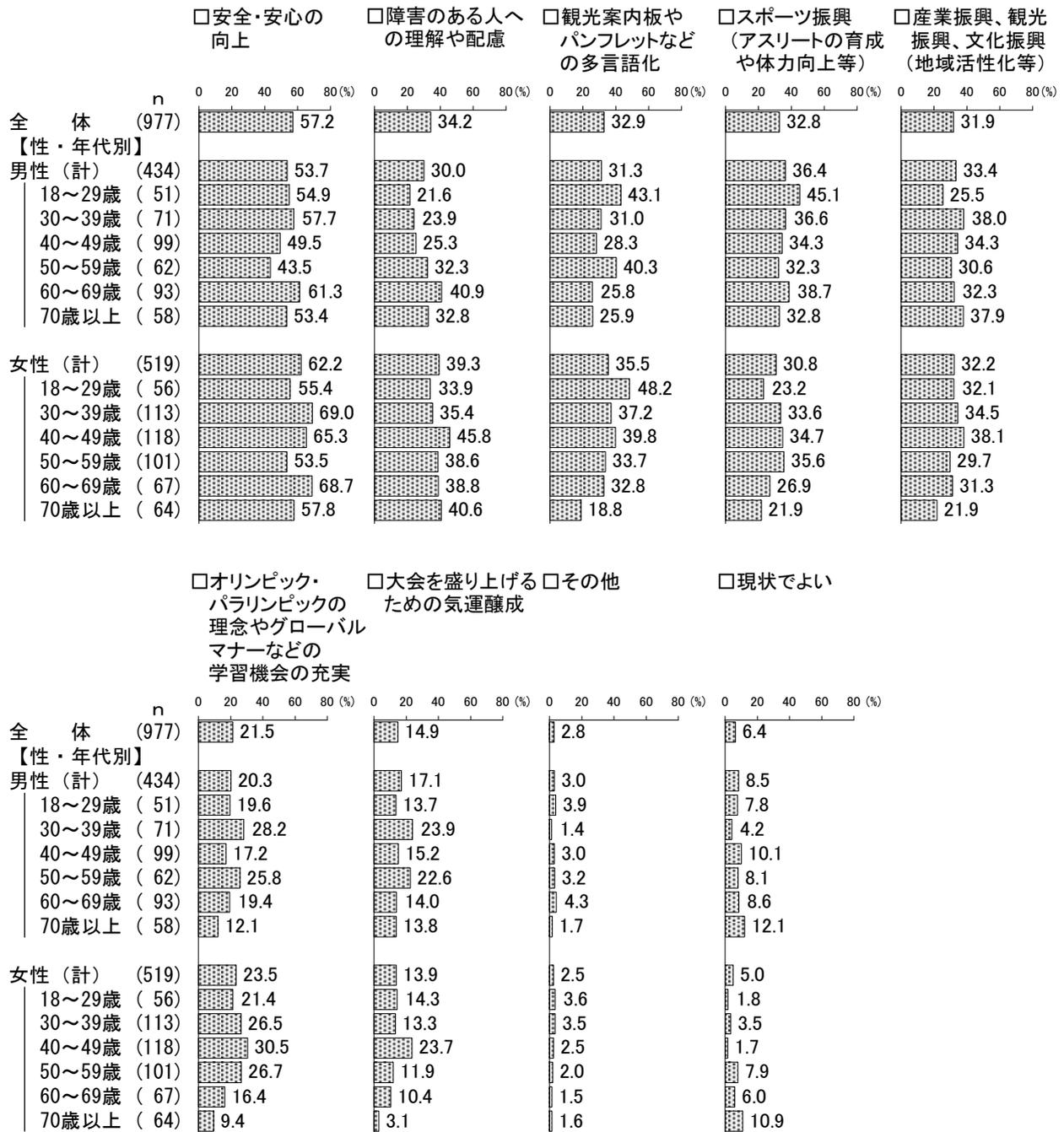
東京大会に向けて、どのような分野に力を入れていくべきだと思いたところ、「安全・安心の向上」(57.2%)が6割近くで最も高く、次いで「障害のある人への理解や配慮」(34.2%)、「観光案内板やパンフレットなどの多言語化」(32.9%)、「スポーツ振興(アスリートの育成や体力向上等)」(32.8%)、「産業振興、観光振興、文化振興(地域活性化等)」(31.9%)などの順となっている。(図表10-5-1)

図表10-5-1 東京大会に向けて力を入れていくべき分野



性・年代別にみると、「安全・安心の向上」は女性30～39歳（69.0%）が約7割で高くなっている。「障害のある人への理解や配慮」は女性40～49歳（45.8%）が4割台半ばで高くなっている。「観光案内板やパンフレットなどの多言語化」は女性18～29歳（48.2%）が5割近くで高くなっている。「スポーツ振興（アスリートの育成や体力向上等）」は男性18～29歳（45.1%）が4割台半ばで高くなっている。（図表10-5-2）

図表10-5-2 東京大会に向けて力を入れていくべき分野—性・年代別

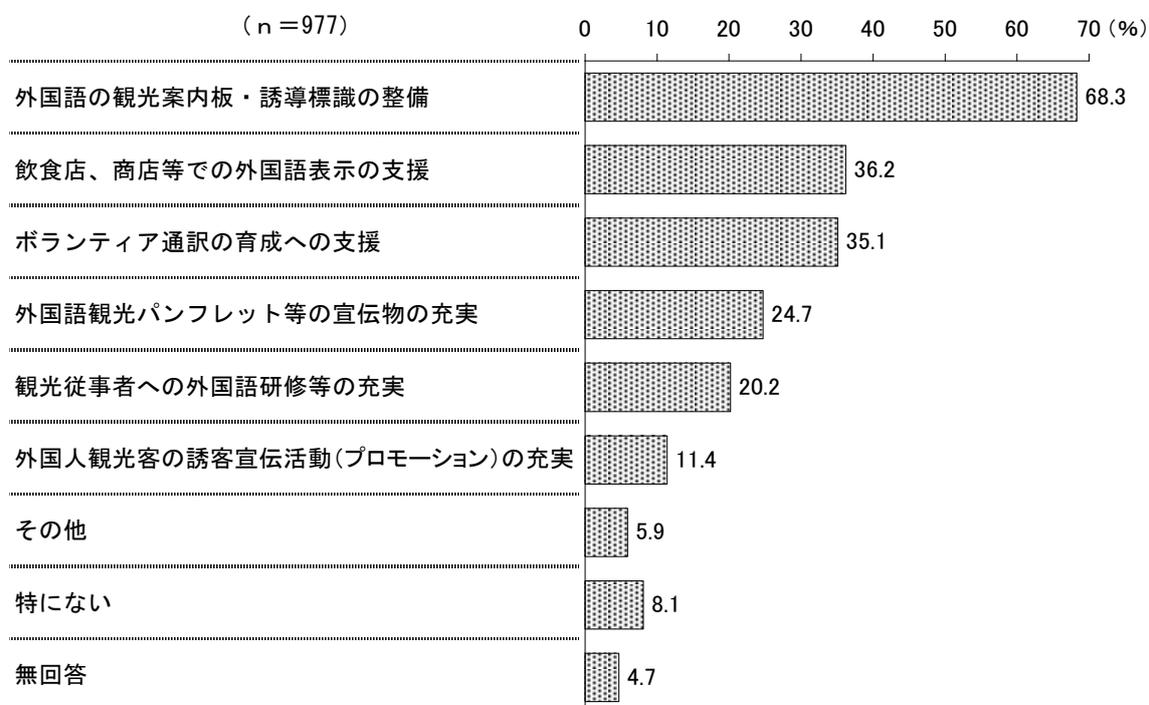


## (6) 東京大会に向けた外国人観光客の増加傾向に対する区の取り組み

問26 東京大会に向けて、区内の外国人観光客が増加する傾向を踏まえ、区はどのような取り組みを重点的に進めるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

東京大会に向けて、区内の外国人観光客が増加する傾向を踏まえ、区はどのような取り組みを重点的に進めるべきだと思うか聞いたところ、「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」(68.3%)が7割近くで最も高く、次いで「飲食店、商店等での外国語表示の支援」(36.2%)、「ボランティア通訳の育成への支援」(35.1%)、「外国語観光パンフレット等の宣伝物の充実」(24.7%)、「観光従事者への外国語研修等の充実」(20.2%)などの順となっている。(図表10-6-1)

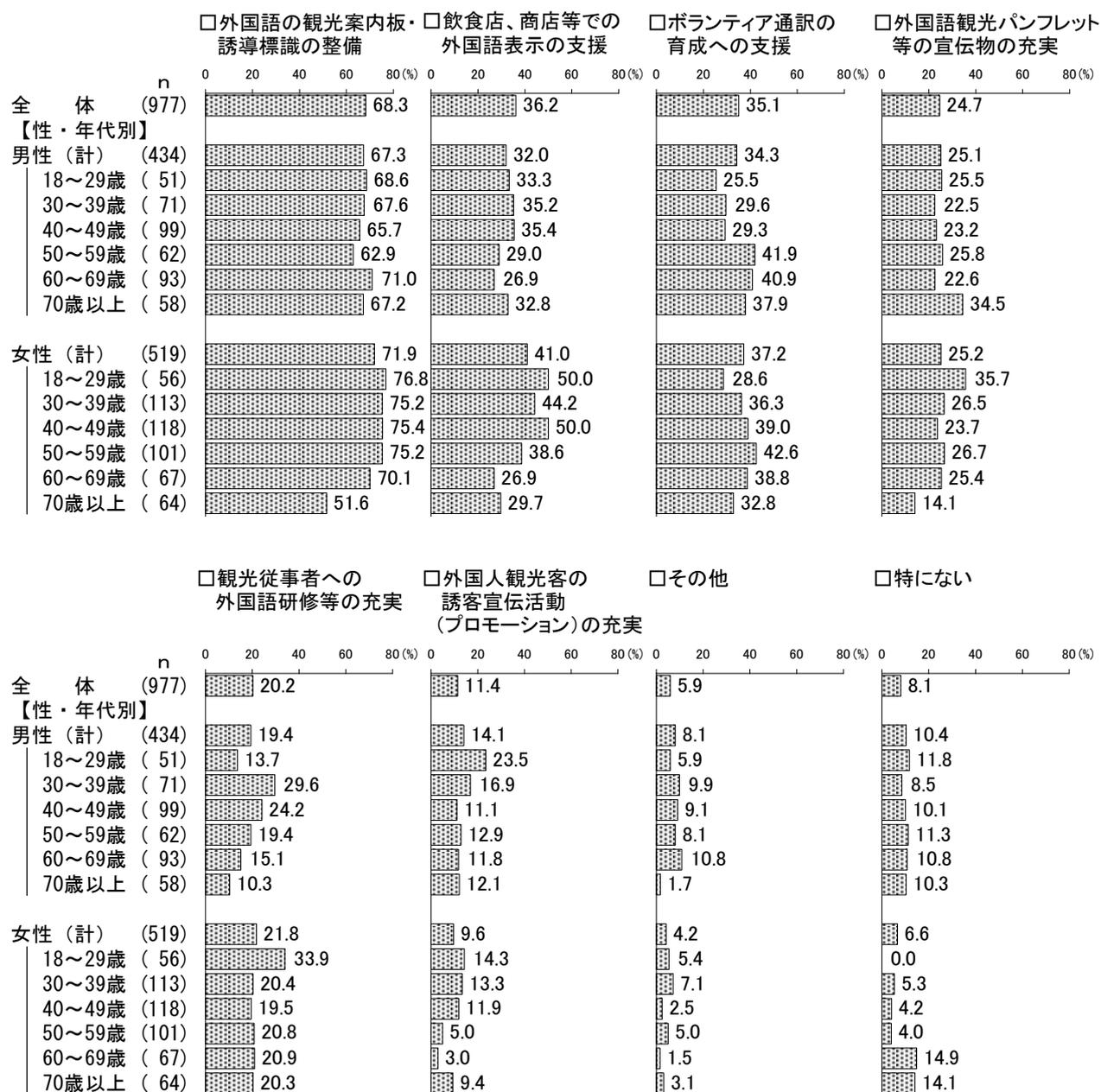
図表10-6-1 東京大会に向けた外国人観光客の増加傾向に対する区の取り組み



性・年代別にみると、「飲食店、商店等での外国語表示の支援」は女性18～29歳（50.0%）と女性40～49歳（50.0%）がともに5割で高くなっている。「外国語観光パンフレット等の宣伝物の充実」は女性18～29歳（35.7%）と男性70歳以上（34.5%）がともに3割台半ばで高くなっている。「観光従事者への外国語研修等の充実」は女性18～29歳（33.9%）が3割を超えて高くなっている。

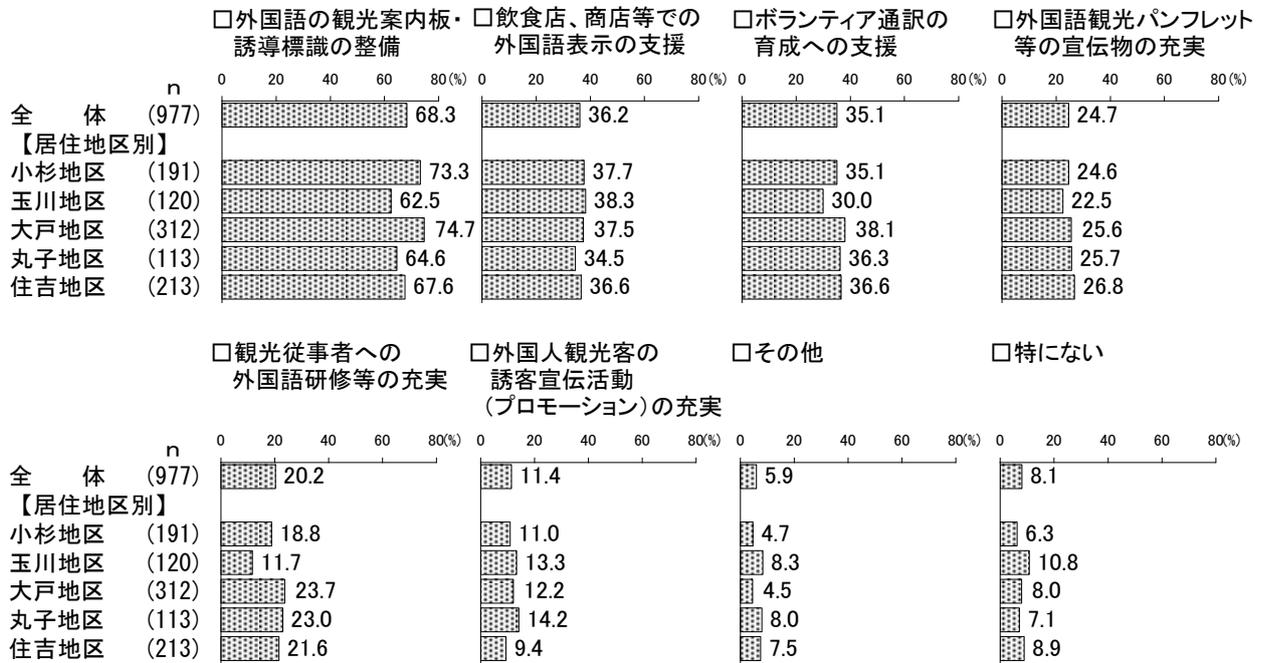
（図表10-6-2）

図表10-6-2 東京大会に向けた外国人観光客の増加傾向に対する区の取り組み—性・年代別



居住地区別にみると、「外国語の観光案内板・誘導標識の整備」は大戸地区（74.7%）と小杉地区（73.3%）がともに7割台半ばで高くなっている。（図表10-6-3）

図表10-6-3 東京大会に向けた外国人観光客の増加傾向に対する区の取り組み—居住地区別



### Ⅲ 質問と回答



# 中原区区民アンケート

平成 28 年 5 月

## <居住環境>

問 1 今の所にお住みになって何年になりますか。(○は1つだけ) n=977

1	1年未満	5.2	4	5年～10年未満	16.6	7	生まれてからずっと住んでいる	
2	1年～3年未満	12.7	5	10年～20年未満	24.7		問2へ	7.1
3	3年～5年未満	9.7	6	20年以上	23.6		(無回答)	0.4

(問1で、「1」～「6」と回答した方に)

▶ 問1-1 今の所に住む以前はどちらにお住まいでしたか。(○は1つだけ) n=904

1	市内の他の所	40.4	4	東京23区内	21.0
2	横浜市	11.1	5	東京23区外	3.3
3	神奈川県内(川崎市、横浜市を除く)	6.2	6	その他の地域(国外含む)	17.1
				(無回答)	0.9

問 2 これからも今の所にお住まいになる予定ですか。(○は1つだけ) n=977

1	これからも住んでいたい	77.1		
2	できれば市内の他の所へ移りたい	3.7		
3	できれば市外へ移りたい	4.8		
4	わからない ⇒ 問3へ	13.7		(無回答) 0.7

(問2で、「1 これからも住んでいたい」と回答した方に)

▶ 問2-1 今の所に住んでいたい主な理由は何ですか。(○は1つだけ) n=753

1	通勤・通学の便が良いから	31.9	5	以前から住んでいるから	18.6
2	買い物が便利だから	10.4	6	近くに親戚や友人が住んでいるから	5.6
3	住宅を購入したから	27.9	7	その他( )	4.4
4	子どもの教育のため	0.5	8	特にない	0.8

(問2で、「2 できれば市内の他の所へ移りたい」、「3 できれば市外へ移りたい」と回答した方に)

▶ 問2-2 今の所から移りたいという主な理由は何ですか。(○は1つだけ) n=83

1	通勤・通学に不便だから	12.0	4	住宅事情がよくないから	26.5
2	買い物に不便だから	2.4	5	子どもの教育のため	3.6
3	まわりの環境がよくないから	19.3	6	その他( )	32.5
				(無回答)	3.6

<生活環境>

問3 あなたのお住まいのまわりの生活環境についてお伺いします。次にあげる（ア）から（シ）のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。  
（○はそれぞれ1つ） n=977

	満足	まあ満足	少し不満	不満	わからない	(無回答)
回答例 ⇒	1	2	3	4	5	
(ア) 地震・火災・風水害等の災害時の安全さ	6.7	43.0	21.2	8.7	17.6	2.9
(イ) 風紀上・防犯上の安全さ	11.4	53.5	21.4	7.1	4.6	2.0
(ウ) 交通事故・危険物からの安全さ	7.7	50.3	24.8	9.8	5.3	2.1
(エ) 空気や川のきれいさ	7.0	53.1	24.9	8.9	4.1	2.0
(オ) 家のまわりの静けさ	17.7	50.2	19.8	9.8	0.8	1.7
(カ) 公園や緑の豊かさ	18.2	50.4	17.6	9.9	2.1	1.7
(キ) 通勤・通学の便利さ	47.2	38.2	8.6	2.5	1.3	2.3
(ク) 買い物の便利さ	47.2	39.6	8.7	2.7	0.2	1.6
(ケ) 病院や医院までの近さ	35.0	48.4	11.4	2.1	1.3	1.7
(コ) 休日・夜間などの救急医療体制	13.2	40.5	17.5	6.0	20.9	1.8
(サ) 文化施設・スポーツ施設などの近さ	11.4	42.9	24.2	7.6	11.8	2.3
(シ) 区役所の窓口サービス	11.1	53.9	15.7	4.7	12.9	1.7

問4 地域の生活環境を総合的にみた場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。  
（○は1つだけ） n=977

1 満足している	22.7	3 少し不満である	11.7	5 わからない	1.4
2 まあ満足している	61.8	4 不満である	1.0	(無回答)	1.3

問5 住みよい環境とは、どのような所だと思いますか。（○は3つまで） n=977

1 交通網が整い、交通の便が良い	63.6
2 商業機能が充実していて、物価が安い	39.3
3 役所や福祉施設・文化施設などの公共施設が整っている	14.2
4 風紀や治安が良く、災害に対して安全である	52.2
5 都市の基盤が整っており生活し易い	18.2
6 近隣の人々の人間性と人情味が豊かである	12.2
7 生き生きとした活気に満ちている	3.9
8 緑が豊かで、公園や憩いの場が整備されている	34.8
9 大雨でも浸水しない下水道施設が完備されている	9.7
10 大規模病院や、休日・夜間の救急医療体制が整っている	22.8
11 騒音・振動や交通事故の危険がない	14.6
12 その他（	0.9 (無回答) 0.8

<区役所業務の評価・区のイメージ>

問6 次にあげる区役所の仕事で、よくやっていると思うものは、どれですか。(○はいくつでも)

n=977

問7 今後、特に力を入れてほしいと思うものは、どれですか。(○はいくつでも)

n=977

	問6 よくやっている と思うもの (○はいくつでも)	問7 特に力を入れて ほしいと思うもの (○はいくつでも)
回答例 ⇒	①	①
(1) 放置自転車対策	46.5	17.8
(2) 街頭犯罪の防止	12.8	31.3
(3) 地震や風水害への対策	9.5	43.2
(4) 駅周辺の環境整備	40.5	22.8
(5) 道路、歩道の整備	22.9	35.5
(6) 緑地や水辺の整備	26.9	21.3
(7) 建築、開発計画、景観ルールなどまちづくりに関する相談・支援	8.3	14.9
(8) 健康づくりに関する事業	10.6	18.6
(9) 高齢者関係の事業	9.0	31.3
(10) 子ども・子育ての支援	13.9	41.9
(11) 心身の不自由な人の支援	6.8	22.2
(12) 地域の住民同士のつながりを深める事業	7.4	14.0
(13) 市民活動の支援	9.2	7.8
(14) 区の広報・広聴の充実	16.8	6.9
(15) 文化的な催し(音楽祭、コンサートなど)の開催	18.3	14.1
(16) スポーツイベントの開催	15.5	8.5
(17) 区のイメージアップを図り、地域に愛着を持たせる事業	8.2	14.6
(18) 区民と行政が協働でまちづくりを進める仕組みづくり	6.9	12.4
(19) 区役所の窓口サービスの向上	17.2	23.4
(20) 地球温暖化対策に関する事業	4.4	14.1
(21) 区内在住の外国人に対する支援	5.2	6.7
(22) その他( )	0.4	4.7
(23) 特になし	4.2	1.1
(24) わからない	9.2	2.3
(無回答)	9.5	5.9

問8 中原区の「イメージ」として何を思い浮かべますか。(〇はいくつでも)

n=977

1	先端技術産業の集積地	8.2	11	放置自転車が多い	15.7
2	買い物に便利	53.5	12	二ヶ領用水・渋川・矢上川・江川	35.7
3	文化と歴史がある	5.6	13	若者が多い	11.1
4	等々力緑地	60.1	14	車が多い	10.2
5	交通網の発達	48.8	15	騒音	6.2
6	保健・医療設備が充実	9.2	16	公害	1.7
7	中小企業の工場が多い	11.2	17	国際性が豊か	3.4
8	静かな住宅地	15.0	18	郷土芸能・民俗行事	1.2
9	公共施設が多い	5.0	19	その他 ( )	7.2
10	公園が多い	10.1	20	特にない	3.0
				(無回答)	1.9

<中原区役所の広報>

問9 普段、行政情報や地域情報を何から入手していますか。(〇はいくつでも)

n=977

1	市政だより	62.3	7	ラジオ・テレビ	5.4
2	電話での問い合わせ	1.9	8	一般新聞	12.3
3	区役所の情報コーナー	4.3	9	地域情報誌	16.2
4	町内会・自治会の回覧	30.5	10	会社・学校・近所での口コミ	8.2
5	パソコン	18.3	11	その他 ( )	1.8
6	スマートフォン・携帯電話	15.9	12	特にない	12.8
				(無回答)	1.4

問10 行政情報や地域情報を提供するためには、どのような手法がよいでしょうか。(〇は3つまで)

n=977

1	市政だより中原区版を充実させる	44.9	7	スマートフォンアプリ等からも情報を 得られるようにする	31.5
2	区のガイドマップを充実させる	22.7	8	メールマガジンを発行する	8.4
3	チラシを様々な施設におく	10.4	9	タウン誌や地域新聞を活用する	16.4
4	ポスターなどを掲示板に貼る	14.6	10	ラジオ・テレビを活用する	6.4
5	町内会・自治会で回覧する	17.4	11	その他 ( )	1.4
6	ホームページを充実させる	29.7		(無回答)	3.1

問11 現在、区の広報誌としては毎月1日発行の「かわさき市政だより」の中に中原区版(2ページ)がありますが、中原区版はお読みになっていますか。(〇は1つだけ)

n=977

1	毎月読んでいる	26.2	4	ほとんど読んでいない	14.1
2	ほとんど毎月読んでいる	9.3	5	読んでいない	15.9
3	たまに読んでいる	33.5		(無回答)	1.0

問12 今後、区の広報を区民の皆さんの情報源として活かしていくには、どんな内容に重点をおいていくのが良いと思いますか。(〇はいくつでも) n=977

1	区内の文化や歴史の紹介	12.0	
2	区内の出来事やイベント情報 (コミュニティ情報など)	49.0	
3	区内の施設の紹介や利用情報	47.4	
4	区内で生活していく上での便利知識	50.2	
5	区内の名所案内	18.2	
6	トピック・ニュース	7.6	
7	学習・教育情報	14.0	
8	文化情報	12.1	
9	レジャー・スポーツ・レクリエーション情報	30.4	
10	健康・福祉・医療情報	45.4	
11	道路・交通情報	13.0	
12	気象・環境・防災情報	27.2	
13	地域や身近な出来事に関する情報	20.1	
14	その他 ( )	0.9	
15	特にない	3.5	(無回答) 3.1

<中原区役所の環境>

問13 中原区役所をどの位の頻度で利用しますか。(〇は1つだけ) n=977

1	月に数回	1.2	4	半年に1回程度	24.9	7	行ったことがない	2.6
2	月に1回程度	4.1	5	1年に1回程度	33.9			
3	3カ月に1回程度	12.7	6	3年に1回程度	18.6		(無回答)	2.0

問14へ

(問13で、「1」～「6」と回答した方に)

問13-1 中原区役所庁舎についてお伺いします。次にあげる(ア)から(カ)のそれぞれの項目についてどの程度満足していますか。各項目について1つずつ選んでください。

(〇はそれぞれ1つ) n=932

	満足	まあ満足	少し不満	不満	わからない	(無回答)
回答例 ⇒	1	2	3	4	5	
(ア) 区役所までの経路案内	17.5	55.3	10.1	1.8	11.9	3.4
(イ) 庁舎内の窓口案内	16.2	58.3	12.1	2.9	8.3	2.3
(ウ) 待合スペースの広さ	14.8	57.9	16.5	2.9	5.7	2.1
(エ) 窓口のプライバシーへの配慮	8.5	48.0	18.6	6.2	15.7	3.1
(オ) 衛生環境	9.7	52.8	16.2	3.0	15.0	3.3
(カ) 自転車駐輪スペース	9.7	39.7	15.2	4.5	28.9	2.0

<地域包括ケアシステム>

問14 医療、介護、介護予防、住まい、生活支援などが、地域において一体的・包括的に提供される体制づくりである「地域包括ケアシステム」を知っていますか。(○は1つだけ) n=977

1	よく知っている	3.9	3	聞いたことはある	16.4	(無回答)	1.8
2	ある程度知っている	11.4	4	知らない ⇒ 問15へ	66.5		

(問14で、「1 よく知っている」、「2 ある程度知っている」、「3 聞いたことはある」と回答した方に)

→ 問14-1 川崎市の地域包括ケアシステムは子どもから高齢者、障害者などすべての住民を対象としていることを知っていますか。(○は1つだけ) n=309

1	知っている	49.8	2	知らない	47.2	(無回答)	2.9
---	-------	------	---	------	------	-------	-----

問15 地域包括ケアシステムによって取り組むべきだと思うものは何ですか。(○はいくつでも)

n=977

1	高齢者への生活支援	53.6	5	生活上の安心・安全	46.7
2	健康づくり、介護予防	40.4	6	その他 ( )	1.6
3	子育て支援	54.0	7	わからない	7.9
4	障害者支援	34.5		(無回答)	2.7

<健康づくり支援>

問16 区民の皆さんの健康づくりを推進していくためには、どのようなものを充実したほうがよいと思いますか。(○は3つまで) n=977

1	体操教室や運動についての講座	22.1
2	行政が行う健康診断の案内	46.0
3	集会所や公園など身近で自由に活動できる場所	26.1
4	栄養バランスや食育についての講座	14.2
5	一緒に取り組む仲間づくり	9.4
6	介護予防についての講座	12.4
7	健康づくりを指導する人材	11.3
8	健康に関するリーフレット等	8.0
9	歯の健康を守るための講座	5.5
10	子どもの頃からの健康づくり	23.6
11	学校教職員等を対象とした健康づくり指導に関する研修	3.9
12	健診、がん検診を受けやすいよう、夜間、土曜日に受けられる医療機関の案内	43.3
13	タバコの害から健康を守る対策	9.6
14	その他 ( )	2.4
15	特になし	3.2
	(無回答)	2.0

<子育て支援>

問17 子育てを支援するための情報発信として、どのような手法が有効であると思いますか。

(○は3つまで) n=977

1	川崎市や中原区の広報誌	48.5	
2	口コミ	10.5	
3	市や区のホームページ	47.2	
4	市や区以外のホームページ	5.0	
5	保育園、幼稚園、学校等で配られるプリント	38.0	
6	育児本・雑誌等	5.4	
7	テレビ・ラジオ	7.1	
8	SNS (ソーシャルネットワーキングサービス)	26.9	
9	子育てサロンや自主グループ活動等の中で	10.7	
10	町内会、自治会の掲示板や回覧板	22.5	
11	新聞	5.0	
12	区の掲示板	5.1	
13	メールマガジン・メーリングリスト	7.4	
14	その他 ( )	0.6	(無回答) 5.9

問18 あなたは子育ての経験がありますか。(○は1つだけ)

n=977

1	ある	60.5	2	ない ⇒ 問19へ	38.2	(無回答)	1.3
---	----	------	---	-----------	------	-------	-----

(問18で、「1 ある」と回答した方に)

→ 問18-1 普段利用している、もしくは利用したことのあるサービスを教えてください。

(○はいくつでも) n=591

1	中原区の子育てサロンや地域ボランティアが行う子育てふれあい広場 (自主サロン)	21.3
2	認可保育所の園庭開放や交流行事	18.1
3	保育園一時預かり (認可保育所)	10.7
4	保育園一時預かり (認可外保育施設)	8.0
5	保育園一時預かり (認可か認可外か不明)	2.7
6	こども相談窓口	4.2
7	ふれあい子育てサポート事業	3.6
8	民間のベビーシッター	3.2
9	子育てに関する来所相談窓口	2.7
10	川崎市産前・産後家庭支援ヘルパー派遣制度	2.9
11	シルバー会員による子育て支援サービス	1.5
12	その他 ( )	2.5
13	サービスを利用したことはない	45.2
	(無回答)	7.6

<動物の適正飼育>

問19 あなたは現在犬を飼っていますか。(○は1つだけ)

n=977

1 飼っている	7.1	2 飼っていない ⇒ 問20へ	92.0	(無回答)	0.9
---------	-----	-----------------	------	-------	-----

(問19で、「1 飼っている」と回答した方に)

→ 問19-1 犬の飼い主には、現在居住している市町村に飼い犬の登録をすることが法律で義務付けられていることを知っていますか。また、登録していますか。(○は1つだけ) n=69

1 知っており、登録している	78.3
2 知っているが、登録していない	1.4
3 知らなかったが、登録している	4.3
4 知らないし、登録していない	2.9
(無回答)	13.0

(問19で、「1 飼っている」と回答した方に)

→ 問19-2 犬の飼い主には、飼い犬に年1回の狂犬病予防注射を受けさせることが法律で義務付けられていることを知っていますか。また、予防接種を受けさせていますか。(○は1つだけ) n=69

1 知っており、受けさせている	89.9
2 知っているが、受けさせていない	4.3
3 知らなかったが、受けさせている	0.0
4 知らないし、受けさせていない	2.9
(無回答)	2.9

問20 あなたは現在猫を飼っていますか。(○は1つだけ)

n=977

1 飼っている	5.0	2 飼っていない ⇒ 問21へ	92.8	(無回答)	2.1
---------	-----	-----------------	------	-------	-----

(問20で、「1 飼っている」と回答した方に)

→ 問20-1 本市では、猫の交通事故や迷子、猫同士の感染症等を防止するために、猫の完全室内飼いを推奨していますが、飼い猫を室内飼いしていますか。(○は1つだけ) n=49

1 完全室内飼いをしている	85.7
2 室内と屋外との出入りを自由にしている	12.2
3 屋外で飼っている	2.0

<東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催>

問21 川崎市では英国を相手国にホストタウンとしての取り組みを進めています。中原区では、等々力陸上競技場等の施設が海外選手団の事前キャンプに活用される予定があるということを知っていますか。(○は1つだけ) n=977

※ホストタウンとは…東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体のこと

1 知っている	18.7	2 知らない	80.7	(無回答)	0.6
---------	------	--------	------	-------	-----

問22 川崎市がホストタウンとしての取り組みを進めることが地域に与える影響として、期待することとは何ですか。(○はいくつでも) n=977

1 経済活性化	38.8
2 観光産業の活性化	17.5
3 国際交流の活性化	52.0
4 スポーツ活動の活性化	31.2
5 まちが整備されて暮らしやすくなる	35.7
6 地名などの知名度が高まる	19.5
7 試合観戦などを通じて、地域社会の一体感が高まる	22.8
8 警備やテロ対策が強化され、治安が良くなる	23.0
9 その他 ( )	2.0
10 特にない	8.4
(無回答)	2.3

問23 東京大会の開催について、今後どのような情報を知りたいと思いますか。(○はいくつでも) n=977

1 ボランティア募集など、大会運営に関する情報	32.2
2 川崎市の取り組みなど、2020年に向けた今後の動向に関する情報	59.8
3 オリンピックの競技や選手の情報	28.6
4 パラリンピックの競技や選手の情報	17.0
5 グローバルマナーなど、おもてなしに関する情報	29.0
6 その他 ( )	1.5
7 特にない	15.6
(無回答)	2.1

問24 東京大会に対して、どのような形で参加したいですか。(○はいくつでも)

n=977

1	競技場などに行って観戦・応援したい	59.1
2	運営スタッフ・ボランティアとして参加したい	20.2
3	地域活動(おもてなしなど)を通じて貢献したい	16.4
4	仕事を通じて貢献したい	10.1
5	スポーツイベント・教室等へ参加したい	10.6
6	その他( )	1.5
7	特に関わりたいと思わない	25.5
	(無回答)	2.7

問25 東京大会に向けて、どのような分野に力をいれていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

n=977

1	スポーツ振興(アスリートの育成や体力向上等)	32.8
2	産業振興、観光振興、文化振興(地域活性化等)	31.9
3	障害のある人への理解や配慮	34.2
4	観光案内板やパンフレットなどの多言語化	32.9
5	オリンピック・パラリンピックの理念やグローバルマナーなどの学習機会の充実	21.5
6	大会を盛り上げるための気運醸成	14.9
7	安全・安心の向上	57.2
8	その他( )	2.8
9	現状でよい	6.4
	(無回答)	4.6

問26 東京大会に向けて、区内の外国人観光客が増加する傾向を踏まえ、区はどのような取り組みを重点的に進めるべきだと思いますか。(○は3つまで)

n=977

1	外国語の観光案内板・誘導標識の整備	68.3
2	観光従事者への外国語研修等の充実	20.2
3	ボランティア通訳の育成への支援	35.1
4	外国人観光客の誘客宣伝活動(プロモーション)の充実	11.4
5	外国語観光パンフレット等の宣伝物の充実	24.7
6	飲食店、商店等での外国語表示の支援	36.2
7	その他( )	5.9
8	特にない	8.1
	(無回答)	4.7

<あなたご自身について>

F 1 あなたの性別をお聞かせください。(○は1つだけ) n=977

1	男性	44.4	2	女性	53.1	(無回答)	2.5
---	----	------	---	----	------	-------	-----

F 2 あなたの年齢をお聞かせください。(○は1つだけ) n=977

1	18～19歳	1.3	3	30～39歳	18.8	5	50～59歳	16.7	7	70歳以上	12.5
2	20～29歳	9.6	4	40～49歳	22.2	6	60～69歳	16.4		(無回答)	2.5

F 3 あなたの現在の職業をお聞かせください。(○は1つだけ) n=977

1	自営業	6.2	6	内職	0.3
2	家族従業(家事手伝い)	0.9	7	専業主婦	14.9
3	勤め(全日)	46.3	8	学生	2.5
4	勤め(パートタイム)	10.7	9	無職	12.8
5	フリーアルバイト	1.7	10	その他( )	1.0
				(無回答)	2.6

F 4 あなたのお勤め先または通学先をお聞かせください。(○は1つだけ) n=977

1	川崎市(中原区)	19.2	5	東京都(23区内)	31.1
2	川崎市(他の区)	8.5	6	東京都(23区外)	1.1
3	横浜市	7.2	7	その他( )	2.0
4	神奈川県内(川崎、横浜以外)	1.6	8	通勤・通学していない	26.4
				(無回答)	2.8

F 5 あなたのお住まいをお聞かせください。(○は1つだけ) n=977

1	小杉地区(市ノ坪、今井上町、今井仲町、今井西町、今井南町、小杉、小杉御殿町1・2丁目、小杉陣屋町1・2丁目、小杉町1～3丁目、等々力)	19.5
2	玉川地区(上平間、北谷町、下沼部、田尻町、中丸子)	12.3
3	大戸地区(上小田中1～7丁目、上新城1・2丁目、下小田中1～6丁目、下新城1～3丁目、新城、新城1～5丁目、新城中町、宮内1～4丁目)	31.9
4	丸子地区(上丸子、上丸子山王町1・2丁目、上丸子天神町、上丸子八幡町、新丸子東1～3丁目、新丸子町、丸子通1・2丁目)	11.6
5	住吉地区(井田1～3丁目、井田三舞町、井田杉山町、井田中ノ町、大倉町、荳宿、木月1～4丁目、木月伊勢町、木月祇園町、木月住吉町、木月大町、西加瀬)	21.8
	(無回答)	2.9

F 6 普段あなたがよく利用する最寄駅はどちらですか。(○は1つだけ) n=977

1	J R武蔵小杉	18.5	4	J R向河原	1.8	7	東急新丸子	10.2	10	その他	
2	J R武蔵中原	17.0	5	J R平間	6.8	8	東急元住吉	17.0	( )	1.3	
3	J R武蔵新城	9.5	6	東急武蔵小杉	13.3	9	東急日吉	1.8	(無回答)	2.7	

F 7 普段あなたは最寄駅までどのような手段で行きますか。(○は1つだけ) n=977

1	徒歩のみ	75.4	3	バイクで	0.0	5	車で	0.6
2	自転車で	17.7	4	バスで	4.7	(無回答)	1.5	

F 8 あなたのお住まいの形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=977

1	持家(一戸建)	28.1	5	民間アパート	9.1
2	持家(マンション・団地)	34.9	6	社宅・寮・公務員社宅	2.9
3	借家(一戸建)	1.5	7	その他( )	0.4
4	借家(マンション・団地)	21.8	(無回答)	1.2	

F 9 現在、一緒にお住まいの方はあなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ) n=977

1	1人 ⇒ F10へ	15.1	3	3人	27.1	5	5人	4.7	7	7人以上	1.0
2	2人	29.5	4	4人	19.8	6	6人	1.7	(無回答)	1.0	

(F 9で、「2」～「7」と回答した方に)

▶ F 9-1 また、一緒にお住まいの方で次にあてはまる方は何人いますか。  
(該当する年代に○を付け、人数をお書きください) n=819

1	未就学児(平均1.20)人	15.5	3	中学生(平均1.09)人	6.7	5	いない	45.2
2	小学生(平均1.35)人	14.0	4	高校生(平均1.06)人	8.2	(無回答)	20.3	

(F 9で、「2」～「7」と回答した方に)

▶ F 9-2 また、一緒にお住まいの方であなたとは別に65歳以上の方はいますか。(○は1つだけ) n=819

1	はい	27.6	2	いいえ	68.7	(無回答)	3.7
---	----	------	---	-----	------	-------	-----

F 10 あなたは町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ) n=977

1	はい	59.5	2	いいえ	39.2	(無回答)	1.3
---	----	------	---	-----	------	-------	-----

F 11 あなたはインターネットを利用していますか。(○は1つだけ) n=977

1	はい	78.2	2	いいえ	20.7	(無回答)	1.1
---	----	------	---	-----	------	-------	-----

以上でアンケートは終了です。  
御協力大変ありがとうございました。

# 中原区区民アンケート 報告書

平成28年9月

川崎市中原区役所まちづくり推進部企画課

川崎市中原区小杉町3-245

電話 (044) 744-3149

FAX (044) 744-3340